

ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争アルトキハ前條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ

行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章 附則

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

●砂防法施行規定

(明治三十年十月勅令第三百八十二號)

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行為ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合

ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 砂防法第六條第一項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條 內務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシムトスルトキハ少クとも五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參

事會、町村長町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ內務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クとも五月前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クとも十五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クとも七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲メニ効用ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖內務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

第十五類 鑛業 森林

第一章 鑛業

- 鑛業法 一
- 鑛業法施行細則 一三

第二章 森林

- 森林法 三六
- 森林法施行規則 四八
- 保安林取扱心得 五八
- 國有林野法 六二
- 國有林野法施行規則 六五
- 國有土地森林原野下戻法 七八
- 國有土地森林原野下戻法適用心得 七八
- 官有森林交換規程 八一

- 官有森林原野ヲ民有ニ引戻ス請
求手續 八二

- 御料地下戻申請ノ件 八三

第十五類 鑛業 森林

第一章 鑛業

●鑛業法

(明治三十八年三月法律第四十五號)

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、銻鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿侖鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、磷鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセスシテ單一一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セス (四十年法律第四十號ヲ以テ本項追加)

第三條 未ダ掘探セサル鑛物(廢鑛及鑛滓ヲ含ム)ハ國ノ所有トス

第四條 本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ

謂フ

鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル

第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サルハ鑛業權者トナルコトヲ得ス

第六條 本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督署長ニ届出ヘシ其ノ届出ナキトキハ鑛山監督署長之ヲ指定ス

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第八條 本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ従事スル勞役者ヲ謂フ

第九條 本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登録ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ヲ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以内並要塞地第一區内ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内並要塞地帶第二區及第三區内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 鐵道、軌道、道路、運河、河川、沼池、隄塘、社寺境内地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ鑛業ノ爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ鑛業ノ爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

應ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第十四條 本法ハ第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

第二章 鑛業權

第十五條 鑛業權ハ物權トシ不動産ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第七十九條第一項ノ規定ハ此限ニ在ラス

第十六條 鑛業權ハ不可分トス

第十七條 鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ探掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條 試掘權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二箇年トス前項ノ期限ハ鑛區ノ増減又ハ改正ノ爲變更セララルコトナシ

第十九條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登録ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登録ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登録ハ登記ニ代ルモノトス

第二十條 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續、期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅並第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登録ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條 鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ鑛山監督署長、探掘ニ付テハ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二十二條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督署長、探掘ニ付テハ農商務大臣ニ届出ヲ爲スニ非サレ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條 探掘出願人ハ出願地ニ其ノ探掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地探掘ニ適スルモノト認メタルトキハ探掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ探掘ノ出願ヲ爲サルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ探掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲サルトキハ探掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ探掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條 探掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 探掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ礦物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 礦業出願地他人ノ礦區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ礦物ナルトキハ礦山監督署長ハ之ヲ礦業權者ニ通知スヘシ

礦業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ラ其ノ礦業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ礦業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第一項ノ出願他人ノ礦業ニ妨害アリト認めタルトキハ之ヲ許可セス

第三十二條 公益ヲ害スルモノト認めタルトキ又ハ礦業ノ價值ナシト認めタルトキハ礦業ノ出願ヲ許可セス

第三十三條 試掘出願地又ハ探掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日時ノ先ナル者

優先權ヲ有ス願書發送ノ日時同一ナルトキハ礦山監督署長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ届出ヘシ

出願人前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リ優先權

者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條、第三十一條第二項及第三十六條ノ場合ニ之ヲ適用セス

試掘出願地探掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ探掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十四條 試掘出願人同種ノ礦物ニ付更ニ探掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ出願地重複スルトキハ其ノ重複

スル部分ニ付テハ探掘ノ出願ハ試掘願書發送ノ日時ニ於テ試掘ノ出願ニ代リタルモノト看做ス但シ前條第四項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項本文ノ規定ハ探掘出願人同種ノ礦物ニ付更ニ試掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第二十四條及第二十五條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ出願ニ之ヲ適用セス

第三十五條 探掘權者ハ礦區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得礦區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ礦區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第三十六條 礦床ノ位置形狀ニ依リ鄰接スル他人ノ礦區ニ掘進スルノ必要アルトキハ鄰接礦業權者ノ承諾ヲ經テ礦區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得但シ鄰接礦業權者ハ

正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十七條 第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ礦區ニ準用ス

第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣

ハ探掘權ヲ取消スヘシ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ礦區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第三十八條 錯誤ニ因リ礦業ノ出願ヲ許可シタルトキハ農商務大臣ハ礦區ノ改正ヲ命シ又ハ礦業權ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣ハ礦業權ヲ取消スヘシ

第三十九條 礦業公益ヲ害スルモノト認めタルトキハ農商務大臣ハ礦業權ヲ取消スヘシ

第四十條 礦業權者正當ノ理由ナクシテ登録ノ日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ着手セス若ハ一箇年以上休業シタル

トキ又ハ施業案ニ依ラスシテ探掘ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ礦業權ヲ取消スコトヲ得

第四十一條 礦業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ礦業稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ礦業權ヲ取消スコトヲ得

第四十二條 探掘權取消ノ登録アリタルトキハ礦山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ探掘權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル探掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

探掘權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競賣人ハ探掘權取消ノ登録アリタル時ニ於テ探掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第四十三條 前條ノ規定ハ探掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ礦山監督署長ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦

同シ

採掘權者ハ施業案ニ依ルニ非サレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條 鑛山監督署長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ變更シタル施業案ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四十六條 採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ複本ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十七條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十八條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十九條 鄰接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付鑛山監督署長ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第三章 土地使用

第五十條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十二條乃至

第五十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第五十一條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十二條 鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入りラムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十三條 前條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滯ナク之ヲ土地占有者

ニ通知スヘシ

第五十五條 前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十六條 鑛業權者ハ左ニ掲クル目的ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

- 一 錐鑽孔又ハ坑口開穿
- 二 鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置
- 三 選鑛場又ハ製鍊場ノ建設
- 四 鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管樋、池井、索道又ハ電線ノ開設

五 其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

鑛山監督署長前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第五十七條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者

ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十一條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十二條 第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得

第六十三條 第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失

ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十四條 土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六十五條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキト雖礦業權者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第六十六條 礦業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サヌ又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第六十七條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ礦業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

第六十八條 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ礦業權者ハ土地ヲ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生ズル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第六十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第四章 礦業警察

第七十一條 礦業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及鑛山監督署長之ヲ行フ

- 一 建設物及工作物ノ保安
- 二 生命及衛生ノ保護
- 三 危害ノ豫防其ノ公益ノ保護

第七十二條 礦業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ農商務大臣ハ礦業權者ニ其ノ豫防又ハ礦業ノ停止ヲ命スヘシ

第七十三條 農商務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

第七十四條 礦業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及鑛山監督署長ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ礦業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲ス

ヘキコトヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ礦業權者ト看做ス

第五章 鑛夫

第七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間並婦女、幼者ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條 鑛夫自己ノ重大ナル過失ニ因ラスシテ業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫又ハ其ノ遺族ヲ扶助スヘシ

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テハ十錢、採掘ニ付テハ四十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負傷シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス

鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ

但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各本稅百分ノ十以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

前項ノ附加税ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課税スルコトヲ得ス
前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區並間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第七章 訴願 訴訟及裁決

第八十九條 鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條 第十一條又ハ第三十六條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條 土地ノ使用者ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ

鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十三條 處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケサル者ニ付テハ其ノ公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八章 罰則

第九十四條 鑛業權ヲ所有セスシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第九十六條 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第一百條 第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業税ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ脱税金額三倍ニ相當スル罰

金ニ處ス

第一百二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用キス

第一百三條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一百四條 鑛業權者ハ其ノ代理人戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第一百五條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

附 則

第一百六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第九條 日本坑法ニ依ル借區ノ許可及鑛業條例ニ依ル探掘ノ特許ハ探掘權ノ登錄ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第二項ニ定メタル面積ニ滿タサル鑛區ニ對スルモノハ其ノ期限ノ到來ニ因リテ消滅ス

第十條 本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ探掘區域ハ探掘區トシ本法施行ノ日ニ於テ探掘權ノ登錄ヲ得タルモノト看做ス

第十一條 鑛業條例ニ依ル探掘權ノ書入ノ登錄ハ抵當權ノ登錄ト看做ス

第十二條 第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ探掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ期間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十三條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ探掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第十四條 明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得

タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

第十五條 第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ限リテ適用セス

第十六條 鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第十七條 本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定ニ依ル

第十八條 鑛業條例ニ依リ試掘又ハ探掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス

第十九條 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛鑛ヲ掘採スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物探掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其探掘區域ニ限リ第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ前項ノ探掘者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ探掘ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條 第一項ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未

滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第二十一條 明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ探掘スル者ハ同條同項但書ニ該當セザル場合ト雖明治四十年六月三十日迄ニ其ノ旨鑛山監督署長ニ届出ルトキハ其ノ届出ニ係ル坑井ヨリ噴出スル可燃質天然瓦斯ニ限リ本法ヲ適用セス (四十年法律第四十號ヲ以テ本條追加)

鑛業法施行細則 (明治三十八年六月號 商務省令第十七號)

第一條 願書、申請書、届書及圖面ハ一件毎ニ之ヲ調製シ様式ノ定アルモノニ付テハ其ノ様式ニ準スヘシ

第二條 農務商大臣又ハ鑛山監督署長ニ差出シタル書面、圖面又ハ標品ニシテ必要ト認ムルモノハ之ヲ返付セス

第三條 鑛業ニ關シ命令又ハ通知ヲ發スル場合ニ於テ受信人ノ住所不分明ナルキトハ十日間其ノ要旨ヲ鑛山監督署ノ揭示場ニ揭示スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ニ命令又ハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第四條 本則ノ規定ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本則中鑛業ノ出願ニ關スル規定ハ鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付テハ準用ス

第六條 書面又ハ圖面不完全ナルトキハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ修正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得

第七條 書面又ハ圖面ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ消印記號ニ記載シタル日時ニ差出シタルモノト看做ス郵便物受取證ニ依リテ消印記號ニ記載シタル日時外ノ日時ニ差出シタルコトヲ證明シタルトキハ其ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス其ノ消印記號ナキ場合又ハ其ノ不明ナル場合ニ於テ郵便物受取證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證明シタルトキ亦同シ

第八條 農務商大臣ニ差出スヘキ書面又ハ圖面ハ鑛山監督署長ヲ經由スヘシ此ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ニ差出シタル日時ヲ以テ差出ノ日時ト看做ス

第九條 同一地域ニ於テ二種以上ノ鑛物ニ付鑛業ヲ爲サムトスル者ハ各種ノ鑛物毎ニ願書ヲ差出スヘシ但シ同一ノ鑛床中ニ存スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 鑛業ノ許可ヲ得タル鑛物ノ名稱ヲ更正セムトスルトキハ願書ニ理由書ヲ添附シテ差出スヘシ

第十一條 共同鑛業出願人ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ届書ヲ差出スヘシ

共同礦業出願人ハ願書ニ代表者ヲ表示シテ前項ノ届出ニ代フルコトヲ得

前二項ノ規定ハ出願人ノ變更、礦業權ノ設定又ハ移轉ニ因リ礦業出願人又ハ礦業權者ト爲ルヘキ者二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 共同礦業出願人又ハ共同礦業權者代表者ヲ改定シタルトキハ遲滞ナク連署シテ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十三條 礦業法第七條第一項ノ規定ニ依リ鑛山監督署長代表者ヲ指定シタルトキハ之ヲ共同礦業出願人又ハ共同礦業權者ニ通知スヘシ

第十四條 礦業出願人代表者ニ依リテ礦業出願ノ取下、區域増減ノ出願又ハ出願人ノ變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ届書ニ其ノ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添付スヘシ

前項ノ規定ハ代表者ニ依リテ鑛區ノ増減、合併又ハ分割ヲ出願スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 礦業ニ關スル出願ニシテ鑛利保護上又ハ鑛區分合上出願地及鑛區ノ面積百萬坪ヲ超ユル場合ニ於テハ願書ニ其ノ理由書ヲ添付スヘシ

第十六條 礦業ノ出願地鑛業法第十條第二項ノ場所ニ係ルトキハ出願ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄官廳ノ許可書

若ハ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書面又ハ許可ヲ申請シタルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十七條 礦業出願地ノ形狀鑛業ヲ爲スニ不適當ナリト認ムルトキハ鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ許可ヲ經相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ増減ヲ命スルコトヲ得

第十八條 鑛業出願人他人ノ鑛區ニ鄰接シテ鑛區ヲ定メムトスルトキハ中間ニ十間以上ノ距離ヲ置クヘシ但シ鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ試掘鑛區ノ範圍内ニ於テ採掘ヲ出願スルトキハ此限ニ在ラス

前項鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキハ願書ニ承諾書ヲ添付シテ差出スヘシ之ヲ添付セザルトキハ承諾ナキモノト看做ス (三十九年農商務省令第十五條ヲ以テ本項追加)

鑛業ノ監督又ハ鑛利保護ノ爲前項ノ距離ノ延長又ハ減縮ヲ必要ナリト認ムルトキハ鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ増減ヲ命スルコトヲ得

第十九條 鑛業願書ニ添付スヘキ圖面ハ様式第十四號ニ準シテ調製シ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

- 一 出願地ノ名稱及種目
- 二 出願地ノ面積
- 三 南北線

第二十三條 出願地ノ實測ニ關スル事實ヲ認定スル爲必要アリト認ムルトキハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シ測量者ノ署名捺印シタル原圖、野帳又ハ其ノ寫其ノ他測量ノ事實ヲ證スヘキ書類ノ提出ヲ出願人ニ命スルコトヲ得

第二十四條 鑛山監督署長ハ鑛業ニ關スル出願又ハ鑛區ニ付實地調査ヲ必要ト認ムルトキハ調査事項及調査期日ヲ指定シ出願人又ハ鑛業權者ニ立會ヲ命スルコトヲ得若シ調査期日ヲ指定スルコト能ハサルトキハ豫定期日ヲ定メ確定期日ハ出張吏員ノ指定ニ依ルヘキコトヲ命スヘシ

出張吏員カ確定期日ヲ指定スルトキハ少クトモ三日前ニ之ヲ通知スヘシ但シ出願人又ハ鑛業權者ニ於テ異議ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 一、鑛業出願人變更ノ届書ニハ新舊出願人連署スヘシ (四十年農商務省令第八號ヲ以テ本條第一號トス)

二、試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲナシタル後出願人ノ變更ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ試掘權ノ移轉ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

三、試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲シタル後試掘權ヲ移轉シタルトキハ出願人變更ノ届出アリ

四 縮尺

二箇以上ノ不動基點並其ノ名稱及特徵

六 出願地ノ各隅トナルヘキ測點並其ノ番號

七 境界線並基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數

八 出願地ヨリ五十間以内ニ於ケル他ノ鑛區トノ關係

九 出願地又ハ其附近ニ於ケル鑛床ノ露頭其ノ走向、傾斜

十 出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條又ハ第十一條ニ記載シタルモノ

前項ノ圖面ニハ其ノ出願地ヲ實測シタル測量者ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ但シ鑛山監督署ニ於テ實測シタル圖面ニ適合スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 採掘出願人ハ其ノ願書ニ採掘セムトスル鑛物ノ鑛床ニ關スル説明書ヲ添付スヘシ

第二十一條 試掘又ハ採掘ノ願書及出願地又ハ鑛區ノ増減ノ願書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ發送郵便局ヨリ受附ノ年月日及時刻ヲ記載シタル受取證ヲ請置クヘシ

第二十二條 鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シ出願人ニ鑛業ノ設備ニ關スル設計書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

タルモノト看做ス (同上ヲ以テ本條二、三追加)

第二十六條 相續ニ因リテ鑛業出願人ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業出願人ハ戶籍吏ニ届出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以内ニ其ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ法人ノ代表者ヲ變更シタルトキモ亦同シ (同上ヲ以テ本條改正)

第二十七條 共同鑛業出願人脱退シタトキハ代表者ハ脱退ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ理由ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第二十八條 探掘出願地ノ訂正願書ニハ訂正理由書ヲ添附スヘシ

第二十九條 探掘出願地ノ訂正又ハ鑛業出願地ノ増減ノ願書ニ添附スヘキ圖面ニハ新舊出願地ノ關係ヲ明示スヘシ

第三十條 鑛業法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル抽籤ハ關係鑛業出願人立會ノ上鑛山監督署長之ヲ行フ
鑛山監督署長ハ抽籤ノ日時ヲ定メ少クトモ十四日前ニ關係鑛業出願人ニ通知スヘシ
前項ノ通知ヲ受ケタル鑛業出願人抽籤日時ニ出頭セサルトキハ鑛山監督署長ハ二名以上ノ鑛山監督署職員立

會ノ上之ヲ行フ

第三十一條 鑛區ノ合併又ハ分割ノ願書ニハ理由書ヲ添附シ且之ニ添附スヘキ圖面ニハ合併又ハ分割スヘキ區域ノ關係ヲ明示スヘシ但シ分割ノ願書ニ添附スヘキ圖面ハ各區域毎ニ之ヲ調製スヘシ

鑛業法第三十五條第二項ノ規定ニ依ル抵當權者ノ承諾書及抵當權ノ順位ニ關スル協定書ハ合併又ハ分割ノ願書ニ之ヲ添附スヘシ

第三十二條 鑛業法第三十六條ノ規定ニ依ル鑛區訂正ノ願書ニハ鑛床圖、其ノ説明書及鄰接鑛業權者ノ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第三十三條 鑛區訂正ノ願書ニ關シテハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 鑛區ノ訂正、増減又ハ改正ノ願書ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 鑛業法第三十七條第三項ノ規定ニ依ル減區又ハ増減區ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第三十六條 鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ
出願人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登

録ヲ申請スヘシ

前項ノ期間内ニ登録ヲ申請シタルモ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ在リテハ前項ノ期間後ト雖モ更ニ登録ヲ申請スルコトヲ得 (三十九年農商務省令第十五號ヲ以テ追加)

第三十七條 鑛區ノ境界又ハ面積カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ鑛業權ノ表示ノ變更ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ命令書ニ調査圖ヲ添附スヘシ

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ハ願書、申請書又ハ届書ヲ受理セス

一 試掘又ハ探掘出願地ノ全部カ所轄鑛山監督署ノ管轄區域内ニ在ラサルトキ

二 出願ノ鑛物カ鑛業法第二條ノ規定ニ該當セサルトキ

三 圖面ヲ添附スヘキ鑛業ノ願書ニ之ヲ添附セサルトキ又添附圖面ニ依テ區域分明セサルトキ (四十年農商務省令第八號ヲ以テ本條改正)

四 手数料ヲ納付セサルトキ

五 同上ヲ以テ削除

第六 第十四條ノ規定ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ

第七 第二十一條ノ規定ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出サルトキ

八ノ一 第二十五條ノ規定ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ (同上ヲ以テ本號ヲ八號ノ一トス)

八ノ二 第二十五條ノ二ノ規定ニ違背シテ試掘權ノ移轉ヲ證明スル書面ヲ添附セサルトキ (同上ヲ以テ追加)

九 第三十一條第二項ノ規定ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ

十 第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ違背シ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附セサルトキ

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長願書又ハ届書ヲ却下ス (同上ヲ以テ本號中改正)

一 實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ指定シタル調査事項ノ説明ヲ爲スコト能ハサルトキ (同上ヲ以テ本號中改正)

二 出願人ノ指示スル區域カ願書ニ添附シタル圖面ト著シク相違スルトキ

三 第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ

四 第十六條ニ規定シタル期間内ニ許可書又ハ證明書ヲ差出ササルトキ

五 第十七條又ハ第十八條第三項ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ區域増減ノ願書ヲ差出ササルトキ (三十九年農商務省令第十五號ヲ以テ本號改正)

六 第二十二條ノ規定ニ係ル命令ノ期限内ニ設計書ヲ差出ササルトキ

七 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ原圖、野帳若ハ其ノ寫又ハ測量ノ事實ヲ證スヘキ書類ヲ差出ササルトキ

八 第二十四條ノ規定ニ依リテ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲ササルトキ

九 第三十六條ニ規定シタル期間内ニ登録申請書ヲ提出シ又ハ郵便ニ附セサルトキ

十 第七十九條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ協定書ヲ差出ササルトキ

第四十條 相續ニ因リテ鑛業權者ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業權者ハ戶籍吏ニ届出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以内ニ其ノ登録ヲ申

請スヘシ法人ノ代表者ヲ變更シタルトキハ之ニ準シテ其ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ (同上ヲ以テ條中改正)

第四十一條 鑛業權者鑛業ニ著手シタルトキハ遲滞ナク鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第四十二條 試掘權者ハ試掘鑛區圖及試掘工程表ヲ、採掘權者ハ坑内實測圖及鑛業簿ノ外採掘鑛區圖及鑛業施業案ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第四十三條 鑛業權者ハ鑛業權ノ設定若ハ移轉ノ登録アリタル日ヨリ六箇月以内ニ事業ニ著手セヌ又ハ六箇月以上休業セムトスルトキハ理由ヲ詳記シテ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

休業期間内ニ事業ニ著手シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第四十四條 鑛業施業案ニハ鑛床、探鑛及開坑、探鑛、選鑛、製鍊ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ説明スヘキ圖面ヲ添ヘ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ差出スヘシ (同上ヲ以テ本條改正)

一 鑛床ニ關スル事項(本條改正ト共ニ以下各號自然消滅)

主要ナル鑛床ノ位置、幅(又ハ厚サ)、走向、傾斜等

主要ナル鑛層ノ位置及其ノ鑛床ニ及ホス影響

主鑛物及副鑛物ノ種類並其ノ品位

母岩ノ種類及其ノ性質殊ニ其ノ開鑿、支柱等ノ工事ニ及ホス影響

二 探鑛及開坑ニ關スル事項

目的トスル鑛床ノ位置及探鑛ノ順序、方法

新設スヘキ嚙坑、斜坑又ハ横坑ノ位置、方向、大サ、延長、落成期間、開鑿ノ方法及其ノ目的並坑口ニ於ケル裝置

通氣、排水及運搬ノ方法

使用人員及原動力

水、瓦斯、磐石等ニ原因スル操業上危險ノ有無及其ノ豫防方法

三 採鑛ニ關スル事項

目的トスル鑛床ノ位置、名稱及其探掘ノ順序、方法

粗鑛量並其ノ最低品位及平均品位

坑水及捨石ノ量、其ノ品質及處置

通氣、排水及運搬ノ方法

使用人員及原動力

水、瓦斯、磐石等ニ起因スル操業上危險ノ有無及其ノ豫防方法

四 選鑛ニ關スル事項

選鑛ノ順序、方法

精鑛ノ種類、其ノ量及品位並粗鑛量

廢水及鑛滓ノ量、其ノ品質及處置

使用人員及原動力

五 製鍊ニ關スル事項

製鍊ノ順序、方法

精鑛量並製産物ノ種類及其ノ量

烟、廢水及鑛滓ノ量、其ノ品質及處置

使用人員及原動力

鑛業ノ種類又ハ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キモノアルトキハ理由ヲ明示シ前項ノ記載事項ヲ増減スルコトヲ得

第四十五條 鑛山監督署長ハ鑛業法第四十五條第一項ノ規定ニ依リ施業案ノ變更ヲ命スルニハ少クトモ三十日以上ノ期限ヲ附スヘシ

第四十六條 鑛業法第四十五條第二項ノ規定ニ依ル變更願書ニハ新ナル施業案及變更ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添附スヘシ

第四十七條 坑内實測圖ハ平面圖及截面圖ノ二種トシ少クトモ毎月末ニ於ケル掘進ノ狀況ヲ測定シ翌月中ニ調

製スヘシ

坑内實測圖ノ複本ハ石炭坑ニ在リテハ毎年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各八月末日及二月末日迄ニ其ノ他ニ在リテハ毎年十二月末日迄ノ分ヲ二月末日迄ニ差出スヘシ但シ鑛山ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ鑛山監督署長ハ何時ニテモ坑内實測圖ノ複本ノ提出ヲ命シ又ハ其ノ提出期若ハ提出回数ノ變更ヲ命スルコトヲ得

(四十年農商務省令第八號ヲ以テ本項改正)

前項ノ規定ニ依リテ差出シタル前期ノ坑内實測圖複本ハ請求ニ因リテ之ヲ下附ス

第四十七條ノ二 第二十三條ノ規定ハ坑内實測圖ニ關シ之ヲ準用ス (三十九年農商務省令第十五號ヲ以テ追加)

第四十八條 鑛業簿ニハ鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

鑛業簿ノ複本ハ毎年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各七月末日及一月末日迄ニ差出スヘシ

第四十九條 前二條ノ規定ニ依リテ調製シ若ハ差出スヘキ書類又ハ圖面ハ探掘權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ探掘權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登録ノ日ヨリ三十日以内ニ調製シ若ハ差出スヘシ

第五十條 鑛業明細表ハ毎年一月末日迄ニ其ノ前年ニ於

ケル鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載シテ差出スヘシ

第五十一條 前條ノ規定ニ依リテ差出スヘキ書類ハ鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ鑛業權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登録ノ日ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

第五十二條 前五條ノ規定ニ依リテ坑内實測圖若ハ鑛業簿ノ複本又ハ鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第五十三條 二箇以上ノ鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ第四十四條及第四十六條乃至第五十一條ノ書類又ハ圖面ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第五十四條 鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セザルトキハ鑛業代理人ヲ選任シ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

前項ノ代理人ハ鑛業法及鑛業法ノ施行ニ關スル命令ノ規定ニ依リテ鑛業ノ管理ニ關シ鑛業權者ノ爲スヘキ一切ノ手續其ノ他ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ鑛業權者ハ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ヘシ

第五十五條 試掘權者ハ試掘工程表ヲ調製シテ一箇月毎ニ開坑ニ關スル狀況、鑛產物ノ數量、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

第五十六條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ヲ處分セムトスルトキハ其ノ方法及數量ヲ記載シ鑛山監督署長ニ出願スヘシ

第五十七條 鑛業法第四十九條ノ規定ニ依ル實地調査ノ願書ニハ調査區域及其ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添付スヘシ

鑛山監督署長調査ヲ要スルモノト認メタルトキハ調査日數並ニ之ニ要スル人夫及物品ノ豫定書ヲ調製シ出願ニ交付スヘシ

出願人ハ人夫及物品ヲ準備シ現場ニ立會フヘシ

第五十八條 鑛業法第五十二條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲サムトスル者ハ土地ノ名稱、種目及其ノ目的ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第五十九條 鑛業法第五十三條ノ規定ニ依リテ障礙物ヲ除去セムトスル者ハ障礙物ノ種類、名稱、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱並豫定價額ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第六十條 鑛業法第五十四條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用セントスル者ハ土地ノ名稱、占有者ノ氏名又ハ名稱及其ノ目的ヲ記載シテ出願スヘシ前項ノ出願ハ電信ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

本條ノ出願ニ對シ電信ヲ以テ指令ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ名稱、占有者ノ氏名又ハ名稱及立入り又ハ使用ノ目的ヲ記スルニ相當スル電信料ヲ前納スヘシ

第六十一條 鑛業法第五十二條乃至第五十四條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入り、之ヲ使用シ又ハ障礙物ヲ除去セムトスル者ハ鑛山監督署長ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第六十二條 鑛業法第五十六條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱、種目、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間ヲ記載シタル願書ニ土地登記簿本、關係地實測圖及工事設計書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六十三條 鑛業權者鑛業法ノ規定ニ基キテ他人ノ土地ニ關スル權利ヲ取得シタルトキ、使用ヲ始メタルトキ使用ヲ終リタルトキ又ハ使用セザルニ至リタルトキハ直ニ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

前項ノ權利取得ニ關スル届書ニハ土地ノ名稱、種目、面積、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間並補償金及擔保ヲ記載スヘシ (三十九年農商務省令第十五號ヲ以テ條中改正)

第六十四條 鑛業法第七十五條ノ規定ニ依リテ定ムヘキ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ニハ左ニ掲クル事項又

ハ之ニ相當スヘキ事項ヲ定メ礦業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ差出シテ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

一 業務ノ種類、等級

二 雇傭及解雇

三 各種類及各等級ニ於ケル賃金

四 賃金支拂期日

五 各種類ノ就業時間並其ノ交替ノ方法

六 休業日其他休業ニ關スル事項

七 年離及婦女、幼者ノ勞役ニ關スル制限

八 賞罰ノ定アルトキハ其ノ事項

第六十五條 礦夫名簿ハ礦業ニ著手ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ調製シ礦夫ノ氏名、生年月日、本籍、雇傭ノ要領、業務ノ種類、等級、雇傭及解雇ノ年月日並雇傭期間ヲ記載スヘシ
前項ノ事項ニ異動アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ記入スヘシ

第六十六條 礦業法第八十條ノ規定ニ依ル扶助ニ付テハ左ノ標準ニ依リ扶助規則ヲ定メ礦業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ之ヲ差出シ礦山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

一 診察費及治療費ハ其ノ實額

二 所有者及關係人又ハ鄰接礦業權者ノ氏名又ハ名稱及住所

三 礦業權ノ登録番號

四 申請ノ目的及理由

礦山監督署長前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ所有者及關係人又ハ鄰接礦業權者ニ交付スヘシ
所有者及關係人又ハ鄰接礦業權者ハ申請書ヲ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘシ
所有者及關係人又ハ鄰接礦業權者前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ礦山監督署長ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトヲ得申請書ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

申請人第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキハ申請書ヲ却下ス

裁決書ニハ理由ヲ附シテ礦山監督署長之ヲ申請人、所有者及關係人、鄰接礦業權者ニ交付スヘシ

第六十九條 礦業法第九十條第二項又ハ第九十二條第二項ノ規定ニ依ル訴願ニハ礦山監督署長ノ與ヘタル裁決書ノ原本ヲ添ヘテ差出スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十條 礦業法第八十九條、第九十條第二項、第九十

二 療養ノ爲休業中ハ其ノ日數ニ相當スル賃金額ノ三分ノ一以上

三 葬祭料ハ十圓以上

四 遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル賃金百百分以上ニ相當スル金額

五 不具廢疾者扶助料ハ其ノ賃金ノ百百分以上ニ相當スル金額

稼高ニ依リテ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ前項第二號、第四號及第五號ニ記載シタル賃金ハ前三十日間ノ就業平均額ニ依リテ之ヲ定ムヘシ

第六十七條 礦業權者ハ便宜ノ方法ヲ以テ礦業法中礦夫ニ關スル規定、礦夫ノ雇傭勞役ニ關スル規則及扶助規則ヲ礦夫ニ告知スヘシ

第六十八條 礦業法第九十條第一項又ハ第九十二條第一項ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ニ掲ケル事項ヲ記載シ請求地ニ於ケル工事又ハ鑛床ノ關係圖並所有者及關係人又ハ鄰接礦業權者ト交渉シタル始末書ヲ添付スヘシ
但シ交渉ヲナスコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得 (三十九年農商務省令第十五號ヲ以テ但書ノ追加)

一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

一條及第九十二條第二項ノ規定ニ依リテ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起シタル者ハ七日以内ニ其ノ旨ヲ礦山監督署長ニ届出ヘシ

第七十一條 礦業法第九十三條第二項ノ規定ニ基ク處分又ハ裁決ノ公示ハ官報ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第三十九條ノ規定ニ依ル却下ニ付テハ礦山監督署ノ揭示場ニ揭示スルコトニ依リテ之ヲ爲ス

第七十二條 第二十六條、第二十七條、第四十條乃至第四十三條、第四十九條、第五十一條、第五十二條、第五十五條、第六十一條、第六十三條、第六十七條、第七十條、第八十一條、第八十六條及第八十七條ノ規定ニ違背シタル者、第二十四條ノ規定ニ基ク規定ノ期日ニ立會ハス若ハ調査事項ノ説明ヲ爲ササル者、第三十七條ノ規定ニ依リテ命セラレタル期限内ニ登録申請ヲ爲ササル者又ハ第六十六條、第九十條ノ規定ニ依ル扶助規則ヲ差出ササル者若ハ第八十九條ノ規定ニ依リテ扶助規則ヲ改定セサル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十三條 第五十四條ノ規定ニ依リテ礦業代理人ヲ定メタル場合ニハ礦業權者、法定代理人又ハ法人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ礦業代理人ニ適用ス

第七十四條 本則ハ第七十二條ノ規定ヲ除クノ外國ノ礦

業ニ之ヲ準用ス

附 則

第七十五條 本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十六條 鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條 鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本則中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十八條 本則施行前ニ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ニシテ鑛業法及本則中ニ別段ノ定ナキモノニ付テハ鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ノ規定ヲ適用ス

第七十九條 鑛業條例第四十六條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル出願ニシテ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘタルモノニ付テハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ差出サシムルコトヲ得

第八十條 本則施行前ニ明治三十二年農商務省令第三號ノ規定ニ依リテ鑛業總代人ト看做サレタル者ハ本則ノ規定ニ依リテ定メタル代表者ト看做ス

第八十一條 本則施行前ヨリ引續キ鑛業ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第八十二條 本則施行前試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ニ付テハ第四十三條ノ期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八十三條 本則施行前ヨリ引續キ採掘ヲ爲ス者ハ明治三十八年十一月末日迄ニ第四十四條ノ規定ニ依リテ調製シタル施業案ヲ差出スヘシ

第八十四條 明治三十二年農商務省令第三號ノ規定ニ依ル鑛業代理人ハ本則ノ規定ニ依ル鑛業代理人ト同一ノ權限ヲ委任セラレタルモノト看做ス

第八十五條 鑛業條例第四十八條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用スル者ハ本則施行ノ日ヨリ九十日以内ニ土地ノ名稱、種目及使用ノ目的ヲ記載シタル届書ニ關係地實測圖、工事設計書及使用ノ權利ヲ證スル書面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第八十六條 鑛業條例第六十四條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル鑛夫使役規則中第六十四條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ採掘權者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ改定シテ許可ヲ受

クヘシ

第八十七條 鑛業條例第七十條ノ規定ニ依リテ調製シタル鑛夫名簿中第六十五條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ本則施行ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ改定スヘシ

第八十八條 本則施行前ヨリ引續キ試掘ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第六十五條ノ規定ニ依リテ鑛夫名簿ヲ調製スヘシ

第八十九條 鑛業條例第七十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル鑛夫救恤規則中第六十六條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ採掘權者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ改定シテ許可ヲ受クヘシ

第九十條 本則施行前ヨリ引續キ試掘ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第六十六條ノ規定ニ依リテ扶助規則ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

第九十一條 鑛業法第百十九條ノ規定ニ依ル願書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 事業ノ現狀ヲ詳記セル書類
- 二 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ出願

鑛物ヲ採取スルコトヲ證スル書類

第九十二條 鑛業法第百二十條ノ規定ニ依ル届書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

- 一 事業ノ現狀ヲ詳記セル書類
- 二 明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ鑛業法第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ採取スルコトヲ證スル書類
- 三 坑井ノ所在ヲ認知シ得ヘキ圖面

前項第三號ノ圖面ニハ左ニ掲グル事項ヲ明示スヘシ

- 一 所在地ノ名稱及種目
- 二 不動基點並其ノ名稱及特徵
- 三 坑井ト不動基點ト連結シタル測點間ノ方位及間數

様式第一號

何處試掘許可願

何處縣郡市町村大字何 面積何坪 右箇所ニ於テ何處試掘許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日 出願人 氏 名(名稱)印

- 一 圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
- 二 共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ届書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ届出ニ代アルコトヲ得

注意

樣式第二號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

何鐵試掘(採掘)出願地増減區(増區、減區)願
何年何月何日出願
何府縣郡市町村何鐵試掘(採掘)出願地何坪
増區 何郡市町村大字何
面積何坪
減區 何郡市町村大字何
面積何坪
合計(又ハ差引)何坪
右試掘(採掘)出願地變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日 出願人 氏 名(名稱)印
何鐵山監督署長(農商務大臣)氏名殿

注意 一 圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二 代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第三號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

何鐵試掘(採掘)鐵區増減區(増區減區)願
何府縣(郡)試掘(採掘)權登錄第何號
何府縣郡市町村何鐵試掘(採掘)鐵區何坪
増區 何郡市町村大字何
面積何坪
減區 何郡市町村大字何
面積何坪
合計(又ハ差引)何坪
右試掘(採掘)鐵區變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日 住 所 氏 名(名稱)印
何鐵山監督署長(農商務大臣)氏名殿

注意 事項樣式第二號ニ同シ

樣式第四號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

何鐵試掘(採掘)鐵區改正願
何府縣(郡)試掘(採掘)權登錄第何號
何府縣郡市町村何鐵試掘(採掘)鐵區何坪
増區 何郡市町村大字何
面積何坪
減區 何郡市町村大字何
面積何坪
合計(又ハ差引)何坪
右試掘(採掘)鐵區ニ關スル何號御命令ノ通改正許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日 住 所 氏 名(名稱)印
何鐵山監督署長(農商務大臣)氏名殿

樣式第五號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

何鐵試掘(採掘)鐵區更正願
何府縣(郡)試掘(採掘)權登錄第何號
右試掘(採掘)權ノ鐵區何鐵トシテ登錄相成候處何鐵ト更正許可相成度別紙理由書相添此段相願候也

年月日 住 所 氏 名(名稱)印
何鐵山監督署長(農商務大臣)氏名殿

樣式第六號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

何鐵試掘(採掘)出願地變更願
何年何月何日出願
何府縣郡市町村何鐵試掘(採掘)出願地何坪
右試掘(採掘)出願人何某ニ變更致候間新舊出願人連署此段願出候也

年月日 住 所 氏 名(名稱)印
舊出願人 氏 名(名稱)印

住 所 氏 名(名稱)印

何鐵山監督署長(農商務大臣)氏名殿

一新出願人二人以上ナル場合ハ二届書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ届書ヲ添出スヘシ但シ本屆書ニ代表者ヲ表示シテ届出ニ代フルコトヲ得

樣式第七號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

何鐵試掘(採掘)出願相續願
何年何月何日出願
何府縣郡市町村何鐵試掘(採掘)出願地何坪
右試掘(採掘)出願人何某死亡(其ノ他相續ノ原因ヲ記載ス)ニ因リ相續致候間戶籍抄本(又ハ相續ニ關スル證明書)相添此段願出候也

年月日 住 所 氏 名(名稱)印
相續人 氏 名

樣式第八號 (採掘ニ在リテハ正副二通)

何鐵山監督署長氏名殿
共同試掘(採掘)出願人脱退願
何年何月何日出願
何府縣郡市町村何鐵試掘(採掘)出願地何坪
右共同出願人何某何(脱退ノ原因ヲ記載ス)ノ爲脱退致候間別紙何(脱退ノ原因ヲ記載スル書面)相添此段願出候也

年月日 住 所 氏 名(名稱)印
代表者 氏 名

樣式第九號 (正副二通)

何鐵試掘許可願
何府縣郡市町村大字何
面積何坪
右簡所ニ於テ何鐵試掘許可相成度圖面並鐵試掘說明書相添此段相願候也

住 所 氏 名(名稱)印

農商務大臣氏名殿

樣式十號 (正副二通)

何鐵採掘出願地(鐵區)訂正願
何年何月何日出願(何府縣(郡)採掘權登錄第何號)
何府縣郡市町村何鐵採掘出願地(鐵區)何坪
増區 何郡市町村大字何
面積何坪
減區 何郡市町村大字何
面積何坪
合計(又ハ差引)何坪
右採掘出願地(鐵區)訂正許可相成度圖面並訂正理由書相添此段相願候也

年月日 住 所 氏 名(名稱)印
出願人(採掘權者) 氏 名

農商務大臣氏名殿

樣式十一號 (正副二通)

何鐵採掘鐵區合併願
一 何府縣(郡)採掘權登錄第何號
一 何府縣郡市町村何鐵採掘鐵區何坪
一 何府縣(郡)採掘權登錄第何號
一 何府縣郡市町村何鐵採掘鐵區何坪
合計 何坪
右鐵區合併許可相成度圖面並合併理由書相添此段相願候也

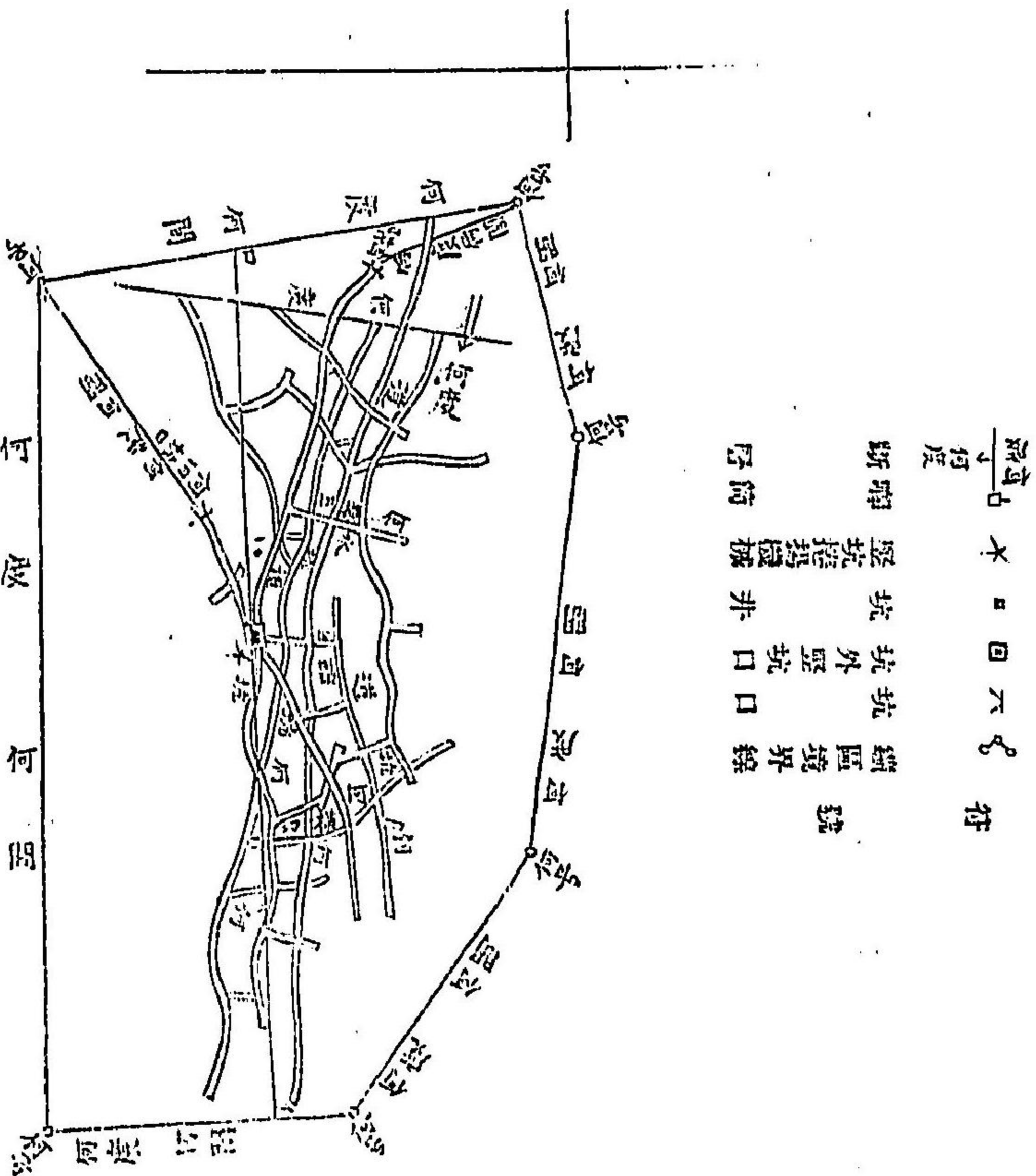
年月日 住 所 氏 名(名稱)印
採掘權者 氏 名

採掘權者 氏 名(名稱)印

採掘權者 氏 名(名稱)印

採掘權者 氏 名(名稱)印

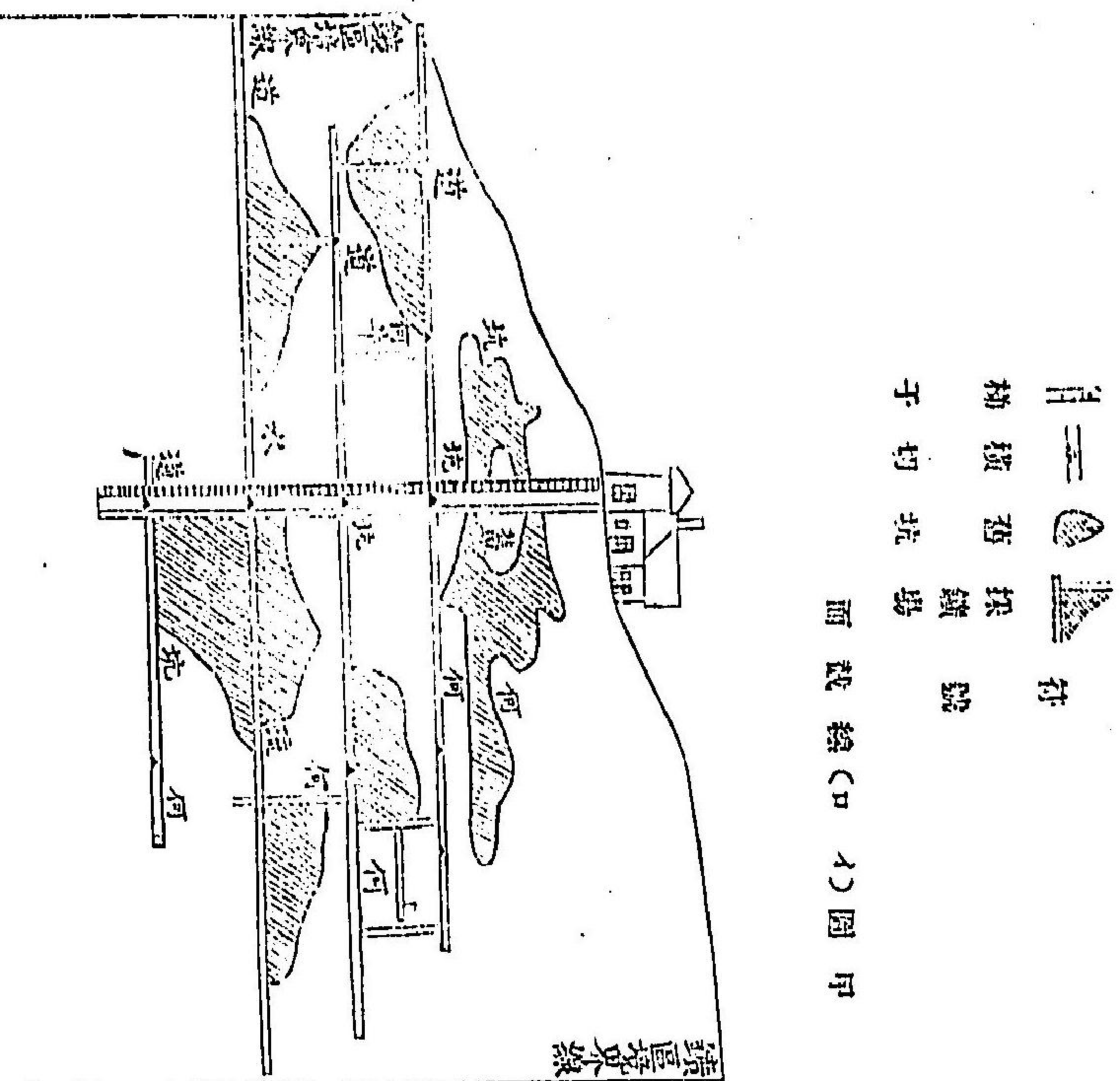
- 注意
- 一 坑道ノ上下段ハ色分チ以テ區別スル
 - 二 軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等設置ノ場所ニシテ本圖ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用フヘシ
 - 三 圖面縮尺ハ千二分ノ一ニ調整スヘシ
 - 四 本造堤ハ黃色ニ煉瓦塼ハ赤色ニ色分チナスル



採掘者住所
測量者住所
名即

樣式第十五號甲
何縣(何郡)採掘鐵道何縣(又ハ特許何縣)
何縣(何郡)何村何鐵山
何縣(何郡)何村何鐵山
坑內實測平面縮尺 何分ノ一

- 注意
- 一 坑道ノ上下段ハ色分チ以テ區別スル
 - 二 軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等ニシテ本圖ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用フヘシ
 - 三 圖面縮尺ハ千二分ノ一ニ調整スヘシ
 - 四 本造堤ハ黃色ニ煉瓦塼ハ赤色ニ色分チナスル



採掘者住所
測量者住所
名即

樣式第十五號乙
何縣(何郡)採掘鐵道何縣(又ハ特許何縣)
何縣(何郡)何村何鐵山
何縣(何郡)何村何鐵山
坑內實測截面縮尺 何分ノ一

事 記

備考

- 一 木炭、石油ニ依リ適用スルモノトス
- 二 比重欄内ニハ「ボーム」比量計ニ依リ比電ヲ記入スヘシ
- 三 製品ノ種別欄内ニハ揮發油、燈油、重油、機油等製品ノ普通名稱ニ依リ區別シ記入スヘシ

第二章 森林

●森林法

(明治四十四年四月法律第四十三號)

第一章 總則

第一條 森林ハ其ノ所有者ニ依リ之ヲ分チテ御料林、國有林、公有林、社寺有林及私有林トス

前項ノ種別ニ依リ難キ森林ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ適用ス

第二條 森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權、賃借權其ノ他土地ニ關シ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ權利者ヲ以テ本法ニ依ル森林所有者ト看做ス

前項ノ權利二箇以上同一ノ土地ノ上ニ存在スル場合ニ於テハ最後ニ設定セラレタル權利ヲ有スル者ヲ以テ前項ノ森林所有者トス

第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ權利義務ハ森林若ハ森林立木竹又ハ土地ノ所有者若ハ占有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第六條 民法第二百五十六條ノ規定ハ其有ノ森林ニ之ヲ適用セス但シ各共有者持分ノ價格ニ從ヒ其ノ過半數ヲ以テ分割ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七條 公園、社寺境内及命令ヲ以テ定ムル土地ニ付テハ本法ヲ適用セス但シ命令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ書類ヲ送付スヘキ場合ニ於テ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ官報又ハ行政廳慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新造林シタル部分ニ限リ三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

第十三條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニ付地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ箇所及期間ヲ指定シ落葉、落枝、柴草、土石、樹根、草根、切芝ノ採取若ハ採掘ニ關スル制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第二章 保安林

第十四條 主務大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂ノ墮崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 四 積雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ

ニ於テ送付アリタルモノト看做ス

第二章 營林ノ監督

第九條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表者ヲシテ森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付施業案又ハ施業要領ヲ定メ其ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案又ハ施業要領ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ地方長官ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十五條 第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 前條第二項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者造林ヲ怠リタルトキハ行政官廳ニ於テ自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項造林ニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

五 水源涵養ノ爲必要ナルトキ
 六 魚附ノ爲必要ナルトキ
 七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ
 八 公衆ノ衛生ノ爲必要ナルトキ
 九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ
 第十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコトヲ得
 第十六條 保安林ノ編入解除ハ其ノ森林所在ノ府縣市町村又ハ之ニ準スヘキ者其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ地方長官ヲ經由シ主務大臣ニ申請スルコトヲ得前項ノ申請ニ係ル森林ニ付不編入又ハ不解除ノ處分アリタルトキハ實地ノ狀況ニ著シキ變更ヲ生シタル場合ニ非サレハ同一理由ニ依リ再ヒ之ヲ申請スルコトヲ得ス
 第十七條 保安林ノ編入解除ノ申請アリタル場合ニ於テ前條第一項ノ條件ヲ具備セス又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタルモノト認ムルトキハ地方長官ハ申請書ヲ却下スルコトヲ得
 前項ノ處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 保安林ノ編入解除ヲ爲サムトスルトキ又ハ地方長官其ノ申請ヲ受理シタルトキハ地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者其ノ他土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場ニ之ヲ揭示スヘシ
 地方長官ハ前項告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ議ニ付スヘシ
 第十九條 地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ定ム
 第二十條 第十八條ノ告示ニシテ保安林編入ニ關スルモノナルトキハ其ノ告示ノ日ヨリ第二十三條ノ告示ノ日迄其ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ズ但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第二十一條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十八條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ意見書ヲ地方長官ニ提出スルコトヲ得
 第二十二條 地方長官ハ保安林ノ編入解除ニ關スル地方森林會ノ決議書其ノ他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ
 第二十三條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル

處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムヘシ
 第二十四條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスルトキハ前條告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第二十五條 地方長官ニ於テ保安林ノ編入ニ關シ必要アリト認ムルトキハ其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ズ
 前項ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止セラレタル森林ト雖保育ノ爲必要ナルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得
 第二十六條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ木竹ノ伐採、傷害、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコトヲ得ズ
 第二十七條 主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止シ又ハ施業若ハ保護ノ方

法ヲ指定スルコトヲ得
 第二十八條 木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者又ハ立木竹ノ所有者ハ之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ限リ其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得
 前項保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタルトキハ其ノ造林ノ費用ハ前項ノ損害ト看做ス
 前二項ノ損害ハ政府之ヲ補償ス但シ政府ハ保安林編入ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體若ハ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシメ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
 第一項及第二項ノ損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十九條 前條第三項ニ依ル政府ノ補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 前條第三項但書ニ依ル負擔ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
 第三十條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ第二十八條第一項ニ依リ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ
 第三十一條 國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ保安林ニ

第四章 土地ノ使用及收用

編入セラレタルトキハ政府ハ其ノ借地料ヲ免ス
 第三十二條 主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得
 第三十三條 第二十六條ノ規定ニ違反シ、第二十七條又ハ前條ノ制限、禁止若ハ指定ニ違反シタル者アルトキハ地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得
 第三十四條 第十一條ノ規定ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第三十五條 保安林ノ編入解除ニ關スル調査及國土保安林ニ關シ地方長官ノ行フ調査ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ北海道ニ於テハ北海道地方費、沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス
 第三十六條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得
 第三十七條 第十八條第二項、第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ御料林及國有林ニ之ヲ適用セス

第三十八條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第四十條第二項ニ依リ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ
 第三十九條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス
 第四十條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ當該官廳ニ之ヲ地方長官ニ協議スヘシ
 地方長官ハ前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
 第一項ニ依リ土地ヲ使用セムトスル者ハ前項通知ノ後其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議スヘシ
 第四十一條 前條第二項ノ通知後一箇年以内ニ同條第三項ノ協議ヲ爲ササルトキハ同條第一項ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フ第五十五條第一項ニ依リ地方森林會ノ

裁決ヲ求メサルトキ亦同シ
 第四十二條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
 第四十三條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
 第四十四條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ
 第四十五條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
 第四十六條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、堀棚其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
 第四十七條 第四十條第二項ノ通知後土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケヌシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條 第四十條第二項ノ通知後同條第一項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
 第四十九條 土地所有者及關係人ハ土地ノ使用者若ハ收用者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ土地ノ使用者若ハ收用者カ御料局、政府、府縣、市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第五十條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ、裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキト雖土地ノ使用者又ハ收用者ハ其ノ裁決ニ依リ補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ用ウルコトヲ得但シ土地ノ使用者又ハ收用者カ御料局、政府、府縣、市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ補償金ノ供託及擔保ノ提供ヲ要セス
 第五十一條 前條ニ依リ補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得
 第五十二條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ收用者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス
 土地ヲ使用スルトキハ使用ノ時期ニ於テ土地ノ使用者

其ノ使用權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ヲ妨ケザル範圍ニ制限セラルルモノトス

第五十三條 土地ノ使用者其ノ使用ヲ終リタルトキハ土地ノ原形ニ復シ又ハ原形ニ復セサルニ因リテ生ズル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第五十四條 第三十條ノ規定ハ本章ノ補償金ニ之ヲ準用ス

第五十五條 土地ノ使用者ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ第四十條第二項ノ通知後一箇年以内ニ地方森林會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ關スルモノニ付不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ關スルモノニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 土地收用法第六十六條及第六十七條ノ規定

ハ本章ニ依リ收用セラレタル土地ニ之ヲ準用ス

第五十七條 土地ノ使用、收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第五十八條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府力之ヲ行フトキハ地方長官ニ協議スヘシ

前項工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ因リテ損害ヲ生スヘキトキハ補償金ノ拂渡ヲ爲スヘシ

第四十條第二項第三項、第四十一條、第四十六條乃至第五十一條、第五十二條第三項、第五十三條乃至第五十五條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 流木竹ノ爲必要アル場合ニ於テハ沿岸ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第六十條 前數條ノ外流木竹ニ付土地又ハ水ノ使用ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入

リ、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ第一項ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知スヘシ

第五章 森林組合

第六十二條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リ之ヲ設立スルコトヲ得

一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セラル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ

二 森林カ所有者ヲ異ニシ協同シテ施業ヲ爲スニ非サレハ其ノ利用ノ目的ヲ達スルニ困難ナルトキ

三 森林產物ノ運搬ニ必要ナル工事ヲ爲シ又ハ之ヲ維持スル爲關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

四 森林ノ危害防止ニ付關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

第六十三條 森林組合ハ營利ヲ目的トセサル社團法人トス

第六十四條 森林組合ヲ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六十五條 森林組合ノ組合員ハ其ノ地區内ニ於ケル森林ノ所有者ニ限ル

第六十六條 森林組合ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト

二 前號同意者ノ所有スル森林ノ面積カ地區内ニ於ケル森林ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

第六十七條 森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ノ總テ組合員トス但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ナシト定メタル者ハ此限ニ在ラス

第六十八條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 目的及事業
- 二 地區
- 三 名稱
- 四 事務所
- 五 出資又ハ費用分擔ノ方法
- 六 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

前項ノ外定款ニ定ムルコトヲ要スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十九條 森林組合ノ設立ハ其ノ主ナル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十條 組合員ハ組合ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ新ニ地區内ノ森林又ハ森林產物ニ付組合ノ事業ヲ妨クヘキ行為ヲ爲スコトヲ得ス

第七十一條 森林組合ハ主務大臣及地方長官之ヲ監督ス監督官廳ハ何時ニテモ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

七十二條 總會ノ決議又ハ役員ノ行為ニシテ法令、監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
一 決議ノ取消
二 役員ノ解職

三 組合ノ解散

第七十三條 森林組合ニ於テ本章又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反スタルトキハ其ノ役員ヲ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス
前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第七十四條 造林ノ生ニ供スル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス

第七十五條 本法ニ規定スルモノノ外森林組合ノ設立、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 森林警察

第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テシメ森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト
二 前號ニ依リ届出テタル記號印章ト同一又ハ類似記號若ハ印章ノ使用ヲ禁止スルコト

三 前二號ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ森林產物ノ運

搬ヲ停止スルコト

四 森林產物ニ關スル營業者ヲシテ帳簿ヲ設ケ其ノ產物ノ出所、種類、數量及仕向先ヲ記載セシムルコト

五 前各號ノ外森林ノ危害防止ニ關スルコト
第七十七條 森林官吏、警察官吏又ハ犯罪搜查ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲心要アリト認ムルトキハ森林產物又ハ森林產物ニ關スル營業者ノ手段、帳簿及器具ニ付検査ヲ行フコトヲ得

第七十八條 森林又ハ之ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ受クヘシ
第七十九條 前條ノ火入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ防火ノ設備ヲ爲シ且接退セル森林ノ所有者又ハ管理者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第八十條 森林害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アル森林ノ所有者之ヲ驅除豫防スヘシ
前項ノ場合ニ必要アルトキハ森林所有者ハ警察官署ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り森林害蟲ノ驅除豫防ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 森林害蟲蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アル場合ニ於テ地方長官ハ森林害蟲ノ驅除又ハ豫防ノ爲必要ナル處

置ヲ利害關係アル森林ノ所有者ニ命シ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得蟲類以外ノ動物又ハ微菌ヲ驅除豫防スルニ付主務大臣ノ認可ヲ得タル場合亦同シ

前項驅除豫防ノ費用ハ其ノ利害關係アル土地ノ面積又ハ地價ヲ準率ト爲シ森林所有者ノ負擔トス但シ地方長官自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ヲ除クノ外費用ノ負擔者ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
地方長官第一項ニ依リ自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用ノ徵收ニ付テハ行政執行法第六條ノ規定ヲ準用ス

第八十二條 害蟲ノ驅除豫防法第七條及第八條ノ規定ハ前二條ニ依リ驅除豫防ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ窃取シタル者ハ森林ノ竊盜トシ三年以下ノ重禁錮又ハ贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ

第八十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス

一 根株ヲ掘採、毀壞、燒燬若ハ隱蔽シ其ノ他罪跡ノ湮滅ヲ圖ルノ行爲アリタルトキ
 二 賊物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
 三 賊物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取、精製若ハ石灰、煉瓦石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ
 四 賊物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶、車輛若ハ船ヲ使用シ又ハ運搬、造材ノ設備ヲ爲シタルトキ
 五 保安林ニ於テ犯シタルトキ
 六 森林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ犯シタルトキ
 七 二人以上共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ
 八 森林保護ノ義務ヲ有スル者犯シタルトキ
 九 差押ノ賊物ヲ隠匿、消費、滅却及ハ放棄シタルトキ
 十 夜間犯シタルトキ
 第八十五條 前條第二號ニ依リ製シタル物品ハ之ヲ森林竊盜ノ賊物ト看做ス
 第八十六條 民法第九十六條ノ規定ハ森林竊盜ノ賊物ノ回復ニ之ヲ適用セス但シ善意ノ取得者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條 森林竊盜ノ賊物ナルコトヲ知リテ之ヲ受ケ又ハ密藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮及贖額二倍以下ノ罰金ニ處ス
 第八十八條 第八十三條、第八十四條及前條ノ贖額ノ二倍カ二圓ニ滿タサルトキト雖其ノ罰金ハ二圓以下ニ下スコトヲ得ス
 第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處ス因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス
 自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ノ主産物ヲ燒燬シタル者ハ五年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第九十條 第八十三條、第八十四條及前條第二項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
 第九十一條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第四百二十條ノ適用ヲ妨ケス
 第九十二條 立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ消除シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九十三條 他人ノ森林内ニ工作物ヲ設ケタル者ハ二百

圓以下ノ罰金ニ處ス
 他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ
 前項ノ犯罪ニシテ保安林、開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ六月以下ノ重禁錮及二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九十四條 他人ノ森林内ニ於テ放牧シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九十五條 第十三條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九十六條 第二十條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九十七條 第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九十八條 第二十七條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九十九條 前三條ノ場合ニ於テ木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ對スル罰金ハ其ノ伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ達セシムルコトヲ得
 第一百條 第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第一百一條 第七十七條ノ検査ヲ拒ミタルモノハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依

ル
 第一百二條 第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ
 第一百三條 第七十六條第一條第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 第一百四條 第三十六條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス
 第八章 附則
 第一百五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第一百六條 北海道、沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ付テハ本法中保安林ニ關スル規定ニ限り之ヲ施行ス
 前項ノ外本法ノ規定ヲ施行スルノ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 前二項ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ケルコトヲ得
 第一百七條 本法施行前森林タリシモノニシテ本法施行以

前ヨリ荒廢ニ屬シタルモノハ地方長官ニ於テ造林ヲ命
スルコトヲ得

前項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者カ造林ヲ怠リタル
場合ニ付テハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

第八條 舊法第三十條ニ依リ保安林ト爲シタルモノニ
シテ本法施行ノ際現ニ保安林タルモノハ之ヲ保安林ト
ス

第九條 公有林又ハ社寺有林ニ付本法施行前地方長官
ノ認可ヲ受ケ又ハ地方長官ニ届出テタル施業案又ハ施
業要領ハ第九條ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十條 舊法又ハ舊法ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ
依リテ爲シタル處分、議決、申請、請求、手續其ノ他
ノ行爲ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依
リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

但シ本法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アル場合ハ
此ノ限ニ在ラス

第十一條 舊法ニ依リ本法施行前ニ進行ヲ始メタル期
間カ本法中ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規
定ニ從フ但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法
中ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ本法施行ノ日ヨリ
起算シテ本法ノ規定ヲ適用ス

第十二條 舊法第二十六條ニ依ル補償ノ請求ハ本法施
行ノ日ヨリ一箇年ヲ經過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

●森林法施行規則 (明治四十年十二月
農商務省令第二十二號)

第一條 公共團體又ハ社寺カ森林ヲ得喪シ又ハ廢止シタ
ルトキハ其ノ代表者ハ遲滞ナク第一號様式ニ準シテ届
書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

公共團體又ハ社寺ニ屬スル土地カ森林タルニ至リシト
キハ其ノ代表者ハ遲滞ナク第二號様式ニ準シテ届書ヲ
作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其ノ公共團體又ハ
社寺ニ屬スル原野山嶽、荒蕪地又ハ森林タリシモノニ
シテ現ニ荒蕪セルモノニ付森林トシテ管理スヘキモノ
ト否トテ區分シ第三號様式ニ準シテ區分書ヲ作り地方
長官ノ定メタル期間内ニ之ヲ地方長官ニ差出シ認可ヲ
受クヘシ

地方長官ハ區分ヲ更正シテ前項ノ認可ヲ與フルコトヲ
得

前二項ニ依リ認可ヲ受ケタル區分ヲ變更セムトスルト
キハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其ノ公共團體又ハ

第九條 保安林ノ編入解除ニ關スル處分ノ告示アリタル
トキハ地方長官ハ遲滞ナク森林法第二十三條ノ通知及
揭示ヲ爲スヘシ

第十條 保安林ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項發生
シタルトキハ其ノ所有者ハ其ノ都度之ヲ地方長官ニ届
出ツヘシ森林法第十八條ノ規定ニ依ル告示アリタル森
林ニ關シテモ亦同シ

一 森林所有者ノ變更
二 地番ノ分合

三 地形又ハ林相ノ異動但シ輕微ナルモノヲ除ク
前項第一號ノ届出ハ新ニ所有者トナリシ者ニ於テ之ヲ
爲シ届書ニ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十一條 農商務大臣ニ於テ森林法第二十七條ノ規定ニ
依リ制限、禁止又ハ指定ヲ爲ス場合ニ於テハ地方長官
ヲシテ之ヲ保安林所有者ニ通達セシムヘシ

第十二條 森林法第二十八條ノ規定ニ依ル補償ハ農商務
大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フヘシ

第十三條 森林法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ補償ス
ヘキ損害ハ其ノ伐採禁止ノ當時存在スル森林立木竹ヲ
普通保安林ノ立木竹トシテ價額ヲ見積リ其ノ價額ノ年
利五厘ニ相當スル金額ヲ以テ毎年ノ直接損害額ト看做

社寺ニ屬スル森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付
第四號又ハ第五號様式ニ準シテ管理ノ方法ヲ記載シタ
ル届書ヲ作り地方長官ノ定メタル期間内ニ之ヲ地方長
官ニ差出スヘシ但シ地方長官ニ於テ森林法第九條ノ規
定ニ依リ認可ヲ受ケシムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラ
ス

前項ニ依リ届出テタル方法ヲ變更シタルトキハ公共團
體又ハ社寺ノ代表者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届
出ツヘシ

第四條 第十條ノ規定ハ森林法第十條ノ規定ニ依リ施業
方法ヲ指定シ若ハ造林ヲ命シタル者ニ之ヲ準用ス

第五條 森林法第十一條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ職權ハ
地方長官之ヲ行フ

シ之ヲ算定スヘシ

前項損害ノ算定ニ付テハ其ノ既ニ伐期ニ達シタル森林ニ在リテハ伐採禁止ノ當時其ノ未タ伐期ニ達セサル森林ニ在リテハ其ノ伐期ニ達シタル當時ノ立木竹ノ時價ヨリ三割ヲ減シタルモノヲ以テ普通保安林ノ立木竹ノ價額ト看做ス但シ地方長官ニ於テ必要ト認めタルトキハ時價ニ對スル割引ノ歩合ヲ増減スルコトヲ得

第十四條 伐期ニ達セサル森林ニ付テハ其ノ伐期ニ達シタル年ヨリ前條ノ補償ヲ爲スモノトス

前項ノ伐期ハ農商務大臣ニ於テ樹種作業別及地方ノ慣行等ヲ斟酌シテ之ヲ定メ伐採禁止ノ際地方長官ヲシテ之ヲ保安林所有者ニ通達セシムヘシ

第十五條 森林法第二十八條第二項ノ規定ニ依ル損害額ハ造林ニ要シタル實費額ニ依ルモノトス

第十六條 森林法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル損害ノ補償請求期間ハ其ノ既ニ伐期ニ達シタル森林ニ在リテハ伐採禁止ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ九十日、其ノ未タ伐期ニ達セサル森林ニ在リテハ第十四條第二項ノ規定ニ依リ定マリタル伐期ニ達シタル年ノ初日ヨリ末日迄トス

森林法第二十八條第二項ノ規定ニ依ル損害ノ補償請求

期間ハ各年分ニ付翌年三月三十一日迄トス

第十七條 森林法第二十八條ノ規定ニ依ル補償ヲ請求セムトスル者ハ請求書ニ損害算定書ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ請求者ニシテ立木竹ノミノ所有者ナルトキハ其ノ所有ヲ證スヘキ書面ヲ請求書ニ添付スヘシ

第十八條 森林法第二十八條第三項但書ノ規定ニ依ル負擔ノ要否及其ノ金額ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ決定スヘシ

前項ノ負擔金額ハ地方長官ニ於テ之ヲ徵收ス

第十九條 森林法第三十二條ノ規定ニ依ル開墾ノ制限又ハ禁止ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二十條 森林法第四十條ノ規定ニ依リ土地使用ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ事業計劃書及圖面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 使用スヘキ土地ノ所在、地番、種目、所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所
- 二 使用面積
- 三 使用ノ時期及期間
- 四 使用ノ目的

第二十一條 使用スヘキ土地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ前條ノ申請書ニ添附スヘシ

- 一 御料墓地及御料地
 - 二 國有地
 - 三 現ニ公用ニ供スル土地
 - 四 社寺境内地
 - 五 名所、舊跡及古墳墓
- 第二十二條 前二條ノ規定ハ森林法第四十條第一項但書ノ規定ニ依リ協議ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十三條 森林法第四十條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ得又ハ協議調ヒタル後同條同項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ但シ帝室林野管理局又ハ政府ニ在リテハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ
- 地方長官前項ノ届書又ハ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
- 第二十四條 森林法第五十五條ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求めムトスル者ハ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出スヘシ
- 一 申請人及相手方ノ氏名、名稱、住所

二 使用又ハ收用スヘキ土地ノ所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所

三 申請ノ目的及理由

四 立證方法

第二十五條 森林法第五十六條ノ規定ニ依リ土地收用法第六十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ爲ス公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十六條 第二十條乃至第二十五條ノ規定ハ森林法第五十七條ノ規定ニ依ル水ノ使用ニ關スル權利、其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第二十七條 森林法第五十八條ノ規定ニ依リ工作物ノ使用、變更又ハ除却ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ事業計劃書及必要ノ圖面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 使用、變更又ハ除却スヘキ工作物ノ種類、所在、位置等
- 二 使用、變更又ハ除却スヘキ工作物ノ所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所
- 三 使用、變更又ハ除却ノ時期及期間

四 使用、變更又ハ除却ノ目的
五 其ノ他工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ關スル重要ノ事項

第二十八條 前條ノ規定ハ森林法第五十八條第一項但書ノ規定ニ依リ協議ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 第二十三條ノ規定ハ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ廢止シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 第二十四條ノ規定ハ森林法第五十八條第三項ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求ムル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 地方森林會ノ裁決ハ會長ニ於テ其ノ勝本ヲ當事者ニ交付スヘシ

第三十二條 森林法第六十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採セムトスル者ハ地方長官ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第三十三條 森林法第六十七條但書ノ規定ニ基キ森林組合ニ加入ノ義務ナシト定メタル者ノ員數及其ノ所有ニ係ル森林面積ハ之ヲ同法第六十六條各號ノ計算ニ加ヘス

第三十四條 森林組合設立ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ定款ヲ組合員タル資格ヲ有スル者ニ示シ期間ヲ指定シテ意見ヲ申出テムヘシ

森林組合設立ノ際第三十六條第二項ノ規定ニ依リ加入義務ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ期間内ニ地方長官ニ申請スヘシ

第三十五條 森林組合設立ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款及前條第一項ノ規定ニ依リ意見書其ノ他森林法第六十六條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三十六條 御料林又ハ國有林ニ付テハ帝室林野管理局又ハ政府ハ獨立シテ經營スルヲ不便ナリトスル場合ヲ除クノ外森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトス

前項以外ノ森林ニシテ試墾、演習等特種ノ目的ニ供セラレ若ハ面積廣大ニシテ獨立經營ノ方法確定シ其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テ地方長官之ヲ協同經營ニ屬セシムルノ必要ナシト認メタルモノニ付テハ其ノ森林所有者ハ森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトス

第三十七條 森林法第九條、第十條、第二十七條又ハ第一百七條ノ規定ニ依リ處分ヲ受ケタル森林カ森林組合ノ經營ニ屬シタル場合ニ於テ其ノ處分ノ變更又ハ解除ヲ要スルモノアルトキハ森林組合ハ其ノ處分ヲ爲シタル官廳ニ對シ其ノ變更、解除ヲ申請スルコトヲ得

第三十八條 森林組合ニ於テ林森ノ施業案若ハ施業要

領、造林計劃、林道若ハ河川ニ關スル工事、其ノ他事業ノ計劃設計ヲ定メムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項認可申請書ニハ其ノ費用及其ノ收支ニ關スル豫定ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第三十九條 森林組合ニ於テ總體會ヲ設ケムトスルトキハ定款中ニ總代ノ選任解任ノ方法、員數及任期ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

第四十條 森林組合合併ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表、合併契約書及合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

森林組合解散ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ理由書及總會ノ決議錄ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第四十一條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ森林組合ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

一 定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

二 理事、監事ノ選任若ハ解任アリタルトキ又ハ其ノ缺ケタルトキ

三 森林組合令第十六條第一號第二號又ハ第五號ノ事

項ヲ定メタルトキ

四 森林組合令第二十三條第二項ノ書類ニ付總會ノ調査ヲ經タルトキ

第四十二條 森林組合ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

第四十三條 森林法第七十八條ノ規定ニ依リ火入ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ御料林又ハ之ニ接近セル土地ニ係ルモノニ付テハ帝室林野管理局森林官吏、國有林又ハ之ニ接近セル土地ニ係ルモノニ付テハ林區署森林官吏其ノ他ノ森林又ハ之ニ接近セル土地ニ係ルモノニ付テハ警察官吏ニ申請スヘシ

火入ヲ爲サムトスル森林又ハ土地カ他人ノ所有者ハ占有ニ屬スルトキハ所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ但シ御料林又ハ國有林内ノ火入ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 前條ノ申請ヲ許可シタルトキハ第九號様式ニ準シテ許可證ヲ作リテ之ヲ申請人ニ交付スヘシ

第四十五條 火入ニ付延燒其ノ他危害ノ虞アルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ハ何時ニテモ火入ノ差止又ハ火入ノ方法若ハ期日ノ變更其ノ他相當ノ處置ヲ命スルコト

注意
一 總テノ箇所ヲ森林トシテ管理シ森林以外ニ供スル箇所ヲキ基合ニ於テハ「森林トシテ管理セサルモノ」ノ欄ニ空欄トシ斜線ヲ劃スルモノトス
一 半由欄ニ「森林トシテ管理セサル箇所」ニ付其ノ事由ヲ詳記スルモノトス

第四號様式

管理方法届

所在	町村、大字、字、地番「」内
所有者	
面積	
現況	雑木林(杉、松)主トセル混雑林ニシテ大凡三十年乃至五十年生ノ杉二分十五年生乃至三十年生ノ松七分其ノ他ノ樹木一分
管理方法	地方ノ慣行ニ依リ三十年前後ヲ以テ皆伐ス(大凡十五年間ニ輪伐チ爲ス)
備考	天然生チ養育ス(杉ヲ植栽ス)

右及御届候也

年月日
何町(村)長(何神社神職又ハ何寺住職)
(何々森林組合理事)
(氏子、檀徒及ハ信徒總代)

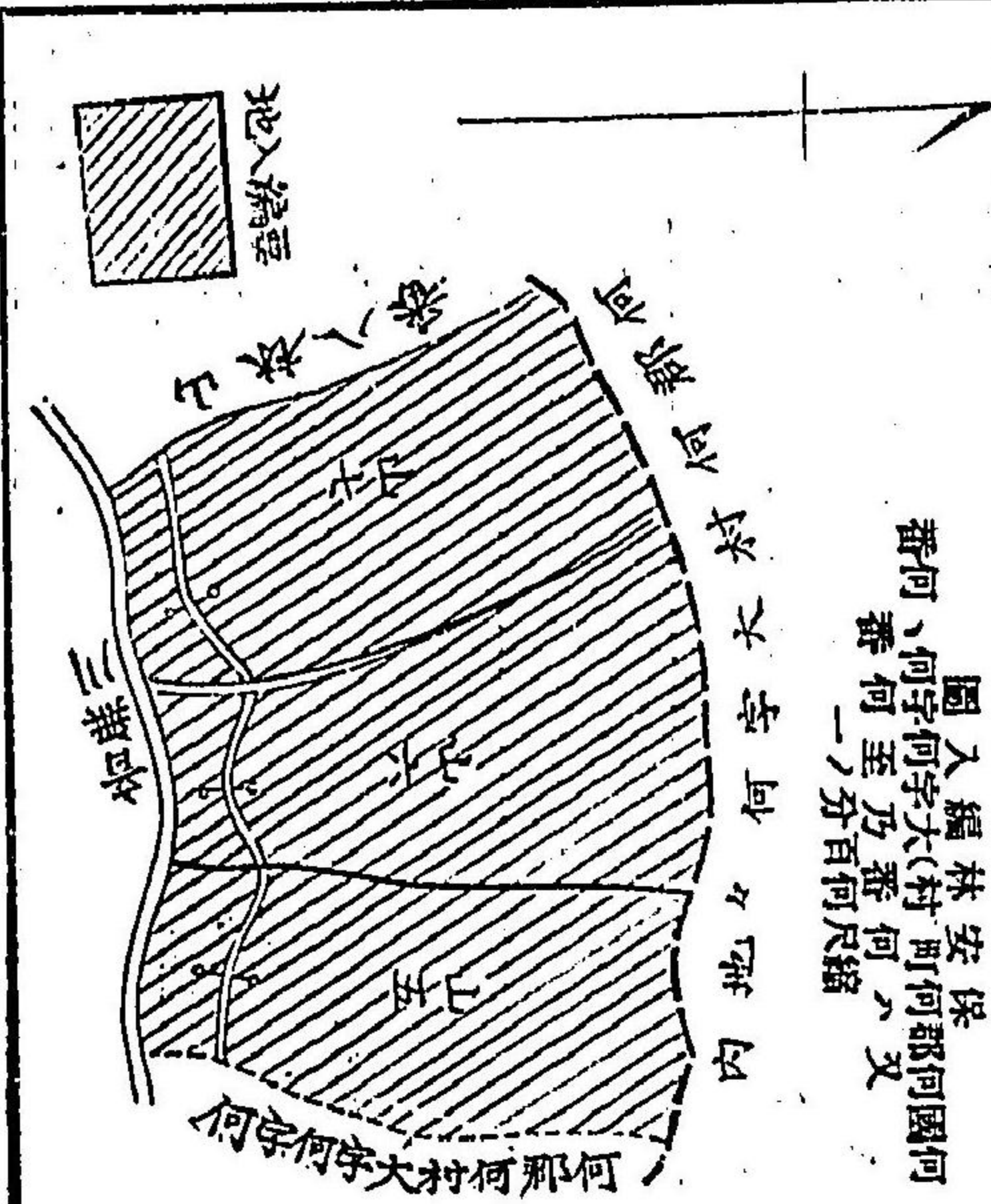
地方長官宛

第五號様式

以上編入ノ例	何何何何何七山林山	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	國郡町(村)大字何管理者
	ククククク九野原	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇	何町(村)長
					某

第七號様式

以上解除ノ例
右ノ何々(保安林編入又ハ解除ヲ要スル事由ヲ詳記ス(ハシ)ニ付保安林編入(解除)相成度別紙圖面及何々添附)此段申請候也
住所
申請者 氏名(何々森林組合理事氏名)
農商務大臣宛
年月日



管理方法届

所在及地目	町村、大字、字、地番「」内
所有者	
面積	
現況	荒蕪地(草生地)
管理方法	人工植栽(天然生チ補育ス)
植栽方法及主ナル樹種	桐(杉)桐柏
備考	明治何年ヨリ同何年ニ至何箇年間

年月日
何町(村)長(何神社神職又ハ何寺住職)
(何々森林組合理事)
(氏子、檀徒又ハ信徒總代)

地方長官宛

第六號様式

保安林編入(解除)申請書

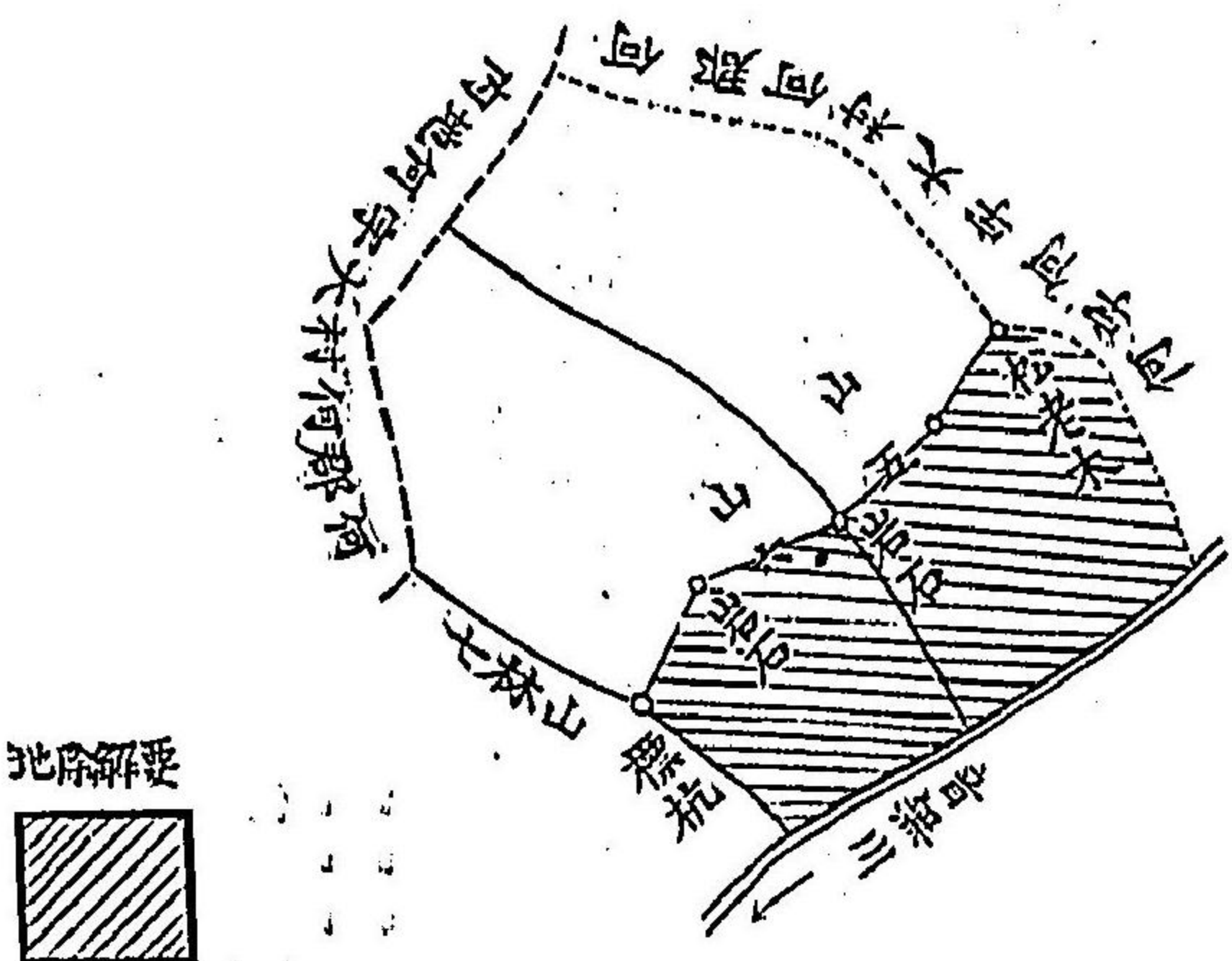
國郡町大字地目	全	面積	何何何何何	國郡町(村)大字何管理者
何何何何何	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	何町(村)長
ククククク	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	某

注意

地番ノ一部ニ係ルトキハ編入スルキ區域ノ境界ヲ判明ナラシムヘシ

第八號様式

保安林解除
番何、何字何字大村何那何
番何至乃番何ハ又
一ノ分百何尺縮



注意
解除スルキ區域ノ境界ヲ判明ナラシムヘシ

第九號様式

森 林 火 入 可 許 證		火 入 期 日	火 入 者
計 年 日	箇 所		
			取 扱 官 吏

火入者ハ火入ノ際此ノ證ヲ携帶スヘシ
 火入者ハ豫メ火入期日ヲ火入箇所ニ接近
 セル森林ノ所有者若ハ管理者ニ通知スヘ
 シ
 一他ハ延焼ノ虞アル箇所ハ相當ノ防火設備
 ヲ爲スヘシ
 一火入ニ關シ森林官吏又ハ警察官吏ノ指揮
 アリタルトキハ其ノ指揮ニ從フヘシ

第十號様式

公有林(社寺有林)現在届

町 村	大 字	字	地 番	地 目	森 林 面 積	所 有 者	備 考

右ハ森林法施行規則第五十二條ニ依リ此段及御届候也
 何町(村)長(何神社神職又ハ何寺住職)
 年 月 日
 (氏子、檀徒又ハ信徒連代)
 何 某
 何 某

地方長官宛

保安林取扱心得 (明治三十三年十月)
 (農商務省訓令第三十七號)

第一章 保安林調査

第一條 保安林ハ設定ノ目的ニ依リ左ノ十二種ニ區分調査スルモノトス

- 一 土砂防止林
- 二 飛砂防止林
- 三 水害防備林
- 四 防風林
- 五 潮害防備林
- 六 類雪防止林
- 七 墜石防止林

八 水源涵養林
 九 魚附林
 十 目標林
 十一 衛生林
 十二 風致林

第二條 保安林調査ニ於ケル地形地質ノ異同、地物配置ノ狀態其他利害ノ關係ヲ推斷スルニ必要ナル事項ハ唯目的箇所ノ區域内ノミニ止マラス廣ク全般ノ形勢ニ注目スヘシ

第三條 保安林調査ニ於ケル目的箇所ノ區域、面積其他必要ナル區界竝ニ顯著ナル物件ノ位置等ノ調査ハ可成精確ナル方法ニ依リテ測量スヘシ但面積百町步以下ニシテ施業案ヲ編成セシムヘキ見込アルモノ及一部ヲ保安林ニ編入セントスルモノヲ除外當分ノ内適宜ノ方法ニ依リテ其ノ面積ヲ調査スルコトヲ得

第四條 保安林調査ハ利害關係ノ顯著ナルモノヨリ漸次著手スヘシ

保安林ノ編入ニ付申請アリタルトキ若クハ官廳ノ通知アリタルトキハ速ニ保安林調査ヲ行フヘシ

第五條 保安林調査ニ於テハ主トシテ左ノ事項ヲ調査シ保安林編入調査ヲ製スヘシ

- 一 目的箇所ノ所在、地籍、地目、地番及其所有主面積及地價
- 二 地形地質及地盤面ノ形狀
- 三 現在ノ林況
- 四 保安林編入ノ事由
- 五 保安林編入後ニ於ケル營林及保護ノ方法其他必要ナル制限事項
- 六 保安林編入後ニ於ケル造林及地盤保護工事ノ種類竝ニ方法
- 七 關係區域
- 八 保安林種類ノ選定ヲ爲スニ當リ編入ノ目的二種以上ニ涉ル場合ハ實地ノ形勢ニ依リテ效用ノ程度及必要ノ多少等ヲ比較シテ其主ナル種類ノ保安林ニ編入ノ目的ヲ以テ調査シ其旨ヲ調査ニ記入シ置クヘシ

第七條 保安林編入調査ハ別記第一號様式ニ依リテ各調査箇所毎ニ調査シ保安林地圖ヲ添附スルモノトス但其調査ノ施業法要領ハ第二章ニ定ムル制限ニ從ヒ調査記入スヘシ

第八條 保安林地圖ハ各調査箇所毎ニ一圖トシ左ノ事項ヲ明示スルモノトス

- 一 調査箇所及其附近ノ地形竝ニ地物ノ配置

二 境界並ニ鄰接地ノ種類
右ノ外利害關係ヲ推斷スルニ足ルヘキ編入區域ノ概況
圖ヲ添附スヘシ

第九條 保安林地圖ハ用紙鑿水引美濃紙半片、一枚及二
枚織ノ三種各一葉ヲ以テ全紙トシ縮尺ハ可成左ノ區別
ニ依ルヘシ

面積一町步未満ハ六百分ノ一
面積一町步以上ハ千二百分ノ一
面積十町步以上ハ三千分ノ一
面積五十町步以上ハ六百分ノ一
面積過大ニシテ美濃紙二枚以上ヲ要スルモノナルトキ
ハ適宜縮尺ヲ定メ圖面ニ表記スヘシ

第二章 保安林ノ施業

第十條 保安林ニ編入ノ目的同一ニシテ所有者同一ナル
圍地ハ之ヲ一箇所トシ調査ヲ爲スコトヲ得

第十一條 保安林ニ於テハ一箇所(編入調査ノ一筆ヲ一
箇所トス)毎ニ施業ヲ爲サシムヘシ但保安林ノ種類同
一ニシテ所有者同一ナルカ若クハ所有者異ナルモ各所
有者合意ニテ同一事業ヲ爲サントスル場合ニ於テ保安
上ノ目的ヲ害セスト認ムルトキハ二箇所以上ノ保安林

回復スルノ見込ナキモノ又ハ高地ノ森林ニシテ林木ノ
生長極メテ遲鈍ナル場所、急斜砂岩地等ニシテ再ヒ森
林ヲ仕立ツルコト困難ナル場所ノ如キハ伐採ヲ禁止ス
ヘシ但手入間伐木、被害木、危險木及支障木ハ國土保
安上差支ナシト認ムルトキニ限り之ヲ伐採セシムルコトヲ得

第十七條 防火及砂防ノ設備ノ必要アル箇所ハ豫メ其方
法ヲ指定スヘシ

第三章 保安林施業案ノ編成

第十八條 現在ノ保安林並ニ將來保安林ニ編入スヘキ箇
所ニシテ荒廢ニ屬スルモノハ十箇年以内ニ造林セシム
ヘシ

第十九條 保安林ノ施業ハ第二章ニ定ムル制限ニ從ヒ豫
メ施業案ヲ編成セシム且其認可ヲ受ケシムヘシ

第二十條 保安林施業案ハ別記第二號様式並ニ説明ニ依
リ之ヲ編成セシムヘシ

第二十一條 保安林施業案ハ保安林ニ編入後二年以内ニ
編成セシムヘシ但森林法第三十條ニ依ル保安林ノ施業
案ハ第二十七條ノ調査終了後二年以内ニ編成セシムヘシ
第二十二條 左ノ保安林ニ付テハ施業案ノ編成ヲ省略セ
シムルコトヲ得

ヲ併合シテ一施業ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 保安林ノ伐採ハ擇伐法ニ依ラシムヘシ
前項ノ擇伐法ハ樹種及地勢ヲ參酌シ點狀、群狀若クハ
列狀法ヲ用ユルモノトス

第十三條 毎年ノ擇伐區域ハ輪伐齡ヲ以テ立木地全面積
ヲ除シタル商ノ三倍ヨリ小ナルコトヲ得ス

第十四條 毎年ノ擇伐面積(伐採スヘキ立木ノ占領面積)
ハ輪伐齡ヲ以テ立木地全面積ヲ除シタル商ヲ超ユルコ
トヲ得ス但施業上ノ便宜ニ依リ五年以内ノ隔年作業ヲ
行ハシムルヲ得此場合ニ於テ擇伐面積ハ全面積ノ三分
ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

群狀擇伐及列狀擇伐ニ在リテハ伐採面積ヲ數箇所ニ分
割シ一箇所ノ面積ハ可成狭少ナラシムヘシ
前二項ノ規定ハ手入間伐木、被害木、危險木及支障木
ノ伐採ニハ之ヲ適用セス

第十五條 保安林ニ於ケル輪伐齡ハ左ノ標準ニ依ルヘシ
矮林ハ十年以上
喬林ハ三十年以上
竹林ハ三年以上
中林ノ上木ハ三十年以上、下木ハ十年以上
第十六條 伐採ヲ行フニ於テハ到底地方ヲ維持シ若クハ

一 面積五町步未満ノ喬林及面積二十町步未満ノ矮林
並ニ中林

二 平均林齡未タ輪伐齡ノ半ニ達セサル森林

三 未立木地カ全面積ノ過半ナル森林

四 經濟上未タ施業ヲ行フノ時期ニ達セサル森林

五 土砂扞止、風致等ニ必要ニシテ當分施業スヘキ見
込ナキ森林

六 竹林

第二十三條 保安林施業案ハ其編成ノ時ヨリ十年以内ニ
於テ改定又ハ訂正セシムヘカラス但天災其他特別ノ事
由生シタル場合ニ於テ其施業カ保安林ノ目的ヲ損スル
虞アルトキハ此限ニ在ラス

第二十四條 保安林施業案ハ十年毎ニ改定セシムヘシ但
尙ホ用ニ耐ユルト認ムルトキハ引續キ之ヲ用ユルコト
ヲ得

第二十五條 利害ノ關係ニ府縣以上ニ跨ル森林ニ在リテ
ハ關係府縣知事協議ノ上便宜其主管ヲ定メテ保安林ノ
調査ヲ爲スヘシ

第二十六條 保安林調査ハ國有林及部分林ニ在リテハ大

調査ヲ爲スヘシ

第二十七條 保安林調査ハ國有林及部分林ニ在リテハ大

調査ヲ爲スヘシ

第二十八條 保安林調査ハ國有林及部分林ニ在リテハ大

調査ヲ爲スヘシ

第四章 附則

第二十五條 利害ノ關係ニ府縣以上ニ跨ル森林ニ在リテ
ハ關係府縣知事協議ノ上便宜其主管ヲ定メテ保安林ノ
調査ヲ爲スヘシ

林區署、御料林ニ在リテハ御料局ニ委囑スルコトヲ得
 第二十七條 森林法施行以前ノ編入ニ係ル保安林ハ十年
 以内ニ之ヲ調査シ保安林編入調査ニ通テ調製シ其一通
 ヲ進達シテ施業法ニツキ本大臣ノ指揮ヲ請フヘシ(三十
 五年農商務省訓令第九號ヲ以テ全條改正)
 前項ノ指揮ヲ受ケタルトキハ施業法要領ヲ所有者ニ通
 達スヘシ
 (様式略ス)

● 國有林野法

(明治三十二年三月
 法律第八十五號)

第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ
 屬スル森林原野ヲ謂フ
 第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上
 國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂讓與又ハ交換ス
 ルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
 及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必
 要アルトキハ之カ組換ヲ爲スコトヲ得
 組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ
 於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有林野ニ編
 入ス

社寺土地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ
 畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得
 第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日
 ヲ定メ隣接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求メ施行ス
 ヘシ
 隣接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當
 該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得
 第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳
 ハ直ニ隣接地所有者ニ通告スヘシ
 第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ
 若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若
 ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ
 得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得
 第七條 隣接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條
 ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ行政裁判所ニ出
 訴スルコトヲ得
 第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂
 フコトヲ得
 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
 二 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ
 三 社寺土地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ

四 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ
 緣故アル者ニ賣拂フトキ
 五 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林
 野ヲ賣拂フトキ
 六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シテ
 ル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ
 七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付
 シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功
 シタル者ニ賣拂フトキ
 第九條 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格
 及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂フノ豫約ヲ爲ス
 コトヲ得
 第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規
 定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ貸
 付シ又ハ使用セシムルコトヲ得
 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
 二 牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ
 三 牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ
 四 第九條ニ依ル開墾者ノ爲ニスルトキ
 五 一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルトキ

第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相
 當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徵收スヘシ但シ前條第一
 號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得
 第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左
 ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス
 一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年
 二 家屋、倉庫其ノ他ノ建築物ノ場合ニ於テハ三十年
 三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年
 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得
 第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合
 ニ限り國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格以上ノ土地、
 森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得
 第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り讓與スルコトヲ得
 一 段別一町歩以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地
 ニ供スルトキ
 二 府縣郡市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河
 川、港灣、水道、堤塘、溝渠、溜池、火葬場、墓
 地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ
 第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ
 期間内ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途
 ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使

用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得
前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林
野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅ス

第十七條 社寺上地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムルコ
トヲ得
社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主
副産物ヲ採取スルコトヲ得

第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ
市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコト
ヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野産物ヲ讓與スル
コトヲ得
委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野産物ニ關スル規
定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以
テ國有林野ニ部分林ヲ設クルコトヲ得
法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益
ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做ス

第二十條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其ノ
持分ハ收益分收ノ割合ニ均シキモノトス
部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス

第二十一條 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ
得ス
前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木
ニ適用セス
第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ
造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日
ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ
報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十
一日ノ現在ニ依ル

第二十五條 主務大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル國有林野
ノ増減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ
附 則
第二十六條 此ノ法律ハ北海道ニ施行セス
沖繩縣ノ國有林野ノ貸付ノ使用及賣拂並ニ其ノ産物ノ
處分ニ關シ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設
クルコトヲ得 (四十一年法律第七號ヲ以テ改正)

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月二日ヨリ施行
ス

●國有林野法施行規則 (明治三十二年八月 農商務省令第二十五號)

第一章 社寺境内編入

第一條 社寺國有林野法第三條第三項ノ規定ニ依リ境内
編入ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ
之ニ實測圖ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ内務農商務兩
大臣ニ差出スヘシ

第二條ノ一 地方長官願書ヲ受理シタルトキハ大林區署
長ト協議シタル後實地調査ヲ爲シ其ノ意見書ヲ願書ニ
添附スヘシ (三十八年農商務省令三十二號ヲ以テ本項第一號ト改正)

第二條ノ二 内務農商務兩大臣ハ地方長官ヲシテ國有林
野法第三條第三項ノ境内編入ヲ爲サシムルコトヲ
得 (同上ヲ以テ追加)

第二章 境界査定

第三條 國有林野ノ境界査定ヲ施行セントスルトキハ境
界査定官吏ハ期日ヲ定メ少ナクモ其ノ期日ヨリ五日前
ニ査定ノ日時及場所ヲ隣接地所有者ニ通告スヘシ
但シ隣接地所有者何時ニテモ立會ヲ爲スヘキコトヲ承
諾シタルトキハ此ノ限ニアラス (同上ヲ以テ條中改正)

第四條 隣接地所有者期日ニ立會ヲ爲スコト能ハサルト

キハ其ノ期日前境界査定官吏ニ其ノ事由ヲ申立テ延期
ヲ出願スルコトヲ得

第五條 境界査定ヲ終リタルトキハ大林區署長ハ直ニ其
ノ旨ヲ隣接地所有者ニ通告シ且所轄小林區署ニ査定圖
ノ謄本ヲ送付スヘシ (三十八年農商務省令三十三號
ヲ以テ條中改正)

第六條 通告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
隣接地所有者ハ前項ノ謄本ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第六條ノ二 住所又ハ居所ノ不分明、其ノ他ノ事由ニ因
リ隣接地所有者ニ對シ通告書ノ送付ヲ爲ス能ハサルト
キハ大林區署長ハ官報ヲ以テ其ノ事由及通告ヲ爲スヘ
キ事實ノ要領ヲ公告スヘシ此場合ニ於テハ其ノ公告ノ
日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ
於テ通告アリタルモノト視做ス (四十一年農商務省令第
三十二號ヲ以テ追加)

第三章 賣拂 (三十八年農商務省令第
三十二號ヲ以テ改正)

第七條 國有林野法第八條第四號ノ緣故者トハ左ノ各號
ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

- 一 部分林ニ在リテハ其ノ分收ノ權利ヲ有スル者
- 二 官地民木ノ森林ニ在リテハ其ノ樹木ノ所有者
- 三 府縣設置以前重要ノ產物ノ採收ヲ爲シタル慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ採收ヲ爲シタル者(三十七年農商務省令第九號ヲ以テ改正)
- 四 府縣設置以前入會ノ慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ入會ヲ爲シタル市町村又ハ市町村内ノ一部城址ニ在リテハ其ノ舊藩主
- 五 神祠、佛堂、墓碑其ノ他ノ遺跡ノ存スル林野ニ在リテハ其ノ遺跡ニ緣故アル者
- 六 古記、社傳又ハ歴史ノ證スル所ニ依リ社寺ニ緣故アル林野ニ在リテハ其ノ社寺
- 七 鑛業法第五十六條ニ掲クル目的ノ爲貸付シ又ハ使用セシメタル國有林野ニ在リテハ採掘權者(三十八年農商務省令三十二號ヲ以テ追加)
- 八 保安林ニ在リテハ其ノ直接利害關係者(三十八年農商務省令第三十二號ヲ以テ追加)
- 九 耕地整理地區ニ編入セル林野ニ在リテハ參加土地所有者(同上)
- 第十 國有林野法第八條ノ規定ニ依リ國有林野ノ賣拂ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ

之ニ實測圖及左ノ書面ヲ添附シテ大林區署長ニ差出ス

- 一 賣拂ノ事由ニ關スル證據書類アルトキハ其ノ書類
- 二 國有林野法第八條第一號ニ掲クル事由ニ依ル出願ニ在リテハ其ノ賣拂ヲ受クル目的ニ關スル計畫又ハ施業ノ方法書
- 三 第七條ノ三 賣拂ノ許可アリタルトキハ買受人ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ契約保證金ヲ納付シ契約擔任官吏ト共ニ賣買契約書ヲ作り雙方署名捺印シ各一通ヲ領收シ置クヘシ但シ賣拂代金千圓ニ滿タサル場合ハ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得
- 四 買受人前項ノ指定期間内ニ契約ヲ締結セザルトキハ大林區署長ハ賣拂ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 五 前項ニ依リ取消ヲ爲シタル場合ハ違約金トシテ出願代金ノ百分ノ十二當ル金額ヲ徵收スヘシ但シ契約保證金アルトキハ政府ノ所得トシ違約金ヲ徵收セス
- 六 第七條ノ四 左ノ場合ニ在リテハ契約保證金ヲ徵收セザルコトヲ得
 - 一 府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ニ賣拂フトキ
 - 二 賣拂代金百圓ニ滿タサルトキ
 - 三 賣拂豫約ニ基キ賣拂フトキ

- 四 公用又ハ公益事業ノ爲賣拂フトキ
- 五 第七條ノ五 現金ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ代金ニ充當スルコトヲ得
- 六 有價證券ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ代金ヲ完納シタルトキ之ヲ還付スヘシ
- 七 第七條ノ六 林野ノ引渡ハ代金完納ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 八 買受人ハ林野引渡前ニ在リテハ大林區署長ノ認可ヲ得ルニ非サレハ林野及之ニ存在スル產物ニ關シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
- 九 買受人林野ノ引渡 受ケタルトキハ領收證ヲ作り之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ
- 十 第七條ノ七 林野ノ附帶義務ハ買受人之ヲ承繼ス
- 十一 賣拂物件ノ面積數量若ハ品質ニ錯誤アリ又ハ其ノ物件ニ隠レタル瑕疵アルモ買受人ハ異議ヲ述ブルコトヲ得ス
- 十二 第七條ノ八 買受人第七條ノ六第二項ノ規定ニ違反シ又ハ納付期限内ニ代金ヲ納付セザルトキハ大林區署長ハ契約ヲ解除スルコトヲ得
- 十三 前項ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ハ政府ノ所得トシ契約保證金ナキトキハ違約金トシテ賣拂代金ノ百分ノ十二當ル金額ヲ徵收スヘシ

賣拂豫約ニ基ク賣拂ノ買受人納付期限内ニ代金ヲ納付セザル場合ニ於テハ違約金トシテ一日ニ付賣拂代金ノ百分ノ一ニ當ル金額ヲ徵收スルコトヲ得(三十八年農商務省令第三十二號ヲ以テ本條追加)

第七條ノ九 特定ノ目的ヲ以テ賣拂ヲ受ケタル者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ目的以外ニ林野ヲ使用シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

買受人前項ノ規定ニ違反シタルトキハ違約金トシテ賣拂代金ノ半額ニ相當スル金額ヲ徵收スヘシ (三十九年農商務省令第三十一號ヲ以テ追加)

第七條ノ十 不要存置國有林野ノ賣拂ニ關シ特ニ必要ナル事項及本章ノ規定ニ依リ難キ事項ニ付テハ別ニ之ヲ定ム(三十八年農商務省令第三十二號ヲ以テ本條追加)

第四章 賣拂豫約

第八條 國有林野法第九條ノ規定ニ依リ國有林野ノ賣拂豫約ヲ出願セントスル者ハ願書ニ事業方法書、收支豫算書及實測圖ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ(同上ヲ以テ本條改正)

林野ニ立木竹アルトキハ其ノ種類及材積又ハ數量ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第九條 事業方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 實測面積
- 二 開墾ノ方法及順序
- 三 開墾豫定圖
- 四 開墾着手ノ時期
- 五 毎年開墾スヘキ豫定面積
- 六 成功期限
- 七 成功期限

第十條 賣拂豫約ノ目的タル林野ノ面積ハ四百町歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ林野ノ形狀又ハ開墾ノ計畫ニ依リ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニアラス

第十一條 成功期限ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 第九條第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ大林區署長ニ差出スヘシ(三十九年農商務省令第三十一號ヲ以テ條中改正)

第十三條 開墾者賣拂豫約ノ目的タル林野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ請書ヲ差出スヘシ

第十四條 開墾者ハ林野ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ境界標ヲ建設スヘシ

第十五條 開墾者ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外賣拂豫約ノ當時其ノ林野ニ存スル產物ヲ處分シ又ハ使用スルコトヲ得ス

第十六條 開墾者ハ前年度ニ於ケル開墾ノ成績ヲ次年度ノ初日ヨリ一箇月以内ニ大林區署長ニ報告スヘシ(七)

第十七條 大林區署長又ハ小林區署長必要ト認ムルトキハ開墾事業ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十八條 開墾者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニアラサルハ其ノ林野ヲ他人ニ貸付シ又ハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス(三十八年農商務省令第三十二號ヲ以テ條中改正)

第十九條 一 相續ニ因リテ開墾者ノ權利ヲ取得シタル者ハ戶籍吏ノ證明書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ(同上)

第二十條 賣拂豫約ノ目的タル林野ヲ公用又ハ公益事業出願スヘシ

開墾者ハ成效セサル場合、大林區署長ニ於テ分割シテ差支ナシト認ムルトキハ區域及代金ヲ定メ其ノ開墾既成部分ヲ賣拂フコトヲ得

開墾成效セサルカ爲豫約地ヲ返還スル者ハ豫約ノ爲費シタル費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得(三十九年農商務省令第三十一號ヲ以テ追加)

借受人ト共ニ貸借契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ
一時貸付又ハ十年ヲ超ニサル年期貸付ニシテ其料金千圓ニ滿タサル場合ニ於テハ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得(三十五年農商務省令第二十四號ヲ以テ本條追加)

ニ供スル必要アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ開墾者ハ直接ノ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 開墾者本則若ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキ又ハ開墾事業成功ノ見込ナシト認ムルトキハ農商務大臣ハ賣拂豫約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
賣拂豫約ノ目的タル林野ノ產物ヲ拂受ケタル開墾者其ノ產物賣拂ニ關スル規則若ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキ亦同シ

第五章 貸付及使用

第二十二條 國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ國有林野ノ貸付ヲ出願セントスル者ハ願書ニ實測圖ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫約地ノ爲費シタル費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得ス(同上ヲ以テ本條追加)

林野ニ立木竹アルトキハ其ノ種類及材積又ハ數量ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條 貸付料ハ年期貸ニ在リテハ其ノ年額、一時貸ニ在リテハ其ノ全額金十錢以上トス

第二十四條 貸付ノ許可アリタルトキハ契約擔任官吏ハ

借受人ト共ニ貸借契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ
一時貸付又ハ十年ヲ超ニサル年期貸付ニシテ其料金千圓ニ滿タサル場合ニ於テハ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得(三十五年農商務省令第二十四號ヲ以テ本條追加)

第二十五條 (三十八年農商務省令第三十二號ヲ以テ削除)

第二十六條 借受人其ノ林野ヲ轉貸シ又ハ其ノ權利ヲ讓渡セントスルトキハ願書ヲ作り連署連印シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ(同上ヲ以テ條中改正)

第二十七條 借受人契約期間滿了時ノ林野ヲ原狀ニ復スルコト能ハサルトキ又ハ之ニ附屬セシメタル者ヲ收去スルコト能ハサルトキハ大林區署長ハ其ノ請求ニ因リ貸付料ヲ定メテ相當ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第二十八條 借受人林野ヲ原狀ニ復シ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ怠リタルトキハ大林區署長之ヲ執行シ借受人ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムヘシ

第二十九條 借受人本則又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキハ大林區署長ハ林野ヲ返還セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貸付料ハ之ヲ還付セス

第三十條 借受人ノ家族、備人又ハ代理人本則又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキハ借受人其ノ責ニ

任ス

第三十一條 第十三條乃至第十五條、第十九條及第二十二條ノ規定ハ林野ノ貸付ニ之ヲ準用ス

第三十二條 林野又ハ其ノ木竹ニ異狀ヲ生シタルトキハ借受人ハ直ニ其ノ旨ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第三十三條 國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ國有林野ノ使用ヲ出願セントスル者ハ願書ニ見取圖又ハ實測圖ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第三十四條 大林區署長必要ト認ムルトキハ使用ノ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三十五條 第十五條、第十九條、第二十條、第二十四條乃至第二十六條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ林野ノ使用ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二 本章中大林區署長ニ屬スル職權ハ五箇年以内ノ貸付若ハ使用ニシテ面積一町歩ヲ超ニサルモノ又ハ一年以内ノ貸付若ハ使用ニ關シテハ小林區署長之ヲ行フ但シ林道、貯水場、土場、苗圃其ノ他森林附屬地ニ係ルモノニ付テハ此ノ限ニアラス(同上ヲ以テ本條追加)

第六章 交換

第三十六條 國有林野法第十四條ノ規定ニ依リ交換ヲ爲

サントスルトキハ大林區署長ハ相手方ト立合ヲ以テ左ノ事項ヲ調査スヘシ

- 一 交換地ノ實測面積及價格
- 二 產物ノ種類、材積又ハ數量及價格
- 三 第三者ノ權利ノ有無

第三十七條 大林區署長交換ヲ行ハントスルトキハ意見書ヲ作り之ニ調査書、實測圖及位置圖ヲ添附シテ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ(三十八年農商務省令第三十二號ヲ以テ條中改正)

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ交換ニ之ヲ準用ス

第七章 讓與

第三十九條 國有林野法第十五條ノ規定ニ依リ國有林野ノ讓與ヲ出願セントスル者ハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添附シテ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十條 讓與セントスル林野ノ使用ノ方法、始期又ハ繼續期間ヲ指定スル必要アルトキハ之ヲ讓與ノ許可書ニ記載スヘシ

第八章 保管

第四十一條 社寺國有林野法第十七條ノ規定ニ依リ其ノ土地ノ森林ノ保管ヲ出願セントスルトキハ願書ニ實測

圖及保護方法書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十二條 社寺其ノ保管林ニ看守人ヲ置キタルトキ又ハ看守人ヲ變更シタルトキハ其ノ氏名住所及年齢ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第四十三條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘシ

- 一 保管林又ハ其ノ木竹ニ異狀ヲ生シタルトキ
- 二 採取スヘキ主產物ノ搬出ヲ終ハリタルトキ
- 三 保管林ノ植樹補植手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルトキ

第四十四條 保管林ノ主產物ヲ採取スル場合ニ於テハ大林區署長ハ社寺ノ採取スヘキ產物、其ノ伐採ノ方法及搬出期間ヲ指定スヘシ

第四十五條 第十三條及第十四條ノ規定ハ林野ノ保管ニ之ヲ準用ス

第九章 委託

第四十六條 國有林野法第十八條ノ規定ニ依リ國有林野ノ委託ヲ受ケントスル者ハ願書ニ見取圖保護方法書及規約書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十七條 規約書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 林野保護ニ關スル負擔方法
- 二 產物ノ採取及分配ノ方法
- 三 違約者、犯則者又ハ犯罪者ニ對スル處分方法
- 四 其ノ他必要ナル事項

第四十八條 大林區署長又ハ小林區署長必要ト認ムルトキハ產物ノ採取人ニ入林鑑札ヲ交付スヘシ(三十九年農商務省令第三十一號ヲ以テ條中改正)

第四十九條 受託者其ノ林野ノ管理者ヲ選定シタルトキハ其ノ氏名、住所ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第五十條 受託者ニ讓與シタル產物ノ材積又ハ數量豫定額ニ達セサルトキト雖受託者ハ其ノ補足ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十一條 第十三條及第四十二條乃至第四十四條ノ規定ハ林野ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十章 部分林

第五十二條 國有林野法第十九條ノ規定ニ依リ部分林ノ設定ヲ出願セントスル者ハ願書ニ實測圖、造林豫定設計書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第五十三條 造林者其ノ權利ヲ處分セントスルトキハ當

事者願書ニ連署連印シ契約書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第五十四條 造林者左ノ事業ヲ爲サントスルトキハ其ノ方法ヲ記載シタル願書ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

一 手入間伐

二 防火線又ハ道路ノ廢置又ハ修繕

第五十五條 造林者規約書ヲ作りタルトキハ大林區署長ニ差出スヘシ

大林區署長必要ト認ムルトキハ造林者ヲシテ規約書ヲ作ラシムルコトヲ得

第五十六條 材積ヲ以テ分收ヲ爲ストキハ大林區署長ハ造林者ノ立會ヲ以テ其ノ分收スヘキ樹木ヲ指定スヘシ

第五十七條 第十四條、第十九條、第二十四條、第二十五條、第四十二條、第四十三條及第四十九條ノ規定ハ部分林ニ之ヲ準用ス

第五十八條 (同上ヲ以テ削除)

第五十九條 (同上ヲ以テ削除)

第六十條 左ノ場合ニ於テハ造林者ハ大林區署長ニ届出ツヘシ

一 造林者其ノ氏名、住所ヲ變更シタルトキ
二 造林者其權利ヲ處分シタル事由カ消滅シタルトキ

三 部分林ノ樹木ノ數ニ變更ヲ生シタルトキ
第六十一條 (同上ヲ以テ本條削除)

第十一章 雜則

第六十二條 本則ノ規定ニ依リ差出又ハ作製スヘキ書類ニシテ書式ノ定アルモノハ其ノ書式ニ依ルヘシ (同上ヲ以テ本條改正)

第六十二條ノ二 本則ノ規定ニ依リ書類ヲ大林區署長ニ差出サントスルトキハ小林區署長ヲ經由スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニアラス

一 公用又ハ公益事業ノ爲ニスル不要存置國有林野賣拂ニ關スルモノ

二 林道、貯木場、土場、苗圃其ノ他森林附近ニシテ大林區署ノ直接管理ニ屬スルモノニ關スルモノ

三 小林區署以上ノ管轄區域ニ互ル林道ニ關スルモノ (三十九年農商務省令第三十一號ヲ以テ本條追加)

第六十三條 神社ノ出願ニ付テハ神職及氏子 (氏子ナキトキハ信徒) 總代願書ニ連署連印スヘシ

寺院ノ出願ニ付テハ住職及檀徒 (檀徒ナキトキハ信徒) 總代願書ニ連署連印シ之ニ管長ノ添書ヲ附スヘシ

佛堂ノ出願ニ付テハ受持僧侶及信徒總代願書ニ連署連

印スヘシ

第六十四條 市町村ノ出願ニ付テハ願書ニ市町村會ノ決議書ノ謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ市町村以外ノ公共團體ノ出願ニ之ヲ準用ス

第六十五條 公用又ハ公益事業ノ爲又ハ公立小學校ノ基本産財ノ爲出願スル場合ニ於テハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニ關スルトキハ願書ニ其ノ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ (三十八年農商務省令第三十二號ヲ以テ條中改正)

第六十六條 出願人數人アルトキハ總代ヲ選定スヘシ願書ニハ總代署名捺印シ之ニ委任狀ヲ添附スヘシ

第六十七條 本則ノ規定ニ依リ出願セントスル者國有林野ニ立入り又ハ之ヲ測量スル必要アルトキハ其ノ事由ヲ申立テ小林區署長ノ許可ヲ受クヘシ (三十九年農商務省令第三十一號ヲ以テ條中改正)

附則

第六十八條 本則施行前ニ生シタル事項ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル本則施行前ヨリ存スル部分林ニ付テハ造林者及利害關係人ハ本則施行ノ日ヨリ一年以内ニ第五十八條ニ掲ケタル事項ノ登錄ヲ大林區署長ニ申請スヘシ

第一號書式ノ一

境内編入願
何國何郡(市)何村(町) 大字何字何番森林(原)野樂帳面積何程(ノ内)
一 實測面積何程
右ハ當神社(寺院、佛堂)ノ上地ノ森林(原野)ニ候處左記事由有之候ニ付當神社(寺院、佛堂)ノ境内ニ編入許可相成度實測面積相添此段相願候也
(出願ノ事由)

年月日

氏子(信徒)總代
檀徒(信徒)總代
信徒總代
氏 名 印
氏 名 印
氏 名 印

内務大臣 氏名殿
農商務大臣

第一號書式ノ二 (三十八年農商務省令第三十二號ヲ以テ追加)

何國何郡(市)何村(町) 大字何字何番森林(原野)野樂帳面積何程(ノ内)

一 實測面積 何程
此代金 何程但シ一町步ニ付 金何程

一 何(木竹ノ種類)何本
此數並 何尺ノ(樹)束
此代金 何程但シ一尺ノ(樹)束ニ付 金何程

總計代金何程
右ハ左記ノ事由有之候ニ付前記ノ代金ヲ以テ御拂下御許可相成度別紙(實測圖)及何々相添此段相願候也
(出願ノ事由)

年月日 住所 氏名印
 大林区署長氏名殿

第二號書式(三十九年農商務省令第三十一號ヲ以テ改正)

實測面積何程
 何國何郡(市)何村(町)大字何字何番森林(原野)臺帳面積何程(ノ内)
 一實測面積何程
 素地相當代價何程 但一町步ニ付
 成功期限何年 但自明治何年何月何日
 右ハ前記ノ代價ヲ以テ實測ノ豫約御許可相成度別紙事業方法書、收支豫算書及實測圖相添此段相願候也

年月日 住所 開墾者 氏名印
 大林区署長氏名殿

第三號書式

貸付願
 何國何郡(市)何村(町)大字何字何番森林(原野)臺帳面積何程(ノ内)
 一實測面積何程
 用途 何何
 期間 何年月日間 但自明治何年何月何日
 貸付料一年金何程(一時貸付ナル)但一町步ニ付
 右ハ前記ノ料金を以テ貸付御許可相成度別紙實測圖相添此段相願候也

大林区署長氏名殿

借受人 氏名印

第四號書式(三十九年農商務省令第三十一號ヲ以テ改正)

使用願
 何國何郡(市)何村(町)大字何字何番(林道ナルトキハ何道)ノ土場(貯木場)何々(臺帳面積何程ノ内) 森林(原野)(林道)ノ見取(實測)面積何程(林道ナルトキハ何地) 一見取(實測)面積何程(リ何處マテ延長何程) 放牧畜數(鹿、野、スヘキ物件數)
 牛 何頭(丸太、何材、何積) 何積
 馬 何頭(苗木、何本、此材積、何積)
 期間 何年月(日)間 但自明治何年何月何日
 料金(一年)金何程(一時使用ナル)但一頭(本、尺、何)
 右ハ左記ノ事由有之候ニ付(前記)料金を以テ借用御許可相成度別紙見取圖(實測圖)相添此段相願候也
 (出願ノ事由)

年月日 住所 使用人 氏名印
 大林区署長氏名殿

第五號書式

讀典願
 何國何郡(市)何村(町)大字何字何番森林(原野)臺帳面積何程(ノ内)
 一實測面積何程
 用途 何々
 右ハ左記ノ事由有之候ニ付讀典御許可相成度別紙實測圖相添此段相願候也
 (出願ノ事由)

大林区署長氏名殿

讀受人 官(職)氏名印

第六號書式

保管願
 何國何郡(市)何村(町)大字何字何番森林(原野)臺帳面積何程(ノ内)
 一實測面積何程
 木竹ノ種類及類
 杉 凡何本
 松 凡何本
 雜木 凡何本
 竹 凡何本
 雜木 凡何本
 期間何年間 但自明治何年何月何日
 右ハ當神社(寺院、佛堂)ノ土地ノ森林ニ有之候ニ付保管御許可相成度別紙實測圖及保護方法書相添此段相願候也

年月日 何國何郡(市)何村(町)大字何字何番神社神職(何寺院、住職何佛堂受持僧侶) 氏名印
 氏子(信徒)總代 氏名印
 檀徒(信徒)總代 氏名印
 借主總代 氏名印

第七號書式

委託願
 何國何郡(市)何村(町)大字何字何番森林(原野)臺帳面積何程(ノ内)
 一見取面積何程
 木竹ノ種類及數
 松 凡何本

大林区署長氏名殿

第八號書式

部分林設定願
 何國何郡(市)何村(町)大字何字何番森林(原野)臺帳面積何程(ノ内)
 一實測面積何程
 植付樹木ノ種類
 收益分取ノ割合
 存續期間
 伐採回数
 伐採間數
 右ハ前記ノ條項ニ依リ部分林設定御許可相成度別紙實測圖、造林豫定圖及造林設計書相添此段相願候也

年月日 大林区署長氏名殿 住所 造林者 氏名印

其變更ヲ爲スヘシ
一 部分林ニ關シ當該官廳ニ於テ報告ヲ徴シタルトキハ直チニ之ヲ差出スヘシ
一 何々(契約ヲ要スル條件ヲ列記スヘシ)

● 國有土地森林原野下戻法 (明治三十三年四月法律第九十九號)

第一條 地租改正又ハ社寺土地處分ニ依リ官有ニ編入セラレ現ニ國有ニ屬スル土地森林原野若ハ立木竹ハ其ノ處分ノ當時之ニ付キ所有又ハ分收ノ事實アリタル者ハ此ノ法律ニ依リ明治三十三年六月三十日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期限ヲ經過シタルモノ又ハ裁判所ノ判決ヲ受ケタルモノハ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス
府縣設置以後土地處分ヲ受ケタル土地及地租改正處分既濟地方ニ於ケル未定地脫落地ニ付テハ此ノ法律ノ規定ヲ準用ス

第二條 下戻ノ申請ヲ爲ス者ハ第一條ノ事實ヲ證スル爲少クトモ左ノ書面ノ一ヲ添附スルコトヲ要ス
一 公簿若ハ公書ニ依リ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルモノ
二 高受又ハ正租ヲ納メタル證アルモノ
三 拂下下附賣買讓與質入書入寄附等ニ依ル所有又ハ

分收ノ事實ヲ證スヘキモノ
四 木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタル證アルモノ
五 私費ヲ以テ木竹ヲ植付ケタル證アルモノ
六 私費ヲ以テ田畑宅地ニ開墾シタル證アルモノ
第三條 前條ノ證據書類ニシテ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルニ足ルト認ムルキハ主務大臣ハ其下戻ヲ爲スヘシ
第四條 下戻ヲ受ケタル者ハ其ノ下戻ニ因リテ所有又ハ分收ノ權利ヲ有ス
前項ニ依リ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得シタル者ハ其ノ土地森林原野若ハ立木竹ニ關シ第三者ニ對スル國ノ權利義務ヲ承繼ス
第五條 第二條ニ依リ下戻ヲ受ケタルモノト雖公用又ハ社寺境内ヲ廢シタル後ニアラサレハ權利ヲ行使スルトヲ得ス
第六條 下戻申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第七條 此ノ法律施行以前ニ差出シタル下戻ニ關スル申請書又ハ願書ハ此ノ法律ニ依リタルモノト看做ス

● 國有土地森林原野下戻法適用心得

(明治三十五年五月農商務省訓令第十二號)

大林区署

國有土地森林原野下戻法適用ノ儀ニ付テハ左ノ通り心得ヘシ

- 一 下戻法第一條中ニハ左ノ土地森林原野ヲ包含ス
 - 一 府縣設置以後政府ノ錯誤ニヨリ土地セシメタルモノニシテ地租改正ノ際誤テ官有ニ歸シタルモノ
 - 二 土地後政府ニ於テ民有ニ復歸セシムヘキコトヲ指令シタルモノニシテ地租改正ノ際誤テ官有ニ歸シタルモノ
 - 三 府縣設置ノ時期ハ各其地方ニ於テ府縣ヲ設置シタルトキヲ云フ
 - 四 下戻法ニ於テ公簿公書ト稱スルハ帳簿書面又ハ圖面ニシテ官吏公吏ノ作成シタルモノ、署名シタルモノ官署公署ノ編成ニ係ルモノヲ包含ス
 - 五 公簿公書ノ控ニシテ其成立正シキモノハ本書ト同一ノ效力ヲ有ス公簿公書ヲ補助スル爲私書ヲ引用スルコトヲ得
 - 六 下戻法ニ於テ土地森林原野ニ關シ所有ノ事實ト稱スルハ左ニ列記シタルモノヲ云フ
 - 一 村、部落、一個人ノ名受又ハ持抱タルコトヲ認

- メ得ヘキモノ
- 二 進退、勝手又ハ支配タル明文アルモノニシテ地盤所有ニ關係アルモノ
- 三 村、部落又ハ一個人トシテ境界ヲ爭ヒ持地ノ裁斷ヲ受ケタルモノ
- 四 村又ハ部落ノ内山トアリテ官有ト認ムヘカラサルモノ
- 五 札米、札錢其他報償ヲ收メ他ノ村若クハ部落ニ貸與シ又ハ入會ヲ許シ所有ノ實蹟アルモノ
- 六 入會ノ秣場ト定メ植林開墾ヲ禁シタル等ノ行爲カ所有權ノ效果ト認メ得ヘキモノ
- 七 季節、人員、用器又ハ採取物ヲ制限シテ他ノ村若クハ村落ニ入會ヲ許シタル行爲カ所有權ノ效果ト認メ得ヘキモノ
- 八 主産物ノ伐採賣却又ハ其代金ノ賦割等カ所有權ノ效果ト認メ得ヘキモノ
- 九 村山郷山村持山ト稱シ樹木植栽自然木ノ養護等進退ノ實蹟アルモノ
- 十 田畑宅地ニシテ一時荒地引トナリ所有權ヲ喪失シタル反證ナキモノ
- 十一 拂下下附賣買讓與質入書入開墾又ハ寄付セラ

- レタルモノ
- 十二 社寺ノ所有タルコトヲ幕府又ハ領主ニ於テ認メタルモノ
- 十三 御林建山園山留山(官山)ノ名稱アルモノ所有權ノ保留アリト認ムヘキモノ
- 十四 納租ノ事實判明セサルモノ正租ヲ賦課セラレタルコトヲ知り得ヘキモノ
- 十五 其他幕府及各藩ノ制度ニ於テ所有ノ事實アリト認ムヘキモノ
- 五 下戻法ニ於テ高受又ハ正租ト稱スルハ左ニ列記シタルモノヲ云フ
 - 一 本高
 - 二 本途物成若クハ小物成ニシテ使用料其他ノ雜稅ト認ムヘカラサルモノ
 - 三 其他幕府各藩ノ制度ニ於テ、正租ト認ムヘキモノ
- 六 下戻法ニ於テ立木竹ニ關シ所有ノ事實ト稱スルハ左ニ列記シタルモノヲ云フ
 - 一 私費造林ノ事實アルモノ
 - 二 褒賞給祿ニ代ヘ造林ヲ許可セラレ私費植栽シタルモノ

- 七 下戻法ニ於テ分收ノ事實ト稱スルハ左ニ列記シタルモノヲ云フ
 - 一 幕府又ハ舊藩ニ於テ分收ヲ條件トシテ苗木ヲ植付又ハ自然生ノ樹木ヲ保護シタルモノ
 - 二 地方ノ慣行ニヨリ分收ヲ目的トシテ立木ヲ植付又ハ自然生ノ樹木ヲ保護シタルモノ
 - 三 自費植栽ノ事實判明セサルモノモ官ヨリ其他ニ分收ヲ目的トシ植付許可セラレタル事跡明ニシテ實地年度相當ノ人植木ナルモノ
 - 四 其他幕府各藩ノ制度ニ於テ立木竹分收ノ事實アリト認ムヘキモノ
- 八 下戻法ニ於テ私費ト稱スルハ領主又ハ社寺ニ就テハ手元金、祠堂金、寄付養錢ノ類ニシテ所領ノ收入ニアラサルモノヨリ支出シタルヲ謂フ
- 九 公簿公書ニ記載シタル箇所ニシテ境界判明セサルモノハ實地ノ地形ニ據ル

現ニ高受ノ土地ニ札米ヲ課セラレタルモノハ高受ノ性質ヲ失ハサルモノトス

官有森林交換規定 (明治三十四年九月農商事務官令第三十八號)

- 第一條 官有森林ヲ以テ民有森林原野若クハ田畑ト交換セントスルトキハ此規程ニ準據スヘシ
- 第二條 官有森林ヲ以テ民有森林原野若クハ田畑ト交換スルコトヲ得ルハ官有森林ノ經營上必要ノ土地ニシテ少クトモ評定價格相均シキモノニ限ル
- 第三條 交換ヲ爲サントスル官有森林アルトキハ申込ノ期日ヲ定メ揭示若クハ官報新聞紙及其他ノ方法ヲ以テ左ノ事項ヲ公告スヘシ
 - 一 但特別ノ緣故アル官有森林又ハ官ニ於テ特ニ必要ナル民有地ノ交換ハ公告ノ法ヲ用キス
 - 二 交換ヲ爲サントスル官有森林ノ所在地及其字地番號
 - 三 交換ヲ爲サントスル官有森林ノ實測段別
 - 四 交換ヲ爲サントスル官有森林產物ノ種類及數量
 - 五 但樹木ノ數量ハ本數並ニ材積ヲ示スヘシ
 - 六 交換ニ應スヘキ民有地目ノ種類
- 第四條 前條ニ因リ交換ヲ申込マントスルモノアルトキ

- ハ左ノ事項ヲ具シ書面ヲ差出サシムヘシ
 - 一 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ所在地及其字地番號
 - 二 交換ノ爲メ提供スル民有地目
 - 三 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ段別及其土地ノ價格
 - 四 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野產物ノ種類數量及價格
 - 五 但田畑ニシテ產物ト共ニ交換セントスルトキハ本項ニ準スヘシ
 - 六 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ地形ヲ示セル繪圖面
 - 七 但隣接地目及最近官有森林トノ位置及距離ヲ記載スヘシ
- 第五條 交換ノ書面ヲ差出シタルモノアルトキハ提供ノ民有森林若クハ田畑ヲ實查シ經營上最モ必要ナルモノヲ選ビ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ
 - 一 交換ヲ爲サントスル官有森林及民有森林原野若クハ田畑ノ實測段別及地形並四隣ノ景況ヲ示セル明細繪圖及其土地ノ評定價格
 - 二 交換ヲ爲サントスル官有森林及民有森林原野田畑

第十六類 運輸 通信

第一章 運輸

- 鐵道國有法……………一
- 鐵道運輸規程……………三
- 南滿洲鐵道株式會社ニ關スル件一四
- 南滿洲鐵道株式會社ニ對シ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ結フノ件一六
- 船舶法……………一七
- 船舶法施行細則……………二一
- 船鑑札規則……………三八
- 船鑑札規則施行手續……………四一
- 回漕貨物取扱條例……………四四
- 航海獎勵法……………四六
- 航海獎勵法施行細則……………四八

第二章 通信

- 造船獎勵法……………五七
- 造船獎勵法施行細則……………五八
- 郵便法……………六二
- 郵便規則……………六七
- 年賀狀特別郵便規則……………八一
- 私製葉書製式規則……………八一
- 郵便貯金法……………八二
- 郵便貯金規則……………八四
- 郵便貯金利息割合……………一〇一
- 郵便爲替法……………一〇二
- 郵便爲替規則……………一〇三
- 郵便振替貯金規則……………一二二
- 郵便振替貯金ノ拂込ニ私製ノ拂込用紙ヲ使用スルヲ得ルノ件一二七

●電信法 一二七
●電報規則 一三三

第十六類 運輸 通信

第一章 運輸

●鐵道國有法 (明治三十九年三月三十日法律第十七號)

第一條 一般運送ノ用ニ供スル鐵道ハ總テ國ノ所有トス
但シ一地方ノ交通ヲ目的トスル鐵道ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 政府ハ明治三十九年ヨリ明治四十八年迄ノ間ニ
於テ本法ノ規定ニ依リ左ニ掲ケル私設鐵道株式會社所
屬ノ鐵道ヲ買收スヘシ

- 一 北海道炭礦鐵道株式會社
- 一 北海道鐵道株式會社
- 一 日本鐵道株式會社
- 一 岩越鐵道株式會社
- 一 北越鐵道株式會社
- 一 甲武鐵道株式會社
- 一 總武鐵道株式會社
- 一 房總鐵道株式會社
- 一 七尾鐵道株式會社
- 一 關西鐵道株式會社
- 一 參宮鐵道株式會社
- 一 京都鐵道株式會社

- 一 西成鐵道株式會社
- 一 阪鶴鐵道株式會社
- 一 山陽鐵道株式會社
- 一 德島鐵道株式會社
- 一 九州鐵道株式會社

前項ニ掲ケタル各會社ハ他ノ私設鐵道株式會社ト合併
シ又ハ他ノ私設鐵道株式會社ノ鐵道ヲ買收スルコトヲ
得ス

第三條 前條ニ掲ケタル各鐵道買收ノ期日ハ政府ニ於テ
之ヲ指定ス

第四條 政府ハ兼業ニ屬スルモノヲ除クノ外買收ノ日ニ
於テ會社ノ現ニ有スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株
主ニ對スル權利義務、拂込株金ノ支出殘額並收益勘定、
積立金勘定及雜勘定ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 買收價額ハ左ニ掲ケルモノトス
一 會社ノ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半
期ノ六營業年度間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ
平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乘シタル額
ヲ二十倍シタル金額
二 貯藏物品ノ實費ヲ時價ニ依リ公債券面金額ニ換算
シタル金額但借入金ヲ以テ購入シタルモノヲ除ク

第十六類 運輸、通信

第一章 運輸

●鐵道國有法 (明治三十九年三月三十日法律第十七號)

第一條 一般運送ノ用ニ供スル鐵道ハ總テ國ノ所有トス
但シ一地方ノ交通ヲ目的トスル鐵道ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 政府ハ明治三十九年ヨリ明治四十八年迄ノ間ニ
於テ本法ノ規定ニ依リ左ニ掲クル私設鐵道株式會社所
屬ノ鐵道ヲ買收スヘシ

- 一 北海道炭礦鐵道株式會社
- 一 北海道鐵道株式會社
- 一 日本鐵道株式會社
- 一 岩越鐵道株式會社
- 一 北越鐵道株式會社
- 一 甲武鐵道株式會社
- 一 總武鐵道株式會社
- 一 房總鐵道株式會社
- 一 七尾鐵道株式會社
- 一 關西鐵道株式會社
- 一 參宮鐵道株式會社
- 一 京都鐵道株式會社

一 西成鐵道株式會社

一 阪鶴鐵道株式會社

一 山陽鐵道株式會社

一 德島鐵道株式會社

一 九州鐵道株式會社

前項ニ掲ケタル各會社ハ他ノ私設鐵道株式會社ト合併
シ又ハ他ノ私設鐵道株式會社ノ鐵道ヲ買收スルコトヲ
得ス

第三條 前條ニ掲ケタル各鐵道買收ノ期日ハ政府ニ於テ
之ヲ指定ス

第四條 政府ハ兼業ニ屬スルモノヲ除クノ外買收ノ日ニ
於テ會社ノ現ニ有スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株
主ニ對スル權利義務、拂込株金ノ支出、殘額並收益勘定、
積立金勘定及雜勘定ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 買收價額ハ左ニ掲クルモノトス
一 會社ノ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半
期ノ六營業年度間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ
平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乘シタル額
ヲ二十倍シタル金額
二 貯藏物品ノ實費ヲ時價ニ依リ公債券面金額ニ換算
シタル金額但借入金ヲ以テ購入シタルモノヲ除ク

前項第一號ニ於テ益金ト稱スルハ營業收入ヨリ營業費
賞與金及收益勘定以外ノ諸勘定ヨリ生シタル利息ヲ控
除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合ト稱スルハ明治三
十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ每營業年度ニ
於ケル建設費合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ
除シタルモノノ二倍ヲ謂フ

第六條 借入金ハ建設費ニ使用シタルモノニ限り時價ニ
依リ公債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ之ヲ控除ス
會社カ鐵道及附屬物件ノ補修ヲ爲サス又ハ鐵道建設規
程ニ依リ期限内ニ改築若ハ改造ヲ爲ササル場合ニ於テ
ハ其ノ補修、改築又ハ改造ニ要スル金額ハ前項ノ例ニ
依リ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

第七條 資本勘定ニ屬スル支出ハ借入金ヲ以テシタルモ
ノヲ除クノ外順次ニ建設費及貯藏物品ニ對シ之ヲ爲シ
タルモノト看做ス

第八條 會社カ明治三十八年前半期ノ營業年度末ニ於テ
運輸開始後六營業年度ヲ經過シタル線路ヲ有セサル場
合又ハ第五條第一項第一號ノ金額カ建設費ニ達セサル
場合ニ於テハ政府ハ其ノ建設費以內ニ於テ協定シタル
金額ヲ以テ第五條第一項第一號ノ金額ニ代フ
第九條 左ニ掲グル場合ニ於テハ政府ハ審査委員ヲシテ

前項ニ依リ交付シタル金額ハ清算中ト雖主務大臣ノ認
可ヲ受ケ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

第十四條 政府ハ鐵道買收ノ執行ニ必要ナル額ヲ限度ト
シ公債ヲ發行ス

第十五條 政府ハ前條ニ依リ發行シタル公債及第四條ニ
依リ承繼シタル債務ノ整理ニ必要ナル額ヲ限度トシ公
債ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ利率、募集ノ方法、規約、据置年限及
償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 前二條ノ公債ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定ア
ルモノヲ除クノ外整理公債條例ヲ適用ス

第十七條 第五條第一項第二號及第六條ニ規定シタル公
債時價ハ買收期日前六箇月間ニ於ケル帝國五分利公債
ノ平均相場ニ依ル

前項平均相場ハ日本銀行ノ證明ニ依リ政府之ヲ定ム

第十八條 買收ヲ受クヘキ會社カ兼業ヲ營ム場合ニ於テ
ハ其ノ兼業ニ屬スル資産ヲ併セテ買收スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル

第九條乃至第十六條ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス
附則
第二條ニ掲グル會社ノ本法發布以後ニ於ケル貯藏物品ノ

決定ヲ爲サシムヘシ

一 權利義務ノ承繼ニ關シ又ハ計算ニ關シ會社ニ於テ
異議アルトキ

二 前條ノ場合ニ於テ協定調ハサルトキ
審査委員ノ決定ニ對シ不服アルトキハ會社ハ主務大臣
ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

審査委員ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 買收ノ執行ハ審査委員ノ審査中ト雖之ヲ停止セ
ス

第十一條 會社カ買收ニ因リテ解散シタルトキハ主務大
臣ハ解散ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十二條 買收代價ハ買收ノ日ヨリ五箇年以内ニ於テ券
面金額ニ依リ五分利付公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ
五十圓未満ノ端數ハ之ヲ五十圓トス

會社殘餘財産ノ分配ハ前項公債證書ヲ以テス
買收後公債證書ノ交付ヲ終ル迄ニ要スル清算人ノ職務
ニ關スル會社ノ費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ
支辨ス

第十三條 政府ハ買收ノ日ヨリ公債證書交付ノ日ニ至ル
迄買收價額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金
額ヲ從前ノ決算期毎ニ會社ニ交付スヘシ

購入、建設費ノ増減及債務ノ負擔ニ付テハ主務大臣ノ認
可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケサルモノニ付テハ政府之ヲ承繼セス但
シ政府ハ其ノ額ヲ査定シ又ハ相當ノ補償ヲ徴シテ之ヲ承
繼スルコトヲ得

●鐵道運輸規程

(明治三十三年八月)
(逓信省令第三十六號)

第一章 總則

第一條 鐵道係員ハ運輸上ノ安全便益ヲ旨トシ旅客及公
衆ニ對シ懇切ニ其ノ職務ヲ行フヘシ

第二條 旅客及公衆ハ鐵道係員ノ職務上ノ指圖ニ從フヘ
シ

第三條 鐵道ハ主要ナル停車場ニ申告簿ヲ備置クコトヲ
要ス

第四條 旅客貨物ノ取扱ニ關シ鐵道ノ處置ニ不當ノ廉ア
リト認ムル者ハ前條ノ申告簿ニ記載シ抗告ヲ爲スコト
ヲ得

申告簿ニ依リ抗告ヲ爲ス者ハ事實ヲ詳記シ其ノ住所ヲ
記シ署名スルコトヲ要ス

鐵道ハ氏名住所ヲ明示シタル抗告ニ付テハ遲滞ナク辯

明ヲ與フヘシ

第五條 停車場ニハ見易キ場所ニ驛名ヲ明示シ其ノ他旅客ノ指導タルヘキ標示ヲ爲スヘシ

第六條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運賃表、列車時刻表其ノ他運輸上必要ナル諸表規則等ヲ備置シヘシ

第七條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運送ニ必要ナル事項及鐵道ノ取締ニ關スル法令其ノ他ノ條項ヲ摘要シテ之ヲ揭示スヘシ

第八條 效用ヲ失ヒタル諸揭示類ハ即時ニ之ヲ撤去スヘシ

第九條 停車場ニハ時計ヲ備付正確ニ時刻ヲ齊正スヘシ

第二章 旅客運送

第十條 停車場ニハ見易キ場所ニ當該停車場ヨリノ列車出發時刻及終著驛名並適宜連絡列車ノ終著驛名ヲ揭示スヘシ

第十一條 停車場ニハ當該線路ニ於ケル列車時刻表、運賃表及必要ニ應シ他ノ關係線路ニ於ケル時刻表及運賃表ノ摘要ヲ揭示スヘシ

前項ノ時刻表ニハ列車ニ聯結スル客車ノ等級及種類ヲ表示スヘシ

第十二條 停車場ニハ見易キ場所ニ當該停車場ヨリノ旅客運賃表ヲ揭示スヘシ

第十三條 四年未滿ノ小兒ハ無賃、滿四年以上十二年未滿ノ小兒ハ半賃金ヲ以テ運送スヘシ

第十四條 乘車券ニハ通用區間及期限、客車ノ等級、運賃額並發行ノ日附ヲ記載スヘシ

特種及臨時發行ノ乘車券ニ在リテハ前項ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

第十五條 停車場ニ於テハ少クトモ列車ノ出發時刻十五分前ニ乘車券ノ賣出ヲ開始スヘシ交通頻繁ナル停車場ニ於テハ少クトモ一時間前ニ之ヲ開始スヘシ

出札ハ列車出發時刻五分前迄ハ之ヲ停止スルコトヲ得ス

改札口ハ同一分前迄ハ之ヲ閉鎖スルコトヲ得ス

第十六條 鐵道ハ旅客ニ對シ運賃金額正算拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 旅客ハ改札前ニ在リテハ其ノ買受ケタル乘車券ヲ他級ノ乘車券ト交換シ又ハ之ヲ返還シテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ運賃拂戻ノ請求ハ乘車券發行ノ當日ニ限ル

乘車券相當ノ坐席ナキ場合ニ於テ鐵道係員カ優等車ニ

一時便乘ノ取扱ヲ爲ササルトキハ旅客ハ選擇ニ依リ旅行ヲ止メ又ハ劣等車ニ移乘シテ運賃ノ全額又ハ差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ鐵道係員ニ申告スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ノ外旅客ハ乘車券ヲ返還シ運賃ノ拂戻ヲ受ケ又ハ劣等車ニ乘換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

改札後ト雖坐席ノ餘裕アルトキハ旅客ハ何時ニテモ運賃差額ヲ支拂ヒ優等車ヘ乘換ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十八條 乘車券ハ其ノ通用區間中何レノ部分ニ付テモ之ヲ使用スルコトヲ得但シ特種ノ列車ニ付監督官廳ノ認可ヲ得テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ乘繼驛限定ノ效ヲ妨ケス

第十九條 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ列車ノ運轉ヲ中斷シタルトキハ旅客ニ對シ相當ノ便宜ヲ與ヘ及保護ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ旅客ノ請求アルトキハ既ニ通過セル線路ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額ノ拂戻ヲ爲シ且出發停車場ヘ無賃送還スヘシ

第二十條 列車運延ノ爲相當ノ時間中ニ接續スル列車ニ乘車スルコトヲ得サルトキハ連絡乘車券ヲ有スル旅客ニ限リ其ノ請求ニ因リ無賃ニテ出發停車場(途中下車

セルトキハ其ノ最近下車停車場)ニ送還シ出發停車場ヨリノ運賃(途中下車セルトキハ其ノ最近下車停車場ト出發停車場トノ間ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額)ヲ拂戻スヘシ但シ旅客カ次回ノ返リ列車ヲ以テ中斷ナク復歸スルトキニ限ル

第二十一條 旅客カ任意ニ劣等車ニ便乘シタルトキハ運賃差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十二條 事故ノ爲列車發着ノ運延、運轉ノ中斷等アリタルトキハ關係停車場ニ遲滞ナク之カ揭示ヲ爲スヘシ

第二十三條 乘車券ヲ所持セス又ハ無効ノ乘車券ヲ以テ乘車シ若ハ檢査ノ際乘車券ノ呈示ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル旅客ニ對シ鐵道ハ普通運賃倍以内ノ割増運賃ヲ請求スルコトヲ得

乘車券ヲ買受ケルノ暇ナク鐵道係員ノ許諾ヲ得テ乘車シタル旅客ニ對シ鐵道ハ二十錢以内ノ割増ヲ請求スルコトヲ得

割増運賃又ハ増拂ノ支拂ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル證券ヲ交付スヘシ

第二十四條 列車出發時刻五分前ニ至ルトキハ鐵道係員ハ鳴鈴其ノ他便宜ノ方法ニテ發車ノ注意ヲ與フヘシ

第二十五條 列車ハ揭示時刻表ニ示サレタル時刻前ニ出

發せしムルコトヲ得ス

揭示時刻表ニ掲ケタル列車ノ運轉ハ天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ基因シタル運送上ノ支障アルトキ若ハ之ヲ豫知シタルトキノ外休止スルコトヲ得ス

第二十六條 鐵道係員ハ旅客ノ請求アルトキハ坐席ヲ指定スヘシ
必要ト認ムルトキハ旅客ノ請求ナキ場合ト雖坐席ノ指定ヲ爲スコトヲ得

旅客乗車中坐席ヲ離レ特ニ之ヲ占置カサルトキハ他人之ヲ占取スルモ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十七條 囚徒ヲ乗車セシムルトキハ普通旅客ト之ヲ區別スヘシ

第二十八條 列車出發ノ合圖アリタル後ハ旅客ハ乗車スルコトヲ得ス

出發時刻ニ後レタル爲發行當日限り通用ノ乗車券ノ效用ヲ失フニ至リタルトキハ其ノ翌日内ニ限り該乗車券ヲ以テ目的地ニ向ヒ發スル列車ニ乗車スルコトヲ得但シ乗後レノ際遲滞ナク其ノ乗車券ヲ鐵道係員ニ提出シ有效ノ證明ヲ受ケタルトキニ限ル

特ニ列車ヲ指定シタル乗車券ノ通用期限ハ前項ノ規定ニ依リテ延長セラルルコトナシ

第二十九條 旅客ハ同乗者ニ迷惑ヲ及ボス風體、行爲ヲ爲スヘカラス

車扉ニ凭リ又ハ肢體ヲ車外ニ出スヘカラス
車内ノ器具、裝飾物ヲ汚損セサル様注意スヘシ
燐寸ノ燃差、煙草ノ吸殻及唾等ヲ唾壺ノ外ニ投スヘカラス

線路係員、通行人等ニ危險ヲ與フルノ虞アル物品ハ猥ニ之ヲ投棄スヘカラス

第三十條 途中客車ニ不足ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ補充ノ準備ヲ爲スヘシ

第三十一條 列車カ停車場ニ到着シタルトキハ鐵道係員ハ停車場ノ名稱、乘換アルトキハ其ノ旨並停車場時間五分以上アルトキハ其ノ時間ヲ喚呼スヘシ

鐵道係員ハ停車場ニ下車スル旅客ノ爲速ニ車扉ヲ開クヘシ

列車カ停車場外ニ於テ停止スルトキハ縱令長時間ニ涉ルト雖鐵道係員ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ下車スルコトヲ得ス

第三十二條 三時間ニ少クトモ一回五分以上停車セサル列車ニハ各客車ニ便所ノ備アルコトヲ要ス

第三十三條 旅客自ラ携帶シ得ル物品ニシテ坐席ヲ塞カ

ノ半ヲ以テ制限トス
割引乗車券ヲ以テ乗車スル旅客ノ手荷物ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十九條 斤量ニ依リ運賃ヲ定メサル特定物品ハ小荷物トシテ託送ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ物品ニ付テハ鐵道ハ其ノ種類及運賃ヲ特定シテ監督官廳ノ認可ヲ得之ヲ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十條 託送手荷物ハ物品ノ散逸セサル様錠鎖緊束シ紛ラハシキ他ノ運送標記等ヲ附著スヘカラス

第四十一條 手荷物ヲ託送スル者ハ第十五條ニ規定スル乗車券賣出時間内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ但シ列車出發時刻ヨリ少クトモ五分前ニ之カ手續ヲ爲ササルトキハ次回ノ列車ヲ以テ運送セラルルモ故障ヲ述フルコトヲ得ス

第四十二條 手荷物ヲ託送スル者ハ其ノ乗車券ヲ鐵道係員ニ呈示スヘシ

第四十三條 手荷物ノ託送ヲ受ケタルトキハ引換ノ符票ヲ交付シ之ト引換ニ引渡ヲ爲スモノトス

第四十四條 手荷物受取ノ際前條引換ノ符票ヲ所持セサルトキハ其ノ受取ルヘキ權利アルコトヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ之カ引渡ヲ請求スルコト

ス且不潔、臭氣等ノ爲同乗者ニ迷惑ヲ及ボササルモノハ客車内ニ持込ムコトヲ得

前項ノ物品ニ對シテハ旅客自ラ保管ノ責ニ任スルモノトス

第三十四條 犬其ノ他ノ動物ハ客車内ニ携伴スルコトヲ得ス

第三十五條 携帶制限ヲ超ユル火藥類及危害ヲ他ニ及ボスヘキ處アル物品ハ客車内ニ持込ムコトヲ得ス

第二章 託送手荷物

第三十六條 旅客カ其ノ旅行ニ必要ナル物品ハ手荷物トシテ之ヲ託送スルコトヲ得但シ貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品及動物ハ此ノ限ニ在ラス

特種ノ列車ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ手荷物ノ運送ヲ取扱ハサルコトヲ得

第三十七條 火藥類及危害ヲ他ニ及ボスヘキ處アル物品臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品及容積重量過大ナル物品ハ手荷物トシテ託送スルコトヲ得ス

第三十八條 鐵道ハ旅客一人ニ付少クトモ三十斤迄ノ手荷物ヲ無賃ニテ運送スルノ便ヲ與フヘシ

半賃金ニテ運送スル小兒ノ無賃手荷物斤量ハ前記斤量

ヲ得ス

第四十五條 託送手荷物ハ其ノ到達停車場ニ於テ之カ引渡ヲ爲スヘキモノトス但シ時間其ノ他取扱ニ差支ナキトキハ旅客ノ請求ニ應シ中間停車場ニ於テモ之カ引渡ヲ爲スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ旅客ハ豫メ鐵道係員ニ乗車券ヲ呈示シ引渡ノ請求ヲ爲スヘシ

第一項但書ノ場合ニ於テハ手荷物運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十六條 第十九條及第二十條ノ場合ニ於テ旅客ヲ送還スルトキハ該旅客ノ託送セル手荷物ハ旅客ト共ニ之ヲ無償送還スヘシ此ノ場合ニ於テ手荷物運賃ノ償還ハ旅客運賃ノ例ニ依ル

第四十七條 手荷物到達後二十四時間内ニ引取ラサルトキハ保管料ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ保管料ハ監督官廳ノ認可ヲ得且運賃表ニ附記シテ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十八條 鐵道ハ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ旅客一人ニ對シ價格百圓以內ニ限り損害賠償ノ責ニ任スルモノトス

第四十九條 紛失手荷物ニ對シ賠償ヲ爲シタル後豫メ請

求アリタル場合ニ於テハ其ノ手荷物ヲ發見シタルトキ速ニ旅客ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ賠償金ヲ送付シ手荷物到達地又ハ託送地迄無料ニテ該手荷物ノ送付返還ヲ請求スルコトヲ得
旅客カ本條ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ賠償金領收ノ際書面ヲ以テ之カ豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 小荷物(小貨物)運送

第五十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル貨物ハ小荷物トシテ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送ノ便ヲ開クヘシ

第三十六條第二項ノ規定ハ小荷物ニ之ヲ準用ス

第五十一條 第三十九條ノ物品ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第五十二條 行商人及呼賣商人ノ攜帶スル物品ハ其ノ請求ニ因リ小荷物トシテ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第五十三條 小荷物ヲ託送セムトスル者ハ列車出發時刻ヨリ少クトモ二十分前迄ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ但シ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ付テハ第四十一條ノ

規定ヲ準用ス

第五十四條 第三十七條、第四十條、第四十三條及第四十四條ノ規定ハ小荷物ノ運送ニ之ヲ準用ス

第五十五條 第四十二條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ハ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ之ヲ準用ス
第五十六條 小荷物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第五章 死體運送

第五十七條 死體ヲ託送セムトスル者ハ列車始發停車場ニ於テハ其ノ出發時刻ヨリ少クトモ六時間前迄ニ、中間停車場ニ於テハ同時刻ヨリ少クトモ十二時間前迄ニ其ノ申込ヲ爲スヘシ

第五十八條 死體ハ堅固ナル棺槨ニ納メ密塞スヘシ
第五十九條 死體ヲ託送セムトスル者ハ死亡證書ヲ呈示シ且運送狀ニ其ノ寫ヲ添ヘ差出スヘシ

第六十條 死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附スヘシ
第六十一條 死體ハ手荷物車又ハ有蓋貨車ヲ以テ運送スルモノトス但シ特約ニ因リ特別車ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 死體ハ他ノ荷物ト隔離搭載スヘシ

飲食物及其ノ原料等ハ死體ト同一車中ニ共載スルコトヲ得ス

第六十三條 死體搭載ノ車輛ハ託送人ノ請求アル場合ノ外旅客列車(混合列車亦同シ)ニ聯結スヘシ

死體ハ成ルヘク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スヘシ又ハ已ムヲ得サル場合ノ外運送中ノ轉載スルコトヲ得ス

第六十四條 死體ハ到達後速ニ之ヲ引取ルヘシ若シ六時間内ニ引取ラサルトキハ鐵道ハ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六章 貴重品運送

第六十五條 金銀貨、貴金屬、紙幣、郵便切手、同業書、印紙、有價證券、寶石等貴重品ノ運送ニ付請求スル増賃金ハ左ノ割合ヲ超過スヘカラス

一 二十五哩未満 金十錢

一 二十五哩以上五十哩未満 金十五錢

一 五十哩以上百哩未満 金二十錢

同

一百哩以上二百哩未滿

金二十五錢

同

金五錢

前項ノ規定ニ準據シ増賃金ノ割合ヲ定ムルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ

増賃金ハ停車場中見易キ場所ニ揭示スルコトヲ要ス

第六十六條 前條ニ明記シタル品目ノ外貴重物ノ品目ヲ定ムルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

貴重品ノ品目ハ停車場中見易キ場所ニ揭示スヘシ

第六十七條 貴重品ハ嚴重ニ包裝封印シ列車出發時刻ヨリ少クトモ三十分前迄ニ託送ノ手續ヲ爲スヘシ

貴重品託送者ハ運送狀ヲ差出スヘシ

増賃金ノ支拂ニ對シテハ受領書ヲ交付スヘシ

第六十八條 貴重品ノ運送ハ特ニ定メタル列車ニ限ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第六十九條 貴重品ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第七章 動物運送

第七十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル小動物ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送ノ便ヲ開クヘシ

第七十一條 旅客ノ携帶スル小動物ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第七十二條 小動物ハ其ノ到達停車場ニ於テ即時ニ之カ引取ヲ爲スヘシ之カ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ

第七十三條 旅客ノ携帶スル犬ヲ除ク外小動物ハ逸出ノ虞ナキ様籠、網若クハ箱等ニ納レ託送スヘシ

第七十四條 旅客列車(混合列車亦同シ)ニ依ル小動物ノ運送ニ付テハ前各條ニ定アル場合ヲ除ク外小荷物運送ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十五條 鐵道ハ動物ノ運送ニ付附添人ヲ請求スルコトヲ得

附添人ノ乗車賃ハ下等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス

附添人ハ動物ヲ監視シ驛長ノ認諾ヲ受クルニ非サレハ他車ニ轉乘スルコトヲ得ス

附添人ハ藁、枯草等燃易キ物品アルトキハ喫煙具及發火シ易キ物品ヲ車中ニ携帶スルコトヲ得ス

第七十六條 猛獸ヲ託送セムトスル者ハ逸走其ノ他危害

防止ノ爲充分ナル羈絆ヲ施スヘシ

第七十七條 動物ヲ託送セムトスル者ハ豫メ其ノ申込ヲ爲シ列車出發時刻ヨリ少クトモ一時間前迄ニ之ヲ停車場ニ送致スヘシ

鐵道カ動物運送列車ヲ定メテ公告シタルトキハ託送人ハ前項ノ申込ヲ爲スコトヲ要セス

第七十八條 動物ノ積卸ハ鐵道ノ請求アルトキハ託送人受取人ニ於テ之ヲ擔當シ且之ニ要スル材料ヲ準備スヘシ

第七十九條 小動物ノ外動物ハ到達ノ通知ヲ受ケタル後速ニ之カ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ

第八十條 託送ノ際價格ヲ明告シ鐵道ノ請求ニ因リ増賃金ヲ支拂ヒタル場合ノ外鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル獸類ノ紛失損傷ニ付テハ左ニ掲クル金額以內ニ限リ賠償ヲ請求スルコトヲ得

一馬 一頭ニ付 金七十圓

一乳牛 同 金百圓

一牛 同 金三十圓

一犢 同 金十圓

一羊 同 金十圓

一豚 同 金五圓

一山羊 同 金十圓

一其ノ他ノ獸類 同 金五圓

第八十一條 託送ノ際明告セラレタル價格前條制限額ヲ越ユルトキハ鐵道ハ其ノ超過額ニ對シ左ニ掲クル割合以內ニ於テ増賃金ヲ請求スルコトヲ得

一五十哩未滿 價格金十圓ニ付(金十圓未滿亦同シ) 金十錢

一五十哩以上百哩未滿 同 金十五錢

一一百哩以上二百哩未滿 同 金二十錢

一二百哩以上ハ二百哩ヲ増ス毎ニ 同 金五錢

前項ノ規定ニ準據シ増賃金ヲ定ムルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ

増賃金ハ停車場中見易キ場所ニ揭示スルコトヲ要ス

第八十二條 動物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第八章 大荷物(大貨物)運送

第八十三條 鐵道カ直ニ運送ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テ特約ヲ以テ發送迄保管ノ爲貨物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ運送狀ニ特約ノ條件ヲ明記スルコトヲ要ス

荷受人ハ鐵道ノ承諾ヲ得テ停車場其ノ他ノ鐵道地内ニ自己ノ責任ヲ以テ發送迄一時貨物ヲ留置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鐵道ハ相當ノ留置料ヲ請求スルコトヲ得

第八十四條 貨物ヲ託送セムトスル者ハ貨物取扱時間内ニ運送狀ヲ添ヘ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第八十五條 運送狀ニハ左ノ事項ヲ掲クルコトヲ要ス

- 一 運送狀作成ノ地及年月日
- 二 發送停車場ノ名稱
- 三 到達停車場及所屬鐵道名
- 四 届先、荷受人ノ氏名又ハ商號及住所
- 五 貨物ノ品名、重量又ハ容積及其ノ荷造ノ種類、箇數並記號
- 六 價格ヲ明告スヘキトキハ其ノ價格
- 七 運送便ノ種類
- 八 運賃ノ支拂方法
- 九 貨物引換證請求ノ有無
- 十 特約ノ條件アルトキハ其ノ事項

十一 荷受人ノ氏名又ハ商號及住所

第八十六條 鐵道ハ運送狀ノ式紙ヲ停車場ニ備置キ荷受人ノ使用ニ供スヘシ

第八十七條 託送ノ際荷受人ノ請求アルトキハ鐵道ハ運送狀ノ原本ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ金五錢以内ノ手数料ヲ請求スルコトヲ得

第八十八條 鐵道ハ貨物ノ運送ヲ引受ケタルトキハ運送狀ニ其ノ受付番號ヲ記入スヘシ

第八十九條 貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ掲クルコトヲ要ス

- 一 貨物引換證作成ノ地及年月日
- 二 第八十五條第二號乃至第八號第十號及第十一號ニ掲ケタル事項
- 三 第八十八條ノ受付番號
- 四 運賃、増賃金、料金ノ額及其ノ受否

第九十條 荷受人ハ貨物ノ性質ニ依リ運送中ノ減量又ハ毀損ヲ防クニ必要ナル荷造ヲ爲スヘシ

貨物ニハ各箇ニ箇數、記號、宛名等ヲ明瞭ニ其ノ外面ニ標記シ他物ト取違ハサル様注意ヲ爲スヘシ且成ルヘク到達停車場名ヲ附記スヘシ

第九十一條 貨主カ貨物ノ積卸ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ

貨物取扱時間内ニ之ヲ爲スヘシ

貨切貨車ニ付テハ鐵道ハ之カ準備ヲ爲シ積卸時間ヲ定メ貨主ニ通知スヘシ

貨主カ前項ノ期間内ニ積卸ヲ爲ササルトキハ其ノ遲滯ニ對シ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル車輛留置料ヲ請求スルコトヲ得

第九十二條 一箇ノ重量五百斤以上若ハ其ノ才積三十才以上ノ貨物及二車以上ニ跨ル長大ナル貨物ノ積卸ハ貨主ノ負擔トス

第九十三條 貨主カ積卸ヲ負擔スル場合ニ於テハ鐵道所屬ノ器具ヲ使用スルトキハ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル料金ヲ請求スルコトヲ得

第九十四條 貨物ノ運賃其ノ他運送ノ爲受クル料金ハ鐵道ノ認諾アルトキノ外貨物託送ノ際ニ之ヲ支拂フヘシ

運賃金額ヲ確定スルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ概算拂ヲ請求スルコトヲ得

第九十五條 錠鎖保護ヲ要シ又ハ雨浸ヲ避クルノ必要アルモノ若ハ火氣ニ感シ易キ物品ハ有蓋貨車ニ搭載スヘシ但シ特約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條 鐵道ハ無蓋貨車用ノ覆布及綱ヲ準備スヘキモノトス其ノ使用ニ對シ料金ヲ請求スルコトヲ得ス但

シ貨車貨切ノ場合ニ於テ特約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 貨物カ到達停車場ニ到達シタルトキハ鐵道ハ直ニ到達ノ通知ヲ爲シ之カ引渡ノ準備ヲ爲スヘシ

貨物カ停車場外ニ送達セラルヘキモノナルトキハ直ニ之カ配送ノ手續ヲ爲スヘシ

貨物引取期間ノ懈怠ニ對シ保管料、留置料ヲ請求セムトスルトキハ鐵道ハ第一項ノ通知ニ其ノ旨ヲ明記シテ告知ヲ爲スコトヲ要ス

第九十八條 貨物ハ其ノ到達ノ通知ヲ受ケタル後二十四時間内ニ引取ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

前項ノ期間内ニ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ保管料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ保管料ハ監督官廳ノ認可ヲ得且運賃表ニ附記シテ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

荷受人カ荷卸ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第一項ノ期間内ニ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ荷受人ノ費用ヲ以テ貨物ノ引渡前荷卸ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 貨物ノ滅失又ハ毀損アリタルトキハ鐵道ハ速ニ調査ヲ遂ケ之ヲ書面ニ具シ荷受人及荷受人ニ通知スヘシ

第百條 貨物引換證ヲ交付シタル場合ニ於テ該證ノ紛失等ニ因リ之ト引換ニ貨物ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ引渡請求人ニ於テ其ノ權利ヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキニ限り貨物引渡ノ義務アルモノトス

第百一條 貨物引渡ノ際重量ノ検査若ハ貨物ノ状態ニ付證明ヲ請求セラレタルトキハ鐵道ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二條 第十九條ノ規定ハ貨物ノ運送ニ之ヲ準用ス

附 則

第百三條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●南滿洲鐵道株式會社ニ關スル件

(明治三十九年六月八日勅令第四百四十二號)

第一條 政府ハ南滿洲鐵道株式會社ヲ設立セシメ滿洲地方ニ於テ鐵道運輸業ヲ營マシム

第二條 會社ノ株式ハ總テ記名ト爲シ日清兩國政府及日清兩國人ニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

第三條 日本政府ハ滿洲ニ於ケル鐵道其ノ附屬財產及炭坑ヲ以テ其ノ出資ニ充ツルコトヲ得

第四條 會社ハ新ニ募集スル株式總額ヲ數回ニ分ツテ募

集スルコトヲ得但シ第一回募集額ハ總額ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 株金ノ第一回ノ拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第六條 會社ハ本社ヲ大連ニ、支社ヲ東京市ニ置ク(四十年勅令第二百二十二號ヲ以テ改正)

第七條 會社ニ總裁一人副總裁一人理事四人以上監事三人乃至五人ヲ置ク

第八條 總裁ハ會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ會社ノ業務ヲ分掌ス

第九條 總裁副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命シ其ノ任期ハ五箇年トス

第十條 總裁副總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ政府之ヲ定ム

第十條 總裁副總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ政府之ヲ定ム

第十條 總裁副總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ政府之ヲ定ム

第十條 總裁副總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ政府之ヲ定ム

第十條 總裁副總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ政府之ヲ定ム

第十二條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラズ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ政府ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 會社カ社債ヲ募集スルトキハ數回ニ分チテ其ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ得(三十九年勅令第二百四十三號ヲ以テ改正)

第十四條 社債ノ募集及定款ノ變更ハ總資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス(四十年勅令第二百二十二號ヲ以テ改正)

第十五條 政府ハ南滿洲鐵道株式會社監理官ヲ置キ會社ノ業務ヲ監視セシム

第十六條 監理官ハ何時ニテモ事業ノ施設ヲ監査シ會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

第十七條 監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

第十八條 監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第十九條 政府ハ會社ノ事業ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第二十條 會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法律命令若ハ會社ノ目的ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ又ハ監督官職ノ

命シタル事項ヲ執行セサルトキハ政府ハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解職スルコトヲ得

第二十一條 政府ハ必要ト認ムルトキハ帝國内ニ於ケル鐵道ニ關スル法令ノ規定ヲ會社ニ適用スルコトヲ得

第二十二條 前項ノ場合ニ於テハ政府ハ適用スヘキ法令ノ事項ヲ會社ニ豫告スヘシ

第二十三條 本令ニ別段ノ定ナキモノハ商法及附屬法令ノ規定ヲ適用ス

第二十四條 明治三十三年勅令第三百六十六號ハ本令ニ依リ設立スル會社ニ之ヲ適用セス

附 則

第二十五條 政府ハ設立委員ヲ置キ南滿洲鐵道株式會社設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十六條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後第一回株式ヲ募集スヘシ

第二十七條 設立委員ハ第一回株式ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ差出シ會社設立ノ許可ヲ稟請スヘシ

第二十八條 前條ノ許可ヲ得タルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第二十九條 前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總

會ヲ召集スルシ

第二十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ南滿洲鐵道株式會社總裁ニ引渡スヘシ

●南滿洲鐵道株式會社ニ對シ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ結フ件(明治四十一年二月)

南滿洲鐵道株式會社ニ對シ左ノ條件ニ依リ其ノ利益配當及社債利子ノ補給ヲ爲シ並社債元利ノ支拂ヲ保證スルノ契約ヲ結フコトヲ得

- 一 會社ハ明治三十八年十二月二十二日調印ノ滿洲ニ關スル日清條約附屬協約ニ依リ大連長春間、南關嶺旅順間、大房身柳樹屯間、大石橋營口間、煙臺煙臺炭坑間、蘇家屯撫順間及奉天安東縣間ノ鐵道運輸業並鐵道便益ノ爲營業殊ニ撫順及煙臺ノ炭礦採掘、水運業、電氣業、倉庫業、鐵道附屬地ニ於ケル土地及家屋ノ經營其ノ他政府ノ許可ヲ受ケタル業務ヲ營ミ且該鐵道ハ營業開始ノ日ヨリ三箇年內ニ四呎八吋半ノ軌間ニ改築シ大連長春間ノ內大連蘇家屯間ヲ複線ト爲シ又沿道主要ノ停車場ニ旅客ノ宿泊食事及貨物ノ貯藏ニ必要ナル諸設備ヲ爲シ線路ノ港灣ニ達スル地點ニ於テ水陸運輸ノ連絡ニ必要ナル設備ヲ爲スコ

其ノ拂込登記ノ翌月ヨリ政府ハ其ノ社債ノ利子ニ相當スル金額ヲ補給スルコト

- 九 株主ノ拂込金ニ對スル利益配當年六分ノ割合ヲ超過スルニ至リタルトキハ其超過ノ金額ハ先ツ社債ノ利子ニ充當スルコト此場合ニ於テハ前項補給金ハ該充當額ヲ控除シテ下付スルコト
- 十 會社ノ利益カ前項社債利子ヲ支拂ヒ尙ホ剩餘アルトキハ該剩餘ハ總株式ノ各拂込高ニ對シ配當割合均一ニ至ルマテ之ヲ日清兩國政府持株ニ配當スルコト
- 十一 第二項及第八項ニ規定シタル政府ノ補給金ハ之ニ年六分ノ割合ノ利子ヲ付シ之ヲ毎年元金ニ加算シ政府ニ對スル會社ノ債務トスルコト
- 十二 會社ノ總株式ニ對スル利益配當年一割ノ割合ヲ超過スルニ至リタルトキハ其超過額ハ前項債務ノ償還ニ充ツルコト

●船舶法 (明治三十二年三月法律第四十六號)

- 第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
 - 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
 - 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
 - 三 日本ニ本店ヲ有スル商專會社ニシテ合名會社ニ在

- 二 資本總額ハ金貳億圓トシ每營業年度ニ於ケル利益配當カ日清兩國政府以外ノ株主ノ拂込金ニ對シ年六分ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ設立登記ノ日ヨリ起算シ十五箇年間ヲ限リ之ヲ補給スルコト
- 三 利子補給額ハ如何ナル場合ト雖モ日清兩國政府以外ノ株主ノ拂込金ニ對シ年六分ノ割合ヲ超過セサルコト
- 四 每營業年度ニ於ケル利益配當カ株主ノ拂込金ニ對シ年六分ノ割合ヲ超過セサルトキハ政府ノ持株ニ對シ配當ヲ爲スヲ要セサルコト
- 五 鐵道ノ改築又ハ附帶事業ノ經營ノ爲發行スル社債及該社債ヲ整理償還スル爲發行スル社債ニ對シ政府ハ其ノ利子支拂ノ保證ヲ爲シ仍必要アラハ元金支拂ノ保證ヲ爲スコトアルヘキコト
- 六 政府ニ於テ保證スヘキ社債ノ額面金額ハ常ニ政府ノ引受ニ屬セサル株式總額中ヨリ其ノ拂込金額ヲ控除シタル剩餘額ヲ超過セサルコト
- 七 政府ニ於テ保證ノ社債ハ起債ノ年ヨリ二十五箇年內ニ償還スルコト
- 八 第五項ノ趣旨ニ依リ會社ノ發行スル社債ニ對シテハ

ソテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式會社合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ノ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス
第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス
船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測定ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受ケルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得 (三十八年法律第六十八號ヲ以テ條中改正)

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受ケルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解散セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十条ニ掲ケル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ亦同シ (同上ヲ以テ條中改正)

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者者カ抹消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一箇月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得 (同上ヲ以テ條中追加)

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳管轄區域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有效期間滿了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他格櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ格櫂ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但獲捕ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス
日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル

旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス (同上ヲ以テ條中改正)

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以上ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セザルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第

二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラザルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附則

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセザルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本

法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 本法施行ノ際登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有効期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到著シタルトキハ此限ニ在ラス

登簿船假免狀ノ有効期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受スルコトヲ得

第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期間カ經過セザルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六箇月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

附則 (三十八年法律第六十八號追加)

船舶國籍證書ヲ受有スル日本船舶ニシテ本法施行前ニ第二十二條ニ掲ケタル船舶トナリタルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル二週間ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

船舶法施行細則

(明治三十二年六月 逓信省令第二十四號)

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラズ之ヲ汽船ト看做ス
主トシテ帆ヲ以テ運航スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

第二條 淺瀬船ハ推進器ヲ有セザレハ之ヲ船舶ト看做サス

第三條 船籍港ハ各市町村ノ名稱ニ依ル但市制、町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキ區畫ノ名稱ニ依ル

第四條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得
一 試運轉ノトキ
二 積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ
三 正當ノ事由アルトキ

第五條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ掲ケルコトヲ得
一 祝日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル

二 所有權ノ取得、持分ノ移轉、所有者ノ國籍取得ニ依リ又ハ商會社其他ノ法人ニシテ船舶法第一條第一項第三號第四號若クハ第二項ニ掲ケタル條件ノ具備ニ依リ船舶ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ在リテハ前號ニ掲ケタル事項ノ外造船者、汽機及汽鐘ノ製造者ノ氏名又ハ名稱並船舶ノ原名ヲ證スル書面船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ積量噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ト爲リタル場合ニ在リテハ地方長官ニ於テ前項第二號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第九條 積量ノ測度ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ構造、航路ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ検査執行地マテ航行セシムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
第十條 積量ノ測度ヲ申請スル者ハ測度ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ
第十一條 第八條及前條ノ規定ハ船舶法第四條第三項ノ規定ニ依リ外國ニ於テ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ積量ノ測度ヲ行フ場所ハ當該官廳之ヲ指定ス

二 前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ
三 進水ノトキ

四 前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ
第六條 船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條 本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二章 積量ノ測度

第八條 船舶法第四條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
一 製造ニ依リ船舶ヲ取得シタル場合又ハ製造後未タ積量ノ測度ヲ申請セザル船舶ヲ取得シタル場合ニ在リテハ造船者ニ於テ製造地、進水ノ年月日ヲ證スル書面及機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機、汽鐘ノ製造者ニ於テ汽機、汽鐘製造ノ年月日ヲ證スル書面

第十二條 管海官廳ニ於テ積量ノ測度ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ第二號書式ノ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ
管海官廳ハ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付シ同時ニ第八條第二項及第三項ニ依リ差出シタル證書ヲ還付スヘシ
第十三條 前條ノ規定ハ第十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス
前項ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ
第十四條 第九條但書ノ場合ニ於テ船舶ノ所在地當該管海官廳ノ管轄區域外ナルトキハ該官廳ハ其所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ對シテ前ニ規定スル事務ヲ囑託スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル管海官廳ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ニ船舶件名書ヲ送付スヘシ
第十五條 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル部分及測度ノ爲メ検査官吏ノ臨檢ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ
第九條第十條第十二條及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得但量噸ノ甲板下部ノ噸數及甲板間ノ噸數ヲ測度スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ此限ニ在ラス

第十條及第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス第八條ノ申請ヲ爲ス者前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ謄本ヲ受ケタルトキハ之ヲ申請書ニ添付スヘシ

第二章 船舶ノ登録

第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲スニハ申請書ニ登記ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ハ關係書類ヲ調査シ汽船及機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一 番號
- 二 信號符字
- 三 種類
- 四 名稱
- 五 船籍港
- 六 甲板ノ層數及種類

- 七 外板ノ材料
- 八 船骨ノ材料
- 九 橋ノ數
- 十 網具ノ裝置
- 十一 船首ノ形狀
- 十二 船尾ノ形狀
- 十三 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル長
- 十四 船舶積量測度方法ニ依ル量噸甲板下ノ長
- 十五 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル幅
- 十六 船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面迄ノ幅
- 十七 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル深
- 十八 船舶積量測度方法ニ依ル量噸甲板下ノ長ノ中央ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内張板ノ上面迄ノ深
- 十九 支水隔壁ノ數
- 二十 二重底ノ位置及容量
- 二十一 最大喫水
- 二十二 量噸甲板下部ノ噸數
- 二十三 量噸甲板上部ノ噸數
- 二十四 甲板間ノ噸數
- 二十五 船首樓ノ噸數
- 二十六 船橋樓ノ噸數

船尾樓ノ噸數

圓室ノ噸數

其他蔽圍セル場所ノ噸數

- 二十四 總噸數
- 二十五 登簿噸數
- 二十六 船員常用室ノ噸數
- 二十七 機關室ノ噸數
- 二十八 汽機ノ種數及數
- 二十九 汽鐘ノ種類及數
- 三十 汽鐘ノ材料
- 三十一 汽笛ノ數
- 三十二 汽笛ノ徑
- 三十三 汽笛ノ行長
- 三十四 推進器ノ種類及數
- 三十五 公稱馬力
- 三十六 製造地
- 三十七 進水ノ年月日
- 三十八 汽機製造ノ年月日
- 三十九 汽鐘製造ノ年月日
- 四十 汽機製造者ノ氏名又ハ名稱
- 四十一 汽鐘製造者ノ氏名又ハ名稱

四十二 造船者ノ氏名又ハ名稱

四十三 原名

四十四 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所並共有者ナルトキハ其持分

帆船ニ在リテハ前項第一號乃至第二十六號第三十六號第三十七號第四十二號乃至第四十四號ノ事項ヲ登録ス石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第二項第一號第三號乃至第五號第七號乃至第九號第三十六號第三十七號第四十二號乃至第四十四號ノ事項及左ノ事項ヲ登録ス

一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長

二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅

三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面マテノ深

四 積石數

第二項第十四號第十六號第十八號及前項ノ長、幅及深ハ曲尺ヲ以テ測リタル尺度ヲ登録ス

第十八條 船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十九條 管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

一 所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱

ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ

二 船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若クハ削除スルトキ

三 所有者ニ於テ自己ノ行為ニ因ルニアラスシテ船舶ノ名稱ノ爲メニ著シキ不便ヲ受クルトキ

第二十條 甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船舶ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶ノ登錄用紙ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登錄ノミヲ謄寫ス乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登錄ヲ移ス

第二十一條 船籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第二十二條 第十七條第二項第六號乃至第十二號第十九號乃至第二十一號第二十八號乃至第三十五號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登錄ヲ爲サントスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ヲ交付ヲ受クルコトヲ得

前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添附スヘシ

第二十四條 第十七條第二項第十三號乃至第十八號第二十二號乃至第二十七號又ハ第四項各號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サントスル者ハ第十五條ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記簿ヲ添附シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

第二十六條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但第二十一條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二十七條 船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ登記簿ヲ添ヘ船籍

港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶ノ登錄用紙ヲ閉鎖ス(三十八年通商令第十五號ヲ以テ條中改正)

前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶ノ登錄用紙ヲ閉鎖ス(同上ヲ以テ追加)

第二十七條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ通知スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數

二 船舶所有者ノ住所、氏名又ハ名稱

三 抹消ノ登錄ヲ爲シタル原因

四 抹消ノ登錄ヲ爲シタル年月日(同上ヲ以テ追加)

第二十八條 船舶所有者ニ於テ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ登錄ノ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第二十九條 何人ト雖モ手數料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限

リ船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ニ依リ船舶ノ登錄ヲ爲シタルトキハ第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變更ノ登錄ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書ニ記載シタル行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ之ヲ請受ケントスルトキ亦同シ

第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但第

二十條第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳之ヲ交付ス
 第三十五條 船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付アリタルトキハ遲滞ナク舊證書ヲ返還スヘシ
 第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ説明スルニ必要ナル書類アルトキハ其書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ
 船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ(三十八年逓信省令第十五號ヲ以テ本項改正)
 假船舶國籍證書ノ様式ハ第四號書式ニ依ル
 第三十七條 船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル者ハ第五號書式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ
 第三十八條 假船舶國籍證書ノ有効期間ハ其船舶ノ船籍港ニ回航セントスル場合ニ於テハ到達スヘキ期間ヲ標準トシ其他ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船舶法第十七條ニ定ムル期間内ニ於テ當該管海官廳之ヲ定ム

第三十九條 假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ
 第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス
 第四十條 假船舶國籍證書ハ其效力ヲ失ヒタルトキ又ハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ
 第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ説明スヘシ
 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ管海官廳ハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告ス
 第四十二條 第二十八條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス
 第五章 國旗及船舶ノ標示
 第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲クヘシ
 一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ

二 帝國ノ燈臺又ハ海岸燈樓ヨリ要求セラレタルトキ
 三 外國ノ港ヲ出入スルトキ
 四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ
 五 法令ニ別段ノ定アルトキ
 第四十四條 船舶ニ標示スヘキ事項及其方法ハ左ノ如シ但石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ第四十五條ノ規定ニ依ル
 一 船首兩舷ノ外部ニ船舶ノ名稱、船尾外部ノ見易キ所ニ船舶及船籍港ノ名稱ヲ四吋以上ノ國字及羅馬數字ヲ以テ記スルコト
 二 中央ノ船梁ニ船舶ノ番號、總噸數及登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ其番號及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘著スルコト
 三 船首材及船尾材、船尾材ナキトキハ舵柱ノ外部兩側面ヘ噴水ヲ示ス爲メ龍骨ノ下面、副龍骨ヲ有スルトキハ其下面直線ヨリ最大噴水ニ至ルマテ一呎毎ニ六吋ノ羅馬數字又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル噴水線ト一致スルコト
 第四十五條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ前條ニ定メタル方法ニ依リ船尾ニ船舶及船籍港ノ名稱、船梁ニ

船舶ノ番號及積石數ヲ標示スヘシ
 第四十六條 船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久ニ耐ユル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第四十七條 標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其標示ヲ改ムヘシ
 第六章 登録稅、手數料、旅費及日當
 第四十八條 登録稅法ノ規定ニ從ヒ登録稅ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登録稅納付書ヲ登錄ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ
 一 第十七條第一項ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第一號
 二 船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ共有者ノ持分ノ變更ニ依リ登録稅ヲ爲ス場合、第二十二條又ハ第二十四條ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第四號
 三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第三號
 四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第二號
 第四十九條 登録稅法第四條第一項第四號ニ付テハ第十

七號第二項各號又ハ第四項各號ノ事項ノ變更ヲ以テ毎一箇トス

第五十條 登録稅納付書ニハ船舶ノ名稱、積量及稅金額ヲ記載シ登録稅法第四條第一項第四號ノ場合ニ於テハ變更ノ箇數ヲモ記載スヘシ

第五十條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ船舶所有者ノ住所又ハ船舶管理人所ノ住所ヲ管轄スル稅務署ニ通知スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數
二 船舶所有者又ハ船舶管理人ノ住所、氏名又ハ名稱
三 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日

四 登録稅額 (三十八年遞信省令第十五號ヲ以テ追加)
第五十一條 第二十九條ノ手数料ハ左ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

一 謄本ノ交付 一枚ニ付金二十錢
二 抄本ノ交付 一枚ニ付金二十錢
三 船舶原簿ノ閱覽 金二十錢

第五十二條 登録稅納付書又ハ前條ノ申請書ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

セサル船舶ニ付テハ船舶法施行ノ日ヨリ起算シ二箇年內ニ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ積量ノ測定ヲ申請スヘシ

前項ノ船舶ニシテ登録船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ前項ノ規定ニ拘ハラヌ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ前項ノ申請ヲ爲スヘシ

第五十八條 第十條及第十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス
前項ノ規定ニ依リ船舶ニ臨檢シタル検査官吏ハ積量ノ測定ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第五十九條 前條ノ規定ニ依リ積量ノ測定ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ登録及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ
前項ノ申請ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

一 船舶ノ番號、名稱及積量
二 船籍港
三 船舶共有者ニ在リテハ各共有者ノ住所、氏名又ハ名稱及持分
第六十條 前條ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添附スヘシ

第五十三條 船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶検査執行地以外ニ検査官吏ノ出張シタルトキハ船舶所有者ハ成規ノ旅費及日當ヲ當該管海官廳ニ納付スヘシ

第七章 罰則

第五十四條 本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第五十五條 本則ハ船舶法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第五十六條 明治二十六年(二月)遞信省令第三號、同年(三月)遞信省令第六號失踪船取扱規則、同年(同月)遞信省告示第八十五號及明治二十九年(四月)遞信省令第三號登録船免狀取扱規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第五十七條 船舶法施行ノ際登録船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法ノ規定ニ依リ登録ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クヘキモノノ所有者ハ登録噸數十五噸以上又ハ積石數百五十石以上ノ船舶ニ付テハ船舶法施行ノ後始テ定期検査又ハ特別検査ヲ申請スルトキ當該検査官廳ニ、登録噸數十五噸未滿ノ汽船及検査ヲ要

シ
一 登記ノ謄本
二 機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機及汽鐘ノ製造者ニ於テ其製造ノ年月日ヲ證スル書面

三 船鑑札ヲ受有スル船舶ニ在リテハ當該地方官廳ニ於テ原名、製造地、進水ノ年月日及造船者ノ氏名ヲ證スル書面
第六十一條 管海官廳ニ於テ第五十九條ノ申請ニ依リ登録ヲ爲ストキハ登録船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル製造年月ヲ以テ進水ノ年月日ト看做ス

第六十二條 登録船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滞ナク該免狀ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ
船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滞ナク該鑑札ヲ原地方官廳ニ返還スヘシ

第六十三條 第五十四條ノ罰則ハ前條ノ義務ヲ怠リタル船舶所有者ニ之ヲ適用ス
第六十四條 船舶法施行ノ際登録船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ハ登録ヲ了ルマテ第四十四條又ハ第四十五條ノ標示ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 第四十條及第五十四條ノ規定ハ船舶法施行

ノ際受有スル假免狀ニ之ヲ準用ス

(第一號書式)

積量測定申請書

汽(帆)船何丸

- 一 船籍港
何市町村(何府縣何國何郡)
- 二 積量
總噸數何噸又ハ積石數何石
造船者ノ氏名又ハ名稱
- 三 何某又ハ何會社(何府縣何國何郡何市町村)
- 四 製造地
何府縣何國何郡何市町村
- 五 進水ノ年月日
明治又ハ西曆何年何月何日
- 六 汽機製造者ノ氏名又ハ名稱
何某又ハ何會社
- 七 汽機製造ノ年月日
明治又ハ西曆何年何月何日
- 八 汽罐製造者ノ氏名又ハ名稱
何某又ハ何會社
- 九 汽罐製造ノ年月日

明治又ハ西曆何年何月何日

原名

同々

十一 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所並共有者ナルトキハ其持分
何府縣何國何郡何市町村何番地何某又ハ何會社

十二 船舶管理人ノ住所氏名
何府縣何國何郡何市町村何某

十三 測定ヲ受ケントスル場所
某所

右者今般新造致シ(又ハ何國人何某ヨリ買受ケ等)貴管内ニ船籍港ヲ定メ候ニ付積量測定相成度關係書類何通相添此段及申請候也

明治 年 月 日

住所

某印

(管海官廳名)

御中

(備考)

- 一 船名、郡市町村名、氏名及名稱ニハ振假名ヲ附記シ外國ノ名稱ナルトキハ外國文字ヲ附記スヘシ
- 二 原名ト稱スルハ國籍取得前ニ於ケル最近ノ船名

ヲ謂フ

三 前記件名中船舶ノ種類ニ依リ事項ナキモノハ之ヲ省略スヘシ

(第二號書式)

船舶件名書

- 一 甲板ノ層數及種類
汽(帆)船何丸
- 二 外板ノ材料
鋼、鐵又ハ木
- 三 船骨ノ材料
鋼、鐵又ハ木
- 四 橋ノ數
何本
- 五 網具ノ裝置
「シツプ」「パーク」「パーケンタイン」「ブリック」「ブリガンタイン」「スクーナー」「カッター」「スループ」等
- 六 船首ノ形狀
曲形、斜形又ハ直形
- 七 船尾ノ形狀

圓形、橢圓形又ハ方形

八 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル長何尺何時

九 船舶積量測定方法ニ依ル量噸甲板下ノ長何尺何寸何分

十 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル幅何尺何時

十一 船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅何尺何寸何分

十二 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル深何尺何時

十三 船舶積量測定方法ニ依ル量噸甲板下ノ長ノ中央ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内張板ノ上面迄ノ深何尺何寸何分

十四 支水隔壁ノ數幾何

十五 二重底ノ位置及容量

全通何噸又ハ船首何噸、船尾何噸、前艙何噸、後艙何噸等

十六 最大喫水

- 何呎何時
- 十七 總噸數
- 何噸
- 十八 登簿噸數
- 何噸
- 十九 汽機ノ種類及數
- 聯成、聯成冷汽、重聯成、三聯成等 何箇
- 二十 汽罐ノ種類及數
- 箱形、橢圓形「ベルビーニ」水管式等 何箇
- 二十一 汽罐ノ材料
- 鐵又ハ鋼
- 二十二 汽筒ノ數
- 何箇
- 二十三 汽筒ノ徑
- 高壓何時中壓何時低壓何時
- 二十四 汽筒ノ行長
- 何時
- 二十五 推進器ノ種類及數
- 外車、螺旋推進器等何箇
- 二十六 公稱馬力
- 幾何

右明治何年何月何日某所ニ於テ臨檢シタル處前記ノ通相違無之候也

所屬官廳

官 氏 名印

明治 年 月 日

(備考) 本書式中ノ件名ハ汽船ヲ標準トシテ列舉シタルモノナルヲ以テ帆船ニ付テハ第十七條第三項乃至第五項ノ規定ニ依リ變換又ハ省略スヘシ

(輪廓鉤鎖) (第三號書式) 甲 汽船ニ用ユル分

一尺一寸五分 横一尺

國		船		籍		證		箱	
年	月	日	名	種	號	尺	度	噸	機
進水ノ	製造地	船籍港	船名	種類	番號	船體最長ノ長さニ依ル量	船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	噸數	汽機ノ種類及數
製造者	製造地	船籍港	船名	種類	番號	船體最長ノ長さニ依ル量	船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	噸數	汽機ノ種類及數
製造者	製造地	船籍港	船名	種類	番號	船體最長ノ長さニ依ル量	船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	噸數	汽機ノ種類及數

(輪廓鉤鎖) (第三號書式) 乙 帆船ニ用ユル分

一尺一寸五分 横一尺

國		船		籍		證		箱	
年	月	日	名	種	號	尺	度	噸	機
進水ノ	製造地	船籍港	船名	種類	番號	船體最長ノ長さニ依ル量	船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	噸數	汽機ノ種類及數
製造者	製造地	船籍港	船名	種類	番號	船體最長ノ長さニ依ル量	船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	噸數	汽機ノ種類及數
製造者	製造地	船籍港	船名	種類	番號	船體最長ノ長さニ依ル量	船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	噸數	汽機ノ種類及數

(輪廓鉤鎖) (第三號書式) 丙 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ用ユル分 一尺一寸五分 横一尺

(輪廓鉤鎖) (第三號書式) 乙 帆船ニ用ユル分

一尺一寸五分 横一尺

國		船		籍		證		箱	
年	月	日	名	種	號	尺	度	噸	機
進水ノ	製造地	船籍港	船名	種類	番號	船體最長ノ長さニ依ル量	船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	噸數	汽機ノ種類及數
製造者	製造地	船籍港	船名	種類	番號	船體最長ノ長さニ依ル量	船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	噸數	汽機ノ種類及數
製造者	製造地	船籍港	船名	種類	番號	船體最長ノ長さニ依ル量	船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	噸數	汽機ノ種類及數

四重ノ噸數	何噸
其他國國ニル場所ノ噸數	何噸
十七 總噸數	何噸
十八 登陸噸數	何噸
十九 船員常川室ノ噸數	何噸
二十 機關室ノ噸數	何噸
二十一 汽機ノ種類及數	聯成、聯成冷汽、重聯成、三聯成等何箇
二十二 汽機ノ種類及數	角形、楕圓形、ベルビーニ水管式等何箇
二十三 推進器ノ種類及數	外車、螺旋推進器等
二十四 汽機製造者	何某又ハ何會社
二十五 汽機製造ノ年月日	明治又ハ西曆何年何月何日
二十六 汽機製造者	何某又ハ何會社
二十七 汽機製造ノ年月日	明治又ハ西曆何年何月何日
二十八 船舶所有者又ハ共有者及持分	何府縣何國何郡何市町村何番地何某又ハ何會社

右者今般新造致シ又ハ何國人何某ヨリ買受ケ等ノ候ニ付假令船舶國籍證書交付相成度船舶法第十五條(又ハ第十六條)船舶法施行細則第三十七條ニ依リ關係書類何通相添此段及申請候也

明治 年 月 日 住 氏 所 名 印

(管海官廳名)

備考 本書式申ノ件名ハ汽機ヲ標準トシテ列舉シタルモノナルヲ以テ汽機船ニ付テハ第四號書式ノ乙、丙ノ書式ニ記載シタル件名ニ對照シ變換又ハ省略スヘシ

●船鑑札規則

(明治四十年五月逕信省令第二十四號)

第一條 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除ク外日本ニ船籍港ヲ定メ船鑑札ヲ受有スヘシ

一 總噸數五噸未滿又ハ積石數五十石未滿ノ帆船

二 端舟其ノ他櫓權ノミヲ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟

第二條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船鑑札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ差出スヘシ

管海官廳、日本ノ領事館、貿易事務館其ノ他相當官廳ニ於テ積量ノ測定ヲ受ケタル船舶ニ付テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ヲ測定スヘシ但前條第二項ノ證明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測定ヲ爲シタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ

第五條 船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其ノ他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之

ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ船鑑札カ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ書換ヲ申請スヘシ

第二條第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ル場合ニ之ヲ準用ス

船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ船舶所有者ノ變更ニ係ルトキハ第一項ノ申請ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 甲地方官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ遲滞ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測定ニ關スル書類ヲ添附シテ其ノ旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

第九條 行政區畫變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキ

ハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タヌ遲滞ナク船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測定ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但前項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ再交付ヲ申請スヘシ

第十一條 地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ

第十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

一 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解散セラレタルトキ

二 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ

三 船舶カ船舶法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有ス

ルニ至リタルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第十三條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受クルモノノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨視セシメ必要アリト認ムルトキハ積量ノ改測ヲ執行セシム

第十五條 第一條、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十六條 本則ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治二十九年十二月二十八日遞信省令第二十五號船鑑札規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十八條 本則施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶所有者

者ハ本則施行ノ日ヨリ五箇年內ニ於テ地方長官ノ定ムル期間內ニ更ニ船鑑札ノ交付ヲ申請シ現ニ受有スル船鑑札ヲ返還スヘシ

前項ノ期間內ト雖モ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換又ハ交付ヲ要スルトキハ遲滞ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條、第三條及第四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 本則施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本則ノ規定ニ從ヒ更ニ船鑑札ヲ受有スルニ至ルマテ本則ニ定ムル船鑑札ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ船鑑札ヲ返還セサル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ同條第一項ニ定ムル期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 前條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第一號書式

船鑑札交付申請書

- 一 船種 汽船、帆船、別但發動機船ナルトキハ其ノ旨船名
- 二 船籍港 (當該市町村名)
- 三 進水年月
- 四 尺度 (船體ノ最大ノ長、幅、深)

五 測度ヲ受ケントスル場所
六 申請ノ事由(新造、外國船購入等)
右船舶ニ對シ船鑑札交付相成度此段申請候也

明治 年 月 日

住所 所有者 氏 名 印

地方官廳名 御 中

第二號書式

船鑑札

第 號

汽船 丸

住所 氏 名

明治 年 月 日

地方官廳名

烙印

船籍港

長 (石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ記載スルコトヲ要セス)

幅

深

船鑑札規則施行手續 (明治四十年五月 遞信省訓令第一號)

第一條 地方官廳ハ第一號書式ノ船鑑札臺帳ヲ備置キ船鑑札規則ニ依リ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ件名及船鑑札ノ交付、書換、再交付若ハ返還ノ年月日並事由ヲ記載スヘシ

船鑑札規則第十二條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ返還アリタルトキハ同項各號ノ事實アリタルヤ否ヲ審査シ必要ト認ムルトキハ實地臨檢シタル上船鑑札臺帳中當該船舶ニ對スル記載面ニ消印ヲ押捺シテ其ノ用紙ヲ附録スヘシ

船鑑札臺帳ニハ索引ヲ附スヘシ

備考

- 一 發動機ナルトキハ汽船ノ位置ニ發動機船ト記載スヘシ
- 二 船籍港ハ市ニ付テハ單ニ何市ト記載シ町村其ノ他之ニ類スル區別ニ付テハ何國何郡何町村等ト記載スヘシ
- 三 船鑑札ノ寸法ハ曲尺五寸幅三寸厚及木質ハ適宜トス

第二條 船舶ニハ番號ヲ點附シ之ヲ船鑑札及船鑑札臺帳ニ記載スヘシ

第三條 船鑑札規則第八條第二項又ハ同則第九條第一項ノ規定ニ依リ乙地方官廳ニ於テ通知ヲ受ケ又ハ船鑑札臺帳ノ謄本ヲ送付ヲ受ケ船鑑札ヲ交付シタルトキハ其ノ旨遲滞ナク甲地方官廳ニ通知スヘシ

甲地方官廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ船鑑札臺帳中當該船舶ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四條 地方官廳ニ於テ船鑑札規則第十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ返還ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ廢棄スヘシ

第五條 地方官廳ニ於テ船舶ヲ改測シ船舶法ノ適用ヲ受ケヘキモノト爲リタルコトヲ認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ告知シ遲滞ナク船鑑札臺帳ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ管轄管海官廳ニ通知スヘシ

第六條 管海官廳ニ於テ船舶ヲ改測シ積量ニ異動アルコトヲ認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ告知シ遲滞ナク其ノ旨管轄地方官廳ニ通知スヘシ船舶法ノ規定ニ依リ積量ノ改測ヲ爲シタル船舶船鑑札規則ノ適用ヲ受ケヘキモノト爲リタルトキ亦前項

ニ同シ此ノ場合ニ於テハ船舶原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條 船鑑札ニ記載スル長、幅、深ハ尺ヲ以テ單位トシ單位以下二位ニ止メ噸數、石數及公稱馬力ハ單位ニ止ム

第八條 地方官廳ハ毎年一月、四月、七月及十月中ニ其ノ前三箇月間ニ於ケル船舶ノ異動ヲ第二號書式ニ依リ遞信省ニ報告スヘシ

第九條 地方官廳ニ於テ船鑑札規則ノ施行ニ關シ規程ヲ設ケントスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

附則

第十條 明治二十九年^{十一月}三月^{三十一日}遞信省訓令第四號船鑑札規則施行手續ハ本手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十一條 第八條ノ報告ハ本手續施行ノ年ノ七月ニハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十二條 本手續施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船鑑札規則第十八條ノ規定ニ依リ新船鑑札ヲ受有スルヲ待タズ第二條ニ規定スル番號ヲ點附シ現ニ備附ノ船鑑札臺帳ニ之ヲ記載スヘシ前項ノ船舶ニ關スル件名ハ別ニ定ムル用紙ニ記載シ本手續施行後三箇月内ニ遞信省ニ報告スヘシ

第一號書式

船名	船籍港	尺			噸數	公稱馬力	船鑑札交付年月日	所有者姓名	住所	備考
		長	幅	深						

備考 一 船種ヲ示スニハ汽機又ハ帆ト記載スヘシ 二 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石數ハ噸數ノ欄ニ記載ス

第二號書式

船舶報告(自明治 年 月 月)

汽船ノ部

第一 新ニ船鑑札ヲ交付シタル船舶

番號	船名	船籍港	尺	噸數	公稱馬力	船鑑札交付年月日	所有者姓名

第二 船鑑札ヲ書換ヘタル船舶

番號	船名	變更事項	所有者姓名

第三 船鑑札ヲ返還シタル船舶

番號	船名	返還事由	所有者姓名

帆船ノ部

第一 新ニ船鑑札ヲ交付シタル船舶

番號船名 積噸數 登積噸數 船體札交付事由

第二 船體札ヲ書換ヘタル船舶

番號船名	變更事項
新何々々々何々々々何々々々	

第三 船體札ヲ返還シタル船舶

番號船名	船體札返還事由

備考

- 一 報告ノ事項中明ナラサルモノハ其ノ欄内ニ不詳ト記載スヘシ
- 二 船體札交付事由由欄ニハ新造、外國船購入、何府縣ヨリ轉入、登積噸數ヨリ編入等船體札交付シタル原因ヲ記載シ且ツ管轄官廳ニ變更アリタル場合ニシテ報告ノ事項中ニ新舊異動アリタルトキハ各相當欄ニ新舊事項ヲ併記スヘシ
- 三 船體札ヲ書換若ハ再交付ナラズモ第一表ノ事項ニ變更ナキトキハ報告スルニ及ハス
- 四 船名又ハ所有者ニ變更アリタルトキハ各相當欄ニハ舊船名又ハ舊所有者名ヲ記載シ變更事項欄ニハ新船名又ハ新所有者名ヲ記載スヘシ
- 五 發動機船ハ汽船ノ部ニ記載シ船名ノ右肩ニ「機」字ヲ附記スヘシ
- 六 石敷ヲ以テ積置ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石敷ハ總噸數ノ欄ニ記載スヘシ
- 七 船體札返還事由欄ニハ滅失、沈没、解撤、國籍喪失、存否不明、何府縣へ轉出、登積噸數ニ編入等船體札ヲ返還シタル原因ヲ記載スヘシ
- 八 船體札規則第八條及第九條ノ場合ニ於テハ船體札寫帳ノ用紙ヲ閉鎖

回漕貨物取扱條例

(明治八年十二月第百八十四號布告)

- 第一條 一回漕貨物ノ荷造リハ濡沾減損或ハ漏脱等ノ難ヲ防クヘキ様務メテ堅固ニシ其品柄又ハ荷造ノ模様ニヨリテハ錠鎖或ハ封印スヘシ
- 第二條 一穀物鹽類等ノ俵物酒樽流液ノ樽物等總テ減損漏脱シ易キ物ハ積入ノ時必ス船主貨主ノ間ニ特殊ノ約定ヲ爲スヘシ
- 第三條 一船主ハ荷造ノ粗糲ナルカ錠鎖或ハ封印ナキヲ以テ第一條ノ難ヲ防キカクシト思惟スルトキハ貨主ヘ其趣ヲ通知シテ之ヲ堅固ナラシメ或ハ錠鎖封印セシメ又第二條ノ物品ヲ託セラレタルトキハ特殊ノ約定ヲ爲ヘキヤ否ヤヲ訊問スヘシ
- 第四條 一貨主ハ第三條ノ通知或ハ訊問ヲ得ルモ之ヲ堅固ナラシメス或ハ錠鎖封印セス又其約定ヲ爲ササルトキハ濡沾減損或ハ漏脱等ノ難ヲ運漕中ニ生スルトモ船主ニ對シ其辨償ヲ要スル權利ナカルヘシ
- 第五條 一回漕運賃ハ發船ノ甲地ニ於テ波戶場或ハ船主ノ倉庫等船主ノ其貨物ヲ可受取適當ノ地ト定メタル場所ヨリ若船ノ乙地ニ於テハ波戶場或ハ其船主ノ倉庫等

ノ其貨物ヲ可引渡適當ノ地ト定メタル場所迄ノ運送費ヲ稱スル者ニシテ甲乙地ニ於テ定メタル場所ノ外之ヲ取集及ヒ配達スルノ費用ヲモ合スルモノニアラス故ニ其取集及配達ヲモ船主ニ託スルトキハ貨主ハ回漕本賃ノ外ニ相當ノ取集及配達賃ヲ拂ハサルヘカラス

第六條 一前條乙地ニ若船スル時ハ船主ヨリ貨主ニ其貨物ヲ渡スヘキ適當ト定メタル場所ニ於テ何日何時ヲ限リ其貨物ヲ渡スヘキ旨ヲ報告スヘシ若シ貨主ノ都合ニ依リ其時日ヲ過キテ之ヲ受取ラサルトキハ其後ニ至リ危險損害ヲ生スルトモ船主ハ其責ニ任セサルヘシ

第七條 一前條ノ如ク其報告時限ヲ過ルトキハ船主之レニ生スル危險損失ハ其責ニ任セスト雖モ必ス危險損失ヲ生セサル様之レヲ倉庫ニ納メ或ハ番人ヲ附ケ或ハ雨覆等ノ備ヲナシ勉メテ保護ノ手立ヲ爲スヘシ然ルトキハ相當ノ倉敷料番人賃其他之レニ屬スル費用ヲ貨主ヨリ拂ハシムヘシ

第八條 一回漕運賃ハ第五條ニ記載セル甲乙約定地ノ全

運航費ナルニ因リ其全運航ヲ舉ヘサル間ハ貨主ハ之ヲ拂フコトヲ拒ムノ理アリ又幾百石何千斤ニ付此運賃若干ト約定セシニ其全量中幾分ノ不足ヲ生スルトキハ貨主ハ其全運賃ヲ拂フコトヲ拒ミ得ヘシ然レトモ其全量幾百幾何千箇ヲ運送セシムルモ其一俵一箇ニ付運賃幾許ト約定セルトキハ其全量ノ如何ヲ問ハス之ヲ受取リタル俵數箇數ニ就テ約定運賃ヲ拂ハサルヘカラス又封印ヲ檢シ外包ノ異狀ナキヲ以テ之ヲ請取後其包中ノ物品ニ不足或ハ損傷アルトモ其辨償ヲ船主ニ責ムルヲ得ヘカラス

第九條 一船主ハ其約定ヲ履テ安全ニ其貨物ヲ運送スルヲ本分ノ義務トス故ニ第一條及ヒ第二條ニ違ヒタル貨物或ハ正ニ請取シ旨ヲ證シタル貨物ノ全數中ニ損害不足ヲ生スル等ノ事アルトキハ其貨物ノ原價ニ從テ之ヲ辨償スヘシ

第十條 一運賃ハ船主貨主ノ協議ニ依リテ甲地又ハ乙地ニ於テ受拂フヘシ然レトモ之ヲ乙地ニ於テ受拂フトキハ其貨物ト引換ヘテ以テスヘシ若シ貨物ヲ請取リタル後其拂ヒ方ヲ怠ルトキハ船主ハ其受取ルヘキ貨額ヘ對

シ相當ノ利息ヲ課シテ要請スルヲ得ヘシ

●航海獎勵法

(明治二十九年三月法律第十五號)

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ自己ノ所有ニ專屬シ帝國船籍ニ登錄シタル船舶ヲ以テ帝國ト外國トノ間又ハ外國諸港ノ間ニ於テ貨物、旅客ノ運搬ヲ營業トスル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ船舶ニ對シ航海獎勵金ヲ下付ス

第二條 此ノ法律ニ依リ航海獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ總噸數一千噸以上ニシテ一時間十海里以上ノ最快速力ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シタル鐵製又ハ鋼製汽船ニ限ル

第三條 航海獎勵金ヲ受ケムトスル船舶ノ所有者ハ其船舶ニ對シ豫メ遞信大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第四條 左ノ船舶ハ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得ス
第一 此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登錄ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國製造ノ船舶
第二 製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶
第三 帝國政府ノ命令ニ依レル航路ニ使用スル船舶

第五條 航海獎勵金ハ總噸數一千噸ニシテ一時間十海里ノ最快速力ヲ有スル船舶ニ對シ總噸數一噸航海里數一

千海里ニ付二十五錢ヲ支給シ總噸數五百噸ヲ増ス每ニ其ノ百分ノ十、最快速力一時間一海里ヲ増ス每ニ其ノ百分ノ二十ヲ増給ス但シ總噸數六千五百噸以上又ハ最快速力一時間十八海里以上ノ船舶ニ對シテハ總噸數六千噸又ハ最快速力一時間十七海里ノ船舶ニ對スル割合ニ依リ支給ス

航海獎勵金ハ製造後五箇年ヲ經過セサル船舶ニ對シテハ全額ヲ支給シ五箇年ヲ經過シタル船舶ニ對シテハ一箇年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス

航海獎勵金ヲ算定スルニハ一噸未滿一海里未滿ノ端數ヲ算入セス

明治三十二年十月一日以後帝國船籍ニ登錄スル外國製造ノ船舶ニハ前二項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海獎勵金ノ半額ヲ支給ス(三十二年法律第九十六號ヲ以テ追加)

第六條 航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ之ヲ算定ス帝國各港ヘ寄港シ外國ヘ發航スル船舶ニ在テハ最終ノ寄港地ヲ起點トシ又外國ヨリ發航シ帝國各港ニ寄港スル船舶ニ在テハ最初ノ寄港地ヲ終點トシテ其ノ航海里數ヲ算定ス

航海里數ヲ證明スルニハ寄港地官廳ノ寄港證明ヲ以テスヘシ

第七條 遞信大臣ハ命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ヲ公用ノ爲ニ使用スルコトヲ得

船舶所有者前項ノ給與金額ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ使用ヲ停止セス

第八條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ命令ニ依リ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ該船舶ニ乗組マシメ同大臣ノ定ムル手當ヲ支給スヘシ

總噸數一千噸以上二千五百噸未滿 二人
總噸數二千五百噸以上四千噸未滿 三人
總噸數四千噸以上 四人

第九條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本支店ノ事務員若ハ該船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス但シ外國ニ於テ死亡其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキハ該地官廳ノ公認ヲ經テ之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該船舶ノ所有者又ハ船長ヨリ直ニ遞信大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第十條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ該船舶ニ郵便吏員ヲ無賃乗船セシメ及該船舶ヲ以テ郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ヲ無料ニテ遞送スヘシ

第十一條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ航海獎勵金ヲ受ケ航海スル期間並其ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡、貸渡、交換、贈與、質入、書入スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還シタルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ若ハ遞信大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 遞信大臣ハ此ノ法律ニ依リ船舶所有者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代人若ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十三條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十四條 此ノ法律ニ依リ逓信大臣ノ發スル命令又ハ第九條ノ規程ニ違背シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者ハ其ノ因テ得タル金額ヲ償還セシメ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ其既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還セシム

第十七條 船舶所有者若シテ法律ヲ犯シタルトキハ逓信大臣ハ航海獎勵金ノ下付ヲ停止スルコトヲ得

第十八條 前數條ノ罰則ハ商事社會ニ在テハ其ノ各條ニ掲ケル所爲ヲ爲シタル事務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十九條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十八箇年之間ニ施行ス (三十二年法律第九十六號ヲ以テ本條中追加)

●航海獎勵法施行細則 (明治二十九年九月) (逓信省令第十五號)

第一章 總則

第一條 航海獎勵法ニ依リ航海獎勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ逓信省ニ差出スヘシ (三十二年逓信省令第十四號ヲ以テ條中削除)

一 船舶件名書(第一號書式)

二 船圖

三 船舶乘組員名簿(第二號書式)

四 營業目論見書(第三號書式)

第二條 船圖ハ左ノ七種ニ分チ寸法ヲ附記シ各二通ツン差出スヘシ但其ノ一通ハ蠟引布ヲ以テ調製シタルモノナルコトヲ要ス (同上ヲ以テ改正)

一 船體中央橫截面圖

二 船體中心線縱截面圖

三 船體各甲板及艙内ノ平面圖

四 裝帆圖

五 汽機橫縱截面圖

六 汽機縱縱截面圖

七 機關室ヨリ海水又ハ冷水ニ通スル諸管及嘴子配置ノ平面圖

第三條 同一ノ船舶ニシテ所有者二人以上アルトキハ登簿船免狀ニ記名シタル所有者ヨリ總所有者ノ氏名及其ノ所有ノ關係ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ

ヲ差出スヘシ

第四條 商事社會ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘテ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ

一 會社ノ種類

二 社員又ハ株主ノ氏名

三 會社契約又ハ定款

四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ氏名

第二章 船舶ノ検査

第五條 逓信大臣ハ第一條第三條又ハ第四條ノ書類ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ検査官吏ヲシテ其船舶ヲ検査セシムヘシ

第六條 船舶ノ検査ハ逓信大臣ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ執行ス

第七條 船舶ノ最速速力ハ其ノ船舶ヲシテ検査官吏ノ認可シタル噴水及自然通風ノ機關力ヲ以テ三海里以上四海里以下ノ距離ヲ六回航走セシメ平均數ニ依リ之ヲ算定ス但回轉中ト雖モ常ニ機關ヲ全速力ト爲スヲ要ス速力試驗ノ執行中船舶カ天災其他ノ事變ニ因リ速力ヲ減シ又ハ機關ノ運轉ヲ停止スルニ至リタルトキハ該試

驗ハ總テ無効ト爲シ更ニ速力試驗ヲ行フ (三十三年逓信省令第十四號ヲ以テ追加)

航海中常ニ使用スルノ目的ヲ以テ加速通風機ヲ備フル船舶ニシテ特ニ逓信大臣ノ認可ヲ得タルモノニアリテハ速力試驗ニ該通風機ヲ使用スルコトヲ得 (同上)

第八條 船舶ハ進水ノ日ヲ以テ製造ノ日トス

進水ノ日ヲ證明スルニハ内國製造ノ船舶ニ在テハ製造地方官廳外國製造ノ船舶ニ在テハ該地所管帝國領事ノ證明ヲ以テスヘシ但日ノ不明ナルモノハ其月ノ一日月ノ不明ナルモノハ其ノ年ノ一月ニ進水シタルモノトス

第九條 検査官吏船内ニ臨檢スルトキハ其ノ船舶ノ所有者又ハ船長ハ検査ニ必要ナル準備ヲ爲シ其命令ヲ遵守スヘシ

第十條 認許證書ヲ受有シタル後其船舶ノ船體及機關其ノ他ノ要部ニ變更ヲ加ヘントスルトキハ其ノ所有者ニ於テ事由ヲ詳記シ圖面並仕機書ヲ添附シ豫メ逓信大臣ノ認可ヲ受クヘシ (三十三年逓信省令第十四號ヲ以テ改正)

認許證書ヲ受有シタル後其ノ船舶ニ損傷ヲ生シタルトキ若ハ之ニ修繕ヲ加ヘタルトキハ其ノ所有者又ハ船長ヨリ損傷ノ箇所及其ノ事由ヲ詳記シ修繕ヲ加ヘタル場合ニ於テハ修繕工事ノ仕様書ヲ添附シ遲滞ナク逓信省

二届出ツヘシ

第二章 認許證書

第十一條 遞信大臣ニ於テ第五條ノ検査ヲ受ケタル船舶ニ對シ航海獎勵金ヲ下付スヘキモノト認ムルトキハ第四號書式ノ認許證書ヲ出願人ニ下付スヘシ (同上ヲ以テ條中削除)

第十二條 認許證書ノ有効期間ハ一箇年以内ニ於テ船舶ノ現狀ニ依リ之ヲ定ム

第十三條 認許證書ヲ亡失毀損シ又ハ該證書ニ記載スル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ再授若ハ書換ヲ出願スヘシ其ノ書換ヲ出願スル場合ニハ舊證書ヲ返納スヘシ

第十四條 認許證書ヲ受有スル者左ノ事項ニ該當スルトキハ直ニ返納スヘシ

- 一 證書ノ有効期間満了ノトキ
- 二 船舶ヲ賣渡、貸渡、交換又ハ贈與シタルトキ
- 三 營業ヲ廢止又ハ停止シタルトキ
- 四 船舶ヲ喪失又ハ解撤シタルトキ
- 五 航海獎勵金ノ下付ヲ停止セラレタルトキ
- 六 前數號ノ外航海獎勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタル

トキ

第十五條 認許證書ヲ受有スル者死亡又ハ破産シタルトキハ其ノ遺族又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

認許證書ヲ受有スル商事會社解散又ハ破産シタルトキハ其ノ清算人又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

第十六條 前三條ノ場合ニ於テ認許證書ノ返納ヲ怠リタルトキハ其ノ證書ノ無効ナル旨ヲ官報ニ告示スヘシ

第十七條 賣買交換若ハ贈與ニ依リ認許證書有効期間内ノ船舶ヲ取得シタル者更ニ認許證書ヲ受有セントスルトキハ第一條第三條又ハ第四條ノ書類ニ其ノ船舶ニ對スル登記ノ謄本ヲ添へ遞信省ニ差出スヘシ

相續若ハ結婚ニ因リ認許證書有効期間内ノ船舶ヲ取得シタル者更ニ認許證書ヲ受有セントスルトキハ其ノ事實ニ對スル市町村長ノ證明書及登記ノ謄本ヲ添へ遞信省ニ差出スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ船舶ノ検査ヲ須キスシテ認許證書ヲ下付スルコトアルヘシ其ノ有効期間ハ舊證書ノ有効期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 認許證書ヲ受有スル者第一條第三條又ハ第四

條ノ書類ニ記載シタル事項ニ訂正ヲ要スルモノアルトキ又ハ之ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

認許證書ノ有効期間満了ノ後更ニ認許證書ヲ受有セントスルトキハ第一條、第三條又ハ第四條ノ書類ハ前同出願ノ際ニ於ケル事項中其ノ後異動ナキ部分ニ限り之ヲ省略スルコトヲ得 (三十三年遞信省令第十四號ヲ以テ本項追加)

第四章 航海

第十九條 認許證書ヲ受有スル者其ノ船舶ヲ航海獎勵金ヲ受ケル航海ニ使用セントスルトキハ其ノ都度豫メ航路、發航地、寄港地、到達地及各港發著期日ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

同一航路ニ於テ定期航海ヲ爲ス場合ニ在リテハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ各港發著定期表ヲ差出シ前項ノ届出ニ代フルコトヲ得 (三十八年遞信省令第五十六號ヲ以テ追加)

前二項ニ依リ差出シタル書類ニ付テハ第十八條第一項ノ規定ヲ準用ス (同上)

第二十條 認許證書ヲ受有スル船舶ニハ特ニ遞信省ノ檢閱ヲ經タル航海日誌及機關日誌ヲ備へ同日誌記載心得

ニ依リ各事項ヲ記入スヘシ

第二十一條 認許證書ヲ受有スル船舶帝國ニ發著スルトキハ稅關ニ届出テ發著ノ證明ヲ受クヘシ

外國各港ニ發著スルトキハ帝國領事館又ハ貿易事務館ニ届出テ發著ノ證明ヲ受クヘシ

帝國領事館又ハ貿易事務館ノ設ナキ地方ニ於テハ外國官廳ノ證明ヲ受クヘシ

第五章 航海修業生

第二十二條 航海獎勵法第八條ニ依リ航海修業生ヲ船舶ニ乗組マシムルトキハ該船舶ノ所有者ハ之ニ食料ヲ給與シ及相當ノ居室並寢具ヲ貸與スルノ外左ノ割合ニ依リ手當ヲ支給スヘシ

- 一 海上履歷一年未滿ノ者 月額金三圓以上
- 二 海上履歷二年未滿ノ者 月額金五圓以上
- 三 海上履歷三年以上ノ者 月額金七圓以上

(三十八年遞信省令第五十八號ヲ以テ條中改正)

第二十三條 航海修業生ヲ乗組マシメタル船舶ノ船長ハ該修業生ヲシテ技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ六箇月毎ニ其ノ狀況ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ但六箇月ニ達セスシテ下船シタルトキハ下船ノ際之ヲ報告

第二十四條 航海修業生執務ノ爲メ疾病ニ罹リ又傷疾ヲ被リタルトキハ該船舶ノ所有者ハ三箇月ヲ超エサル期間醫藥ノ費用ヲ給與スヘシ

第二十五條 船舶所有者ハ遞信大臣ノ認可ヲ受クルニアラザレハ航海修業生ヲ下船セシムルコトヲ得ス

止ムヲ得サル事故ニ因リ前項ノ認可ヲ受クル暇ナク航海修業生ヲ下船セシメタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 船舶所有者航海修業生ヲ下船セシムルトキハ下船地ヨリ遞信大臣ノ指定スル地迄ノ旅費ヲ支給スヘシ但失行ニ因リ下船セシムルトキハ此限ニアラス

第六章 外國人ノ使用

第二十七條 認許證書ヲ受有スル者其ノ本支店ノ事務員又ハ該船舶ノ職員トシテ外國人ヲ使用セントスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ具シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 使用ノ理由
- 二 契約ノ條項
- 三 被雇者ノ國籍、氏名、現住所、生年月日及履歷
- 四 海技免狀ヲ受有スル者ナルトキハ其ノ免狀ノ寫

第二十八條 遞信大臣ノ認可ヲ受ケ使用シタル外國人ヲ解雇シタルトキハ直ニ其ノ趣ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第七章 郵便物

第三十條 認許證書ヲ受有スル船舶航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テ各地ニ發著スルトキハ其ノ都度豫メ該地帝國郵便局ニ届出ツヘシ

第三十一條 郵便吏員乗船スルトキハ事務取扱ニ差支ナキ相當ノ船室ヲ供シ且相當ノ待遇ヲ爲スヘシ

第三十二條 郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ノ遞送ヲ命セラレタルトキハ盜難、濕氣、火災等ノ虞ナキ安全ナル場所ヲ選ヒ之ヲ保管スヘシ

第三十三條 遞送ヲ命セラレタル郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ハ郵便吏員乗船スルトキハ該吏員、郵便吏員乗船セサルトキハ本船ノ船長若ハ一等

運轉手之カ取扱ヲ爲スヘシ

第三十四條 航海中遭難其ノ他ノ事故ニ因リ郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ヲ遞送スルコト能ハサルトキハ別ニ定ムル方法ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第三十五條 郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ノ遞送ヲ命セラレタル船舶ハ郵便旗章ヲ掲揚スヘシ

第三十六條 郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ノ遞送並授受ノ手續ハ別ニ之ヲ定ム

第八章 船舶ノ使用

第三十七條 遞信大臣航海獎勵法第七條ニ依リ船舶ヲ使用セントスルトキハ其期日、期間、給與金額及回航地ヲ定メ之ヲ該船舶ノ所有者又ハ船長ニ通達スヘシ

第九章 航海獎勵金

第三十八條 各港間ノ最近里數ハ海軍水路部刊行最近ノ海圖ニ據リ其ノ刊行ナキ航路ニ在テハ英國海軍水路部刊行ノ最新ノ海圖ニ據リ之ヲ算定ス

第三十九條 航海獎勵金ヲ請求スル者ハ一航海ヲ終リタル毎ニ第五號書式ノ請求書及第六號書式ノ明細書ニ航海日誌其ノ他航海ノ事實ヲ證明スルニ必要ナル書類ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第十九條第二項ノ場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ數航海分ヲ取纏メテ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ得但此ノ場合ニ遞信省ニ差出スヘキ請求書ハ第五號書式ノ二ニ依ルヘシ (三十八年遞信省令第五十八號ヲ以テ追加)

第四十條 遞信省ニ於テハ前條ノ請求書及關係書類ヲ審查シテ航海獎勵金ヲ船舶所有者ニ下付スヘシ

第四十一條 船舶所有者、代人又ハ船長ニ於テ航海獎勵法違反ニ關シ起訴セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定スル迄航海獎勵金ノ下付ヲ中止スヘシ

第十章 雜則

第四十二條 天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ船舶ノ航行ニ堪ヘサル場合ニ於テ航海獎勵法第十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ該船船長又ハ所有者ヨリ其ノ事由ヲ具シ帝國領事館又ハ貿易事務館ノ公認ヲ受ケ遞信省ニ届出ツヘシ但帝國領事館又ハ貿易事務館ノ設ナキ地ニ在テハ外國官廳ノ公認ヲ受クヘシ

第四十三條 認許證書ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ毎年少クモ一回計算ヲ閉鎖シ損益計算書、財産目録、貸借對照表、事業報告書ヲ作り遞信大臣ニ報告スヘシ

第四十四條 認許證書ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ計算監査ノ爲メ遞信大臣ノ命スル監査官吏營業所ニ臨檢スルトキハ帳簿及證憑書類ヲ提出シテ其ノ檢閲ニ供スヘシ

第四十五條 認許證書ヲ受有スル外國人ト三箇月以上繼續スル商事契約ヲ締結シタルトキハ契約條項ヲ具シ直ニ遞信省ニ届出ツヘシ

(第一號書式)

- 船舶件名書
- 船名
- 船籍登錄ノ年月日
- 船籍港名
- 本船管轄國名
- 外板材料
- 船骨材料
- 甲板ノ層數及種類
- 二重底ノ有無(若シアラハ其ノ部分)
- 船ノ長
- 船ノ幅
- 船ノ深
- 總噸數
- 登陸噸數
- 製造地名
- 進水ノ年月日

- 一 汽機ノ種類及數
- 一 汽機ノ種類及數
- 一 推進器ノ種類
- 一 馬力(公稱馬力實馬力)
- 一 速力(最速速力尋常速力)

本船所有者

氏

名印

(第二號書式)

汽船何丸乘組員名簿

職名	名	給料	族籍	氏名	職名	給料	同人員
船長				水夫長			同上
一等運轉手				火工			
二等運轉手				舵取			
三等運轉手				水夫			
一等機關手				油蒸			
二等機關手				火夫			
何等機關手				何々			
事務長				何々			
事務員				何々			

年月日

本船所有者

氏

印名

(第三號書式)

- 營業目録見書
- 航路
- 發航地
- 寄港地
- 到達地
- 發著
- 何線
- 往復日數
- 何港往發月日
- 何港往著月日
- 何港復發月日
- 何港復著月日
- 運搬
- 何線
- 旅客員數
- 上等客
- 中等客
- 下等客
- 貨物員數
- 何品
- 何品
- 何品
- 何品
- 旅客運賃
- 何丸
- 何線
- 收支
- 收入
- 何線
- 何丸
- 旅客運賃
- 支出
- 何線
- 何丸
- 職員給料
- 職員附料
- 石炭料
- 薪炭料
- 水先料
- 貨物先料
- 旅客料
- 入渠料
- 需用品
- 小修費
- 精備費
- 大修積立金
- (船價ノ百分ノ三)
- 減價引除積立金
- (船價ノ百分ノ五)
- 保險積立金
- (船價ノ百分ノ五)
- 店費
- 利益
- 利益

準備積立金
役員賞與金
配當金
繰越金

六 營業
本店所在地
同事務員氏名
支店所在地
同事務員氏名
出張所所在地
同事務員氏名
代理店所在地
同事務員氏名

右ノ通候也
年 月 日
逓信大臣宛

氏 名 印

(第四號書式)

第何號 認許證書

汽船何丸所有者

一何丸
船籍登録ノ年月日
本船番號
管轄廳名
船籍港名
船名
進水ノ年月日

住所
族 籍
氏 名

年 月 日
逓信大臣宛

氏 名 印

(第五號書式ノ二) (三十八年逓信省令第五十八號ヲ以テ追加)

總噸數
最速進力
前記ノ汽船何丸ハ航海獎勵法ノ規程ニ適合スト認ムルヲ以テ此ノ證書ヲ下付ス此證書ハ 年 月 日迄效力ヲ有ス
逓信大臣氏名印

(第五號書式)

汽船何丸航海獎勵金請求書

航海中會計年度ニ附ルトキハ前年度ト後年度トナ區別シ請求書ヲ(二通ニ調製スヘシ)

但航海里數 海里ニ對スル獎勵金

(總噸數一噸航海里數一千海里ニ付)

(航海中船齡ヲ累テ航海獎勵法第五條第二項ニ依リ遞減ヲ爲スヘキ) (內譯)

金 明治 年 月 日ヨリ明治 年 月 日ニ至ル航海里數 海里ニ對スル獎勵金(總噸數一噸航海里數一千海里ニ付金 錢 圓)

前同斷

右ノ何丸明治 年 月 日何國(何地又ハ何港)ヲ發シ何國(何地又ハ何港)ヲ經テ明治 年 月 日(何國何地又ハ何港)ニ歸着致シ候間前記ノ航海獎勵金御支給相成度別紙明細書並本船航海日誌其ノ他證書類何通相添ヘ此段請求候也

汽船何丸所有者

住所
族 籍
氏 名 印

年 月 日
逓信大臣宛

汽船何丸航海獎勵金請求書

一 金

但航海里數 (總噸數一噸航海里數一千海里ニ付)

海里ニ對スル獎勵金(總噸數一噸航海里數一千海里ニ付)

(本期中船齡ヲ累テ航海獎勵法第五條第二項ニ依リ遞減ヲ爲スヘキ場合ニハ左ノ例ニ依ルヘシ)

(內譯)

金 明治 年 月 日ヨリ明治 年 月 日ニ至ル航海里數 海里ニ對スル獎勵金(總噸數一噸航海里數一千海里ニ付)

前同斷

右何丸明治 年 月 日ヨリ明治 年 月 日ニ至ル何國(何地又ハ何港)ヨリ何國(何地又ハ何港)ヲ經テ何國(何地又ハ何港)ニ至ル間何國ノ航海ニ對スル航海獎勵金御支給相成度別紙明細書並本船航海日誌其ノ他證書類何通相添ヘ此段請求候也

汽船何丸所有者

住所
族 籍
氏 名 印

年 月 日
逓信大臣宛

(第六號書式)

汽船何丸航海明細書

年月日	發地名	著地名	碇泊地	海里數	航海獎勵金額	記事
合計						

右ノ通候也

汽船何丸所有者

年 月 日
備考 記事欄内ニハ發着各港ニ於テ船積陸揚シタル旅客貨物ノ種類及運賃ヲ記入スヘシ

●造船獎勵法 (明治二十九年三月法律第十六號)

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ逓信大臣ノ定ムル資格ヲ備フル造船所ヲ設ケ船舶ヲ製造スル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ製造船舶ニ對シ造船獎勵金ヲ下付ス

第二條 此ノ法律ニ依リ造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ鐵製又ハ鋼製ニシテ總噸數七百噸以上ヲ有シ逓信大臣ノ定ムル造船規程ニ從ヒ其ノ監督ヲ受ケ製造シタルモノニ限ル

第三條 造船獎勵金ハ總噸數七百噸以上二千噸未滿ノ船舶ニ在テハ船體總噸數ニ付金十二圓、二千噸以上ノ船舶ニ在テハ一噸ニ付金二十圓ヲ支給シ其機關ヲ併セ製造シタル場合ニハ一實馬力ニ付金五圓ヲ増給ス但シ帝國内ノ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメタルトキト雖豫メ逓信大臣ノ許可ヲ得タルトキ亦同シ

第四條 造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ノ船體及機關ニハ逓信大臣ノ定ムル規程ニ依ルノ外國製品ヲ供用スルコ

トヲ得ス

第五條 詐偽ノ所爲ヲ以テ造船獎勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得タル造船獎勵金ハ之ヲ償還セシム

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用キス

第七條 前二條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第八條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十五年間之ヲ施行ス

●造船獎勵法施行細則 (明治二十九年九月) (逓信省令第十六號)

第一條 造船獎勵法ニ依リ造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ逓信省ニ差出スヘシ (三十三年逓信省令第十五號ヲ以テ條中改正)

- 一 船舶件名書(第一號書式)
- 二 船圖
- 三 船體機關製造仕樣書

十三 機關室ヨリ海水又ハ冷水ニ通スル諸管及噴子配盤ノ平面圖

十四 汽機圖 (汽機縱斷面、汽機各部並シテ汽器及汽機各部ノ剖面並シテ記入スヘシ)

十五 滑機調整圖

十六 汽機圖 (縱斷面、前面、背面) (汽機各部並シテ記入スヘシ)

十七 安全裝置圖

十八 機關室諸管裝置圖

十九 車軸、船尾管及推進器ノ圖

第四條 同一ノ造船所ニシテ所有者二人以上アルトキハ其ノ一人總代トシ總所有者ノ氏名及其ノ所有ノ關係ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ

第五條 商事會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ差出スヘシ

一 會社ノ種類

二 社員又ハ株主ノ氏名

三 會社契約又ハ定款

四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ氏名

第六條 造船獎勵法第三條ノ但書ニ依リ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメントスル者ハ願書ニ其ノ旨ヲ記載シ前數條ノ書類ノ外其ノ工場ノ位置、面積、機械ノ種類並

四 資格明細書

第二條 資格明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 造船所ノ位置

二 工場及船臺ノ面積 (略圖ヲ添付スヘシ)

三 機械ノ種類

四 技師ノ族籍、氏名、履歷

第三條 船圖ハ左ノ十九種ニ分チ寸法ヲ附記シ各二通ツツ差出スヘシ但其ノ一通ハ蠟引布ヲ以テ調製シタルモノナルコトヲ要ス (三十三年逓信省令第十五號ヲ以テ改正)

- 一 船體線圖
- 二 船體中央橫截面圖
- 三 船體中心線縱截面圖
- 四 船體中心線縱截面ノ鐵鋼材構造配置圖
- 五 船體各甲板及艙內平面圖
- 六 船體各甲板及艙內平面ノ鐵鋼材構造配置圖
- 七 外板展開圖
- 八 二重底內底板展開圖
- 九 支水隔壁ノ圖
- 十 舵及船尾骨材ノ圖
- 十一 鐵鋼製橋架展開圖
- 十二 裝帆圖

該工場ノ機關專任技師ノ族籍、氏名及履歷ヲ記載シタル書面並製造請負契約書ヲ差出スヘシ (三十三年逓信省令第十五號ヲ以テ條中改正)

第七條 造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ備フル造船所ヲ有スル者ニ限ル (同上)

一 造船獎勵金ヲ受ケントスル船舶ヲ製造スルニ必要ナル船臺及諸機械ヲ備フルコト但船體ノミヲ製造スル造船所ニ於テハ機關ヲ製造スルニ必要ナル諸機械ヲ備フルコトヲ要セス

二 船體專任技師及機關專任技師各一人以上ヲ置クコト但船體ノミヲ製造スル造船所ニ於テハ機關專任技師ヲ置クコトヲ要セス

造船獎勵法第三條ノ規定ニ依リ機關ヲ製造セシムルコトヲ得ル工場ハ左ノ資格ヲ備フルモノナルコトヲ要ス

一 造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ノ機關ヲ製造スルニ必要ナル諸機械ヲ備フルコト

二 機關專任技師一人以上ヲ置クコト

第八條 第七條ニ定ムル技師ハ左ニ掲クル者ナルコトヲ要ス (同上ヲ以テ全條改正)

一 東京帝國大學工科大学、京都帝國大學理工科大学

又ハ之ト同等以上ノ學科ヲ備フル學校ヲ卒業シ三箇
年以上船體若ハ機關ノ製造ニ從事シタル者

二 前號ニ掲ケタル學校ヲ卒業シ五箇年以上船體若ハ
機關ノ修繕ニ從事シ其ノ製造ヲ監督シ又ハ其ノ検査
ニ從事シタル者

三 六箇年以上船體又ハ機關ノ製造ニ從事シ遞信大臣
ノ定ムル試験ニ及第シタル者

四 八箇年以上船體若ハ機關ノ修繕ニ從事シ其ノ製造
ヲ監督シ又ハ其ノ検査ニ從事シ遞信大臣ノ定ムル試
験ニ及第シタル者

前項各號中船體若ハ機關ノ製造、修繕、製造ノ監督又ハ
検査ニ從事シタル履歴ハ遞信大臣ノ適當ト認メタルモ
ノナルコトヲ要ス

第九條 遞信大臣ハ第一條第四條第五條又ハ第六條ノ書
類ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ検査官吏ヲシテ造
船所又ハ機關工場ノ資格、製造仕様書及船圖ヲ調査セ
シムヘシ (同上ヲ以テ條中追加)

第十條 検査官吏ハ製造仕様書及船圖ヲ適當ナラスト認
メタルトキハ之カ訂正若ハ新規調製ヲ命シ又必要ナリ
ト認メタルトキハ第三條ニ掲ケタル船圖ヲ差出サシム
ルコトヲ得 (同上ヲ以テ全條改正)

八 專賣品

第十四條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶竣工シタルトキ
ハ検査官吏ハ之ヲ検査シ其ノ總噸數ヲ算定スヘシ(同上)
検査官吏ハ前項ノ手續ヲ終リタル後試運轉ヲ執行セシ
メ實馬力ヲ算定スヘシ

第十五條 總噸數ハ船舶積量測定規則ニ依リ算定スヘシ
實馬力ハ航海獎勵法施行細則第七條ノ手續ニ依リ船舶
ヲ航走セシメ毎回各汽機ヨリ取リタル示壓圖ニ依リ算
定シタル實馬力ノ平均數トス但汽機回轉數ハ示壓圖ヲ
取ル時間ニ於ケル平均數ヲ用ウヘシ

「タービン」汽機ニ在テハ遞信大臣ノ適當ト認ムル器械
ニ依リ算定シタル軸馬力ノ平均數ニ九十五分ノ百ヲ乘
シタルモノヲ以テ實馬力ノ平均數ト看做ス (四十年遞
信省令第五十六號ヲ以テ改正)

汽船ノ進航ニ直接ノ關係ヲ有スル副汽機ノ平均實馬力
前二項ノ實馬力ニ加算ス但外國ニ於テ製造セラレタル
副汽機ナルトキハ此ノ限ニアラス (三十三年遞信省令第十
五號ヲ以テ本項追加四十年遞信省令第五十六號ヲ以テ改正)

第十六條 認許證書ヲ所有スル者第十四條ノ手續ヲ了リ
タルトキハ第三號書式ノ請求書ニ認許證書ヲ添ヘ遞信
省ニ造船獎勵金ノ下付ヲ出願スヘシ

検査官吏ハ必要ト認ムルトキハ造船所又ハ機關工場ニ
臨檢スルコトヲ得

第十一條 検査官吏ノ報告ニ依リ遞信大臣ニ於テ造船獎
勵金ヲ下付スヘキモノト認ムルトキハ製造船舶ニ對シ
出願人ニ第二號書式ノ認許證書ヲ下付スヘシ (同上ヲ以
テ條中改正)

第十二條 認許證書ヲ受有スル者ハ其ノ船舶ノ製造ニ關
シ検査官吏ノ監督ヲ受クヘシ

遞信大臣ハ造船所又ハ機關工場ニ於テ検査官吏ノ指揮
ニ背戻シ又ハ其ノ命令ヲ遵奉セサル所爲アルト認ムル
トキハ認許證書ヲ返納ヲ命スヘシ (同上)

第十三條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ船體及機關ニ
ハ左ニ掲ケルモノノ外國製品ヲ供用スルコトヲ得ス
(同上ヲ以テ改正)

- 一 船首材
- 二 船尾骨材
- 三 雙螺旋軸支肘
- 四 徑七吋以上ノ諸軸
- 五 諸發條
- 六 鑄鋼、可鍛性鑄鐵、滿俺青銅及燐青銅製諸品
- 七 鍍形及肋強火爐

第十七條 遞信省ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ審
査ノ上造船獎勵金ヲ出願人ニ下付スヘシ

第十八條 此ノ細則ニ規定ナキモノニ付テハ航海獎勵法
施行ノ規定ヲ準用ス
(第一號書式)

船舶件名書
船ノ種類
機關ノ種類
計畫總噸數
計畫實馬力
豫定竣工年月日
豫定竣工年月日
製造費概算(船體機關)
右ノ通候也

年 月 日
何造船所所有者
氏 名 印
認許證書
何造船所所有者
住 所
旗 籍
氏 名

何製(汽機)船
計畫總噸數
計畫實馬力
前記ノ船舶ハ造船獎勵法規定ニ適合スト認ムルヲ以テ此ノ證書ヲ下付ス
年 月 日
遞信大臣氏名印

(第三號書式)

遺贈獎勵金請求書

但船體噸數 噸ニ對スル獎勵金

(總噸數一噸ニ付金 圓)

(機關ニ對シ獎勵金ヲ受ルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ)

(內稱)

船體噸數 噸ニ對スル獎勵金

(總噸數一噸ニ付金 圓)

機關馬力 馬力ニ對スル獎勵金

(一實馬力ニ付金 圓)

右ハ明治 年 月 日付郵 號照許證書ノ下付テ受ケ明治 年 月 日

起工致シ同 年 月 日竣工致シ候間前記ノ獎勵金支給相成度依テ照許

證書相添ヘ此段及請求候也

何造船所所有者

住所

族 氏 名 印

年 月 日

通信大臣宛

第二章 通信

●郵便法 (明治三十三年三月法律第五十四號)

第一條 郵便ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 何人ト雖信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス

運送營業者及其ノ使用人ハ其ノ運送方法ニ依リ他人ノ爲ニ信書ノ送達ヲ爲スコトヲ得ス但シ貨物ニ添附スル

郵便專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ郵便物

及其人取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セズ

第八條 郵便官署ハ郵便物ノ送達中又ハ其ノ發送ノ準備

完了ノ後ニ限リ其ノ差押ヲ拒ムコトヲ得

第九條 郵便物検査ヲ受クヘキ場合ニ於テハ他ノ物件ニ

先チテ直ニ検査ヲ受ク

第十條 郵便取扱ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲

シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十一條 郵便官署ハ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ノ受

取人ノ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ

爲サシムルコトヲ得

第十二條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其

ノ宛所ニ配達ス

第十三條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ差出人

ノ請求ニ因リ之ヲ還付スルコトヲ得

第十四條 宛所ニ配達シ又ハ受取人ニ交付スルコト能ハ

サル郵便物ハ差出人ニ還付ス其ノ差出人ニ還付スルコ

ト能ハサルモノハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於

テ之ヲ開披スルコトヲ得

第十五條 前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還

付ヲ爲スコト能ハサルモノ及郵便ニ依ル取立金ニシテ

無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 運送營業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ運

送方法ニ依リ郵便物ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合

ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料金ヲ支給ス

第四條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用

車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ墻壁

又ハ欄柵ナキ宅地畑畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ

得此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ

損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第五條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用

舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ郵便遞送人郵便

集配人又ハ郵便吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當

ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵

便官署ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第六條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用

舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ

場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人ハ何時ニテモ渡津

ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第七條 郵便專用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ

之ヲ差押フルコトヲ得ス

拂渡ヲ爲スコト能ハサルモノハ之ヲ公示ス

郵便物ニ封入シタル物件ニシテ有價物ニ非サルモノハ

其ノ公示ノ日ヨリ六箇月内ニ交付ヲ請求スル者ナキト

キハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞ア

ルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルト

キハ之ヲ賣却シ其ノ代金ヲ保管ス但賣却ニ要スル經費

ハ直ニ賣却代金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

有價物、賣却代金及郵便ニ依ル取立金ハ公示ノ日ヨリ二

箇年間交付ヲ請求スル者ナキトキハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十六條 郵便官署ハ郵便物ニ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ

成規ニ違反シテ差出シタル物件アリト認ムルトキハ差

出人ニ其開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人其ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條 郵便物ハ通常郵便物及小包郵便物トス

第十八條 通常郵便物ノ種類及料金ハ左ノ如シ

但シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ料金ヲ低減スルコトヲ

得

第一種 書狀 重量四匁又ハ其ノ端數每ニ 金三錢

第二種 郵便葉書 二通常葉書 金一錢五厘 二往復葉書 金三錢 三封緘葉書 金三錢

第三種 毎月一回以上刊行
重量二十匁又ハ
其ノ端數毎ニ 金五厘

第四種 書籍印刷物、
業務用書類、
寫眞、
圖、
商標、
及
形、
標本
重量三十匁又ハ
其ノ端數毎ニ 金二錢

第五種 農産物種子
重量三十匁又ハ
其ノ端數毎ニ 金一錢

前項各種ニ該當セサル物件及該當スルモ封緘シタルモノハ第一郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

異種ノ郵便物ヲ合装シタルモノハ其ノ種類中ノ最高料金ヲ納付スヘキ郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合装スルトキハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

郵便業者ノ表面又ハ第三種乃至第五種ノ郵便物ニ通信文ヲ記載シタルモノハ特ニ命令ヲ以テ規定シタル場合ヲ除クノ外第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス(同上)

第十九條 小包郵便物ノ料金並郵便物ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十條 書狀ハ小包郵便物ト爲シ又ハ小包郵便物ニ合装スルコトヲ得ス但シ無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ主務

官署ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十二條 郵便禁制品ノ種類及郵便物ノ容積、重量、包裝等ニ關スル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十三條 受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 郵便ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第二十五條 命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便料未納又ハ不足ノ郵便物ハ受取人其ノ不納額二倍ノ料金ヲ納付シテ之ヲ受取ルコトヲ得其ノ納付ヲ拒ミタルトキハ差出人ニ還付シ差出人ヨリ之ヲ徴收ス

第二十六條 郵便ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納附ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

第二十七條 郵便ニ關スル料金ノ不納金額ハ郵便官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收ス

前項ノ不納金額ニ付郵便官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十八條 郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ノ事務ニ關スル郵便物ハ無料ト爲スコトヲ得

第二十九條 郵便ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手其ノ他ヲ表彰スヘキ證券ヲ以テ納付スヘシ

第三十條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ハ政府之ヲ發行ス

第三十一條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ノ汚損毀損シタルモノハ其ノ效用ヲ失フ

第三十二條 成規ノ手續ヲ經テ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ヲ交付シタルトキハ正當ノ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 成規ニ依リ差出シタル郵便物ノ取扱ニ關シ郵便官署ハ左ノ場合ニ限リ其ノ損害ヲ賠償ス

一 書留通常郵便物ヲ亡失シタルトキ(四十年法律第七號ヲ以テ本號中改正)

二 書留小包郵便物若ハ價格表記郵便物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ(同上)

三 郵便ニ依ル取立金ノ證券ヲ亡失シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシメタルトキ

四 代金引換郵便物ノ取立金ノ取立ヲ爲サスシテ之ヲ交付シタルトキ(同上ヲ以テ本號追加)

賠償金額ハ命令ヲ定ムル所ニ依ル

第三十四條 郵便物交付ノ際外部ニ破損ノ痕跡ナク且重

量ニ變易ナキトキハ損害ナキモノト看做ス

第三十五條 第三十三條ノ場合ト雖左ノ事項ニ該當スルトキハ損害賠償ノ限ニ在ラス

一 差出人又ハ受取人ノ過失ニ因リタルトキ

二 不可抗力ニ因リタルトキ

三 其ノ郵便物ノ性質又ハ瑕疵ニ因リタルトキ

第三十六條 郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ郵便物ニ損害アリト認ムルトキハ其ノ受取ヲ拒ムコトヲ得但シ郵便物受取ノ後ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十七條 第三十三條ニ依ル損害賠償ハ差出人又ハ其ノ承諾ヲ得タル受取人之ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ對シ左ノ期間内之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 第四條ニ依ル賠償及第五條ニ依ル報酬ハ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月

二 第三十三條ニ依ル賠償ハ郵便物差出ノ日ヨリ二箇年

第三十九條 郵便官署ノ損害賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十條 郵便官署ニ於テ損害賠償ヲ爲シタル後其ノ郵便物ヲ發見シタルトキハ之ヲ其ノ賠償受領者ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ賠償受領者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ賠償金ノ全部又ハ一部ヲ返付シテ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス前項ノ場合ニ於テ收得シタル金錢物品ハ之ヲ沒收シ既ニ消費又ハ讓渡シタルモノハ其ノ金錢又ハ代金ヲ追徵ス

第四十二條 第三條ニ違反シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ事由ナクシテ法律ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シ郵便物ノ受取ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第四十四條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
郵便事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑

ニ等ヲ加フ
本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四十五條 第二十八條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 郵便禁制品ヲ郵便物トシテ差出シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ物件ヲ沒收ス

第四十七條 不正ノ手段ヲ以テ郵便ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
郵便事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ等ヲ加フ

第四十八條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ヲ偽造變造シ又ハ其ノ情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
前項ノ郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ハ之ヲ沒收ス

第四十九條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ヲ再ヒ使用シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十條 郵便事務ニ従事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係

ル郵便物ニ使用シタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ヲ剝脱切取シタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第五十一條 郵便事務ニ従事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタルトキハ刑法竊盜ノ例ニ照シニ等ヲ加フ

第五十二條 郵便官署ノ取扱ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開披毀損隱匿若ハ拋棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知テ之ヲ受取リタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス郵便事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ等ヲ加フ

第五十三條 正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ拒絕シ若ハ其ノ送達ヲ遅延セシメタル者又ハ重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 郵便專用ノ物件其ノ他現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ヲ破壊損傷シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十五條 第四十七條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル

輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第五十六條 郵便物ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則
第五十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例中第十二章及第二百四十二條以外ノ條項小包郵便法及郵便聯合郵便切手類保護法ハ之ヲ廢止ス

第五十八條 本法施行前ニ差出シタル郵便物ニ關シテハ郵便條例及小包郵便法ヲ適用ス

●郵便規則 (明治三十三年九月逓信省令第四十二號)

- 第一章 郵便物ノ種別
 - 第一節 總則
 - 第二節 通常郵便物
 - 第三節 小包郵便物
- 第二章 郵便物ノ特殊取扱
 - 第一節 總則
 - 第二節 別配達
 - 第三節 留置
 - 第四節 一引受時刻證明
 - 第五節 一引受證明

- 第六節 價格表記
- 第七節 代金引換
- 第八節 現金取立
- 第九節 約束郵便
- 第十節 郵便私書函
- 第三章 郵便物ノ差出
- 第四章 郵便物ノ配達
- 第五章 郵便物ノ轉送及還付
- 第六章 損害賠償及報酬

第一章 郵便物ノ種別

第一節 總則

- 第一條 左記ノ物件ヲ郵便禁制品トス
 - 一 公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキ文書、圖、畫其ノ他ノ物件
 - 二 爆發性、發火性又ハ危險性ノ物件其ノ他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件
- 第二條 通貨、金銀、寶石、珠玉其ノ他高價ノ物件ハ價格表記ト爲スニ在ラサレハ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得ス
- 第三條 通常郵便物ノ容積ハ其ノ長一尺三寸幅八寸五分厚五寸ヲ限トシ其ノ重量ハ第三種乃至第五種郵便物ニ在リテハ三百匁商品見本及雛形ニ在リテハ百匁ヲ超過スヘカラス

小包郵便物ノ容積ハ其ノ長幅及厚各二尺ヲ限トシ其幅及厚各五寸以内ノモノハ長三尺ヲ限トシ其重量ハ内地相互間ハ一貫六百匁内地臺灣樺太相互間ハ一貫五百匁ヲ超過スヘカラス (四十年逓信省令第六號ヲ以テ本項改正)

第四條 郵便物ノ容積及重量ノ制限ヲ超過シ其ノ他成規ニ違反シテ差出シタル郵便物ハ特ニ規定シタル場合ノ外之ヲ差出人ニ還付ス若其ノ郵便料未納又ハ不足ナルトキハ其ノ不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第五條 無料郵便物ハ其ノ表面ニ「通信事務」ノ文字ヲ記載スヘシ (同上ヲ以テ條中改正)

無料郵便物ノ差出人又ハ受取人カ官署若ハ官吏ナルトキハ其ノ官署名若ハ官印氏名私ノナルトキハ其宿所氏名ヲ外部ニ明記スヘシ
前二項ノ規定ニ反スル郵便物ハ有料郵便物トシテ取扱フ

第六條 一 無料ノ性質ヲ有セサルモノヲ無料郵便物トシテ差出シタルトキハ差出人ニ還付シ未納額ノ二倍ヲ徵收ス
二 有料郵便物ヲ深附シタルモノ亦同シ

無料郵便物ニ無料ノ性質ヲ有セサル普信文ヲ記載シ又ハ有料郵便物ヲ深附シタルモノ亦同シ
二 小包郵便料及特殊取扱ヲ要スル郵便ニ關スル料金

ハ前納ニ限ル但シ留置ト爲シタル普通郵便料及特ニ規定シタルモノハ此ノ限ニアラス

第七條 郵便ニ關スル料金ノ未納又ハ不足カ郵便局所ノ過失ニ依リタルトキハ其ノ不納額ハ之ヲ徵收セス

第八條 郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス
一 郵便局所ノ過失ニヨリ徵收シタル郵便ニ關スル料金

二 特殊取扱ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於テハ特殊取扱ノ料金但シ書留小包郵便物ニ在リテハ普通小包郵便料ト書留小包郵便料トノ差額

三 郵便局所ノ過失ニ因リ普通郵便ニ依テ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ受取人ニ到達シタル別配送取扱ノ料金

四 名宛變更取戻代金引換ノ取消又ハ代金引換金額變更ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル請求手数料金

五 亡失又ハ失効ニ因リ損害賠償ヲ爲スヘキ場合ノ書留郵便物、價格表記郵便物、現金取立郵便物ノ郵便ニ關スル料金 (四十年逓信省令第六號ヲ以テ改正)

第九條 前條ノ料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ第一號乃至第四號

ハ料金納付ノ日ヨリ六十日第五號ハ損害賠償決定ノ日ヨリ三十日トス (同上)

第十條 第三種乃至第五種郵便物及小包郵便物ハ其ノ外部ニ左記ノ事項ニ限り之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得

- 一 差出人及受取人ノ宿所氏名
- 二 差出人及受取人ノ身分、職業、商標其ノ他ノ稱號等
- 三 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
- 四 贈呈、納本、注作品等四字以内ノ送達上ノ慣用語
- 五 定期刊行物ニ前金切レ又ハ何月何日限り前金滿了等ノ慣用語

六 送達上郵便局所ニ必要ナル注意ヲ示ス語辭
前項郵便物ニハ其ノ内部ニ前項各號ノ外尙左ノ事項ニ限り之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得

- 一 名稱、番號、數量、金額、寸尺、重量
- 二 定期刊行物、書籍、印刷物、畫、圖、業務用書類ニ正誤、注意、點、線、批評ノ類

- 三 圖、畫及寫真ニ說明又ハ著色
- 四 商品見本及雛形、農産物種子及博物學上ノ標本ニ

生産地及種類ヲ確知スル爲必要ノ事項

五 農産物種子ニ播種ノ時季及説明

六 名刺ニ四字以内ノ慣用語 (同上)

第十一條 郵便ニ關スル料金納付ノ爲メニ用キタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ郵便局所ニ於テ之ヲ消印ス

第十二條 郵便物ハ其ノ品質形狀ニ應シ危險、損害若ハ惡臭ヲ防止スルニ足ルヘキ適當ノ包裝ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 特種ノ包裝ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二節 通常郵便物

第十四條一 書狀トハ全部或ハ幾部ヲ筆記シタルト印刷シタルトニ關セス特定ノ人ニ對スル通信文ニシテ郵便葉書ニ依ラサルモノヲ云フ (四十年逓信省令第六號) (テ以テ本條第一號トス)

二 印刷シタル無封ノ書狀ハ其ノ料金ヲ十匁又ハ其ノ端數毎ニ二匁トス運送狀保險申込書ノ類ニシテ大部分ヲ印刷シタル無封ノ書狀亦同シ

前項ノ郵便物ニ就テハ第十條ノ規定ヲ準用ス (同上及四十年同令第三十四號ヲ以テ本條追加)

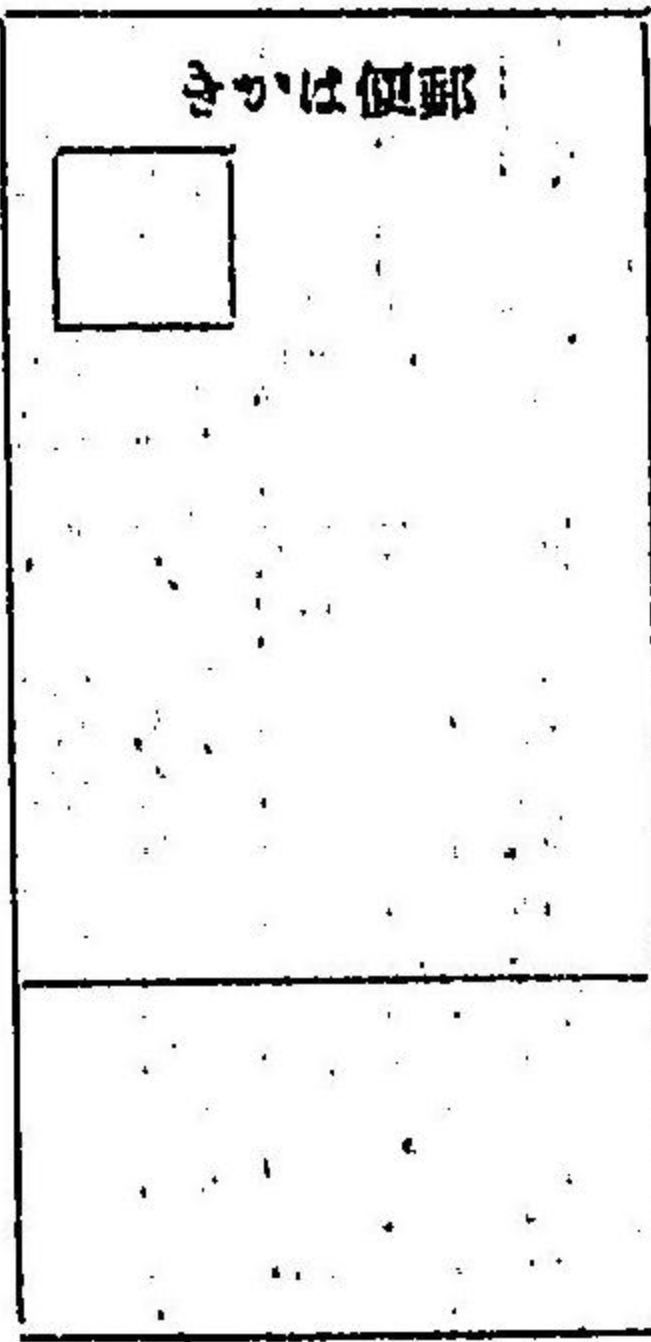
第十五條 郵便葉書ハ其ノ表面ニ左記ノ事項ニ限リ之ヲ記載スルコトヲ得

一 差出人及受取人ノ宿所氏名、身分、職業及商標其ノ他稱號等

二 日附及要用至急貴酬等ノ慣用語

三 送達上郵便局所ニ必要ナル注意ヲ示ス語辭

四 郵便繪葉書ノ表面ニ左式ノ如ク下部三分ノ一以内ニ線條ヲ畫スルトキハ其ノ線内ニ通信文等



郵便葉書ハ原形ノ儘使用シ契約書委任狀若ハ受領證ト爲サムカ爲收入印紙ヲ裏面ニ貼付スル場合ヲ除クノ外何等ノ物品ト雖添付スルヲ得ス

前二項ノ規定ニ違反シタル郵便葉書ハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス (同上ヲ以テ改正)

第十六條 往復葉書ニ依ル返信ノ際發信ニ使用シタル部ヲ除去セサルトキハ郵便局所ニ於テ之ヲ除去ス

第十七條 郵便葉書ノ料額印面ヲ汚斑シタルモノハ之ト

同額ノ郵便切手ヲ貼付スルニ依リ郵便葉書ノ效力ヲ有ス其ノ未納又ハ不足ノ場合ニ於テハ其ノ不納額ノ二倍ヲ徴收ス

第十八條 別ニ定ムル規定ニ依リ調製シタル私製葉書ハ通常葉書ト看做シ之ト同額ノ料金ヲ徴收ス

第十九條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ノ認可ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 定期刊行物ハ其刊行物初頁上部ニ其ノ名稱發行日回數逐號番號發行年月日及何年何月何日第三種郵便物認可ノ文字、次頁以下ハ上部ニ其ノ名稱又ハ略記號、發行年月日及第三種郵便物認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但シ冊子トナシタル刊行物ハ最初及最終ノ頁面ノミニ印刷スルコトヲ得

第二十一條 定期刊行物ハ本紙ノ重量ニ超過セス本紙ト同性質ノ記事、廣告又ハ書、畫、圖ヲ印刷シ之ニ本紙ノ名稱、番號並ニ發行ノ年月日及附録ノ文字ヲ記入シ且冊子ト爲ササルモノニ限り附録トシテ之ヲ其ノ本紙ニ添附スルコトヲ得

第二十二條 緊急時事ヲ報道スル爲メ臨時ニ刊行スル定期刊行物ノ號外ハ定期刊行物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

定期刊行物ノ號外ハ之ニ本紙ノ名稱、發行ノ年月日、何年何月何日第三種郵便物認可及號外ノ文字ヲ記入スヘシ

第二十三條 定期刊行物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ本紙ノ重量ヲ超過セサルモノニ限リ之ヲ綴込又ハ貼附スルコトヲ得

第二十四條一 第三種郵便物ニ非サル印刷物ニシテ毎月一回以上繼續刊行スルモノハ約東郵便物トシテ差出ストキニ限り其ノ料金ヲ重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ金壹錢トス (四十年逓信省令第三十五號ヲ以テ追加)

第二十四條ノ二 印刷物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ其ノ印刷物ノ重量ヲ超過セサルモノニ限り綴込又ハ貼附スルコトヲ得

第二十五條 業務用書類トハ全部若ハ一部ヲ筆書シタル各種ノ文書ニシテ特定ノ人ニ對スル通信文ノ性質ヲ有セサルモノヲ云フ

第二十六條 寫眞書畫圖及博物學上ノ標本ハ扁額其ノ他特殊ノ裝飾ヲ加ヘサルモノヲ云フ但シ掛軸ト爲スハ此ノ限ニアラス (四十年逓信省令第六號ヲ以テ改正)

第二十七條 商品見本及雛形ハ見本又ハ雛形トシテ其ノ性質又ハ形狀ヲ示スニ足ルヘキ箇數又ハ分量ヲ限リ其

營業者ト往復スルモノヲ云フ

前項ノ郵便物ニハ其ノ外部ニ差出人又ハ受取人ノ營業名及其ノ表面ニ商品見本又ハ雛形ノ文字ヲ記載スヘシ

第三節 小包郵便物

第二十八條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

一 内地小包郵便料

同一郵便区内(普通) 金四錢

同一郵便区内(書留) 金八錢

同一郵便区内(普通) 金八錢

同一郵便区内(書留) 金八錢

同一郵便区内(普通) 金八錢

同一郵便区内(書留) 金八錢

同一郵便区内(普通) 金八錢

同一郵便区内(書留) 金八錢

同一郵便区内(普通) 金八錢

同一郵便区内(書留) 金八錢

同一郵便区内(普通) 金八錢

同一郵便区内(書留) 金八錢

同一郵便区内(普通) 金八錢

第二十九條 普通小包郵便物ニハ表面看易キ場所ニ「小包」ト記入スヘシ(同上)

第三十條 (同上ヲ以テ削除)

第三十一條 (同上)

第三十二條 差出人ハ小包郵便物差出ノ際名宛地ノ郵便局所ニ於テ其ノ郵便物ノ配達ヲ遂クルコト能ハサルト

キ之カ轉送還付ノ爲料金増加ヲ要スル場合ニ於ケル該郵便物ノ轉送又ハ棄却ノ處分ニ付豫メ請求ヲ爲スコトヲ得(同上ヲ以テ改正)

第三十三條 小包郵便物ノ受取人ハ該郵便物ノ轉送ヲ名宛地ノ郵便局所ニ請求スルコトヲ得

第三章 郵便物ノ特殊取扱

第一節 總則

第三十四條 (四十年通信令第六號ヲ以テ削除)

第三十五條 郵便物ノ特殊ノ取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ

一 別配達料

一箇ニ付

二 留置通知料

一箇ニ付

三 引受時刻證明料

一箇ニ付

四 配達證明料

一箇ニ付

五 通常郵便物書留料

一箇ニ付

六 價格表記料

一箇ニ付

陸上二里以内ハ金二十錢
二里ヲ超過シタルトキハ一里毎ニ金十五錢ヲ加フ
郵船料ハ別ニ其ノ實費額ヲ受取人ヨリ徴收ス受取人之ヲ納付セサルトキハ差出人ヨリ徴收ス

七 代金引換料

一口ニ付 金五錢

外ニ取立金送達料トシテ其ノ引換金額十圓迄ハ

金五錢十圓以上百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對

シ十圓迄毎ニ金四錢百圓以上千圓迄ハ其ノ超過

シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金三錢

八 現金取立料

一口ニ付 金五錢

外ニ取立金送達料トシテ代金引換ト同一ノ割合

ニ依ル料額(四十二年通信令第七號ヲ以テ改正)

第三十六條 左記ノ郵便物ハ各其ノ下ニ記載セル文字ヲ

表面看易キ場所ニ記入スヘシ

一 別配達郵便物

別配達及ハ何局別配達

二 留置郵便物

留置若ハ何局留置又ハ留置通知

三 引受時刻證明郵便物

引受時刻證明

四 配達證明郵便物

配達證明

五 書留通常郵便物

書留

六 價格表記郵便物

價格表記金何程

七 代金引換委託郵便物

代金引換金何程

第三十八條 書留又ハ價格表記ノ郵便物ハ別配達ト爲スコトヲ得

郵便物ノ受取人ハ一定ノ期間ヲ限リ書留又ハ價格表記郵便物ノ別配達ヲ配達郵便局所ニ請求ス(同上ヲ以テ改正)

第三十八條 別配達ノ郵便物ハ通常ノ配達時刻ニ拘ラズ

百ニ特使ヲ以テ之ヲ配達ス

別配達ノ郵便物ニシテ配達ノ際受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ交付スルコト能ハサルトキハ別配達ノ效力ヲ失フ

第三十九條 留置郵便物ハ差出人指定ノ郵便局所ニ留置

キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

第四十條ノ一 留置郵便物ノ差出人ハ留置郵便局所ヨリ

其ノ受取人ニ該郵便物到着ノ通知ヲ請求スルコトヲ得

(四十二年通信令第七號ヲ以テ改正)

第四十條ノ二 郵便物ノ留置期間ハ三十日トス

交通不便ニシテ其ノ受取人前項ノ期間ニ出頭シ能ハスト認ムル地ニ宛テタル郵便物ニ限リ特ニ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十一條ノ一 引受時刻證明(同上)

第四十一條ノ二 書留通常郵便物ハ引受時刻證明ト爲スコトヲ得

第四十一條ノ二 引受時刻證明郵便物ハ引受ノ際差出人

ニ交付スヘキ受領證ニ其ノ引受時刻ヲ記入シテ之ヲ證明ス

第四十一條ノ三 配達郵便局所ニ於テ引受時刻證明郵便物ノ配達ヲ了シタルトキハ差出人ニ通知ス

第四節ノ二 配達證明 (同上)

第四十二條 書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ配達證明ト爲スコトヲ得

第四十三條 配達郵便局所ニ於テ配達證明郵便物ノ配達ヲ了シタルトキハ其ノ配達ノ證明書ヲ差出人ニ送付ス

第五節 書留

第四十四條 郵便物ハ之ヲ書留ト爲スコトヲ得但シ價格表記ト爲シタルモノハ書留ト爲スコトヲ得ス

第四十五條 書留郵便物ハ引受ノ際差出人ニ該郵便物ノ受領證ヲ交付ス

書留郵便物ヲ配達還付又ハ交付スルトキハ受取人又ハ差出人ハ別ニ定ムル式紙ニ受領證印セシメ若代人之ヲ受取ルトキハ其ノ代人タル資格及氏名ヲ記入證印セシメ之ヲ以テ送達ノ證トナス

官廳船舶學校會社旅館其ノ他多人數ノ集合セル箇所又ハ之ヲ肩書シタルモノニ配達若ハ還付スヘキ書留郵便物ヲ其ノ受付ニ引渡シタルトキハ其ノ本人ニ送達シタル

モノト看做ス (四十年通信省令第六號ヲ以テ改正)

第六節 價格表記

第四十六條 有價ノ物件ヲ封入シタル郵便物ハ之ヲ價格表記ト爲スコトヲ得但シ書留ト爲シタル郵便物ハ價格表記ト爲スコトヲ得ス

價格表記金額ノ制限ハ金千圓トス

第四十七條 價格表記郵便物ノ受授ニ關シテハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス (同上ヲ以テ條中改正)

第七節 代金引換

第四十八條 價格表記ノ郵便物及書留小包郵便物ハ代金引換ト爲シ其ノ郵便物ト代金トノ引換ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得 (同上ヲ以テ條中改正)

代金引換郵便ニ依ル金額ノ制限ハ金三百圓トス

第四十九條 代金引換郵便物ハ到着郵便局所ニ留置キ其旨ヲ受取人ニ通知シ受取人ノ出頭ヲ待テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス其留置期間ハ十日間トス

受取人ハ前項通知書發送後ノ代金引換郵便物ニ對シ其ノ轉送ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項留置ニ關シテハ第四十條ノ二第二項第八十二條ノ規定ヲ準用ス (同上及四十年同令第七號ヲ以テ改正)

第五十條 取立郵便局所ニ於テ代金引換郵便物ノ代金ヲ

其ノ受取人ヨリ取立テタルトキハ引受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及該郵便物ノ受領證並ニ取立金送達料ヲ差出シ之レト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第五十一條 代金引換郵便物ノ受領證ヲ亡失シタルトキハ差出人ハ其ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ郵便局所ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトアルヘシ

第五十二條 代金引換郵便物ノ差出人代金引換ノ取消ヲナサントスルトキハ第七十九條郵便物取戻ノ請求ニ關スル料金又代金引換金額ノ變更ヲナサントスルトキハ同條郵便物名宛變更ノ請求ニ關スル料金ト同額ノ料金ヲ前納シテ之ヲ請求スルコトヲ得 (三十七年通信省令第七十號ヲ以テ改正)

第八節 現金取立

第五十三條 代金受領證、株式配當券、公債又ハ社債ノ利券、保險掛金受領證ニシテ持參人ニ支拂ハルヘキモノハ現金取立トシテ其ノ金額ノ取立ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得

現金取立郵便ニ依ル金額ノ制限ハ一口ニ付金千圓トス

スルコトヲ得但シ同一ノ債權者ニ屬シ同一ノ債權者ヨリ同時ニ取立テ得ヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 現金取立ノ委託ヲ爲サムト欲スル者ハ現金取立委託書ト共ニ金額ヲ取立ツヘキ證券ヲ郵便局所ニ差出シ郵便局所ヨリ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第五十六條 一定ノ期日ニ取立ツヘキ證券ハ債權者所在地ニ達スヘキ日數ヲ除キ該期日ヨリ早クモ十五日遅クモ五日以前ニ之ヲ委託スヘシ

第五十七條 現金取立郵便ニ依ル證券ヲ債權者ニ呈示ノ際其ノ金額ヲ取立ツルコトヲ得サル場合ニ於テ直ニ其ノ證券ノ還付ヲ望ム者ハ委託書ニ其ノ旨ヲ記入シテ差出スヘシ

第五十八條 現金取立郵便物ノ到着局所ハ債權者ニ委託證券呈示ノ期日ヲ豫告シ該期日ニ債權者ノ居所ニ就テ證券引換ニ其ノ金額ノ支拂ヲ求ム若債權者其ノ居所ヲ移轉シ移轉先同一取立區域内ナルトキハ其ノ移轉先ニ就テ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條 委託ノ證券呈示ノ際債權者ノ支拂ノ拒絕ニ依ルニ在ラスシテ其ノ金額ヲ取立ツルコト能ハサルトキハ郵便局所ハ七日以内ノ期間ニ指定ノ郵便局所ニ出頭シテ該金額ノ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記載シタル告知書

ヲ其ノ居所ニ殘置ス但シ第五十七條ニ依ル請求アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ所在不明ナルトキ若ハ其ノ取立區域外ニ移轉シタルトキ又ハ債務者カ其ノ金額ノ支拂ヲ拒絶シタルトキ又ハ其ノ金額ヲ所定期間内ニ支拂ハサルトキハ郵便局所ハ委託證券受領證ト引換ニ委託ノ證券ヲ差出人ニ還付ス

第六十一條 取立郵便局所ニ於テ委託證券ノ金額ヲ其ノ債務者ヨリ取立タルトキハ引受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及委託證券ノ受領證及取立金送達料ヲ差出シ之ト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第六十二條 委託證券ノ受領證亡失ノ場合ニ於ケル證明書差出方ニ關シテハ第五十一條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 現金取立ノ取消ニ關シテハ第五十二條ノ規定ヲ準用ス

第九節ノ一 約束郵便 (四十年逓信省令第六號及同年同令第三十四號ヲ以テ節中改正)

第六十四條ノ一 定期刊行物、書籍及印刷物ハ別ニ定ムル所ニ依リ約束郵便ト爲スコトヲ得

第六十四條ノ二 約束郵便物ハ通知ヲ要セサル留置ト爲スノ外他ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

第六十四條ノ三 約束郵便物ニハ引受日附印ノ押捺ヲ省略スルコトアルヘシ

第六十四條ノ四 約束郵便トシテ差出ス郵便物ニハ郵便切手ヲ貼用セス一定ノ期間滿了ノ後通貨ヲ以テ其ノ期間内ニ差出シタル郵便物ノ料金ヲ納付スヘシ (四十年逓信省令第三十四號ヲ以テ本條改正)

第九節ノ二 廣告郵便 (同上ヲ以テ本節追加)

第六十五條一 受取人ヲ指定シテ差出人ノ指定シタル郵便局所ニ於テ其ノ區内ニ送達スル廣告引札等各種ノ印刷物ヲ廣告郵便ト稱ス

二 廣告郵便ノ料金ハ百通又ハ其ノ端數毎ニ同一郵便區内ハ金二十錢同一郵便區外ハ金三十錢トス

第六十五條三 廣告郵便物ハ一通ニ夕ヲ超過スヘカラス
四 廣告郵便物ハ配達ヲ要スル郵便局毎ニ把束シ差出人ノ宿所氏名配達ヲ要スル郵便局名及通數ヲ記載シタル請求書ニ料金相當ノ郵便切手ヲ添ヘ之ト共ニ郵便局所ニ差出スヘシ
五 廣告郵便物ハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ配達シ且ツ日附印ヲ押捺セス

第十節 郵便私書函

第六十六條 郵便私書函使用人ハ郵便局所ニ設置シアル郵便私書函ニ依リ何時ニテモ普通郵便ニ依ル料金完納通常郵便物ヲ受取ルコトヲ得

第六十七條 郵便私書函ハ二人以上ノ名義ヲ以テ一箇ヲ使用スルコトヲ得ス

郵便私書函使用人ニシテ豫メ認可ヲ受ケタル者ハ書留價格表記配達證明及料金不納ノ通常郵便物又ハ小包郵便物ヲ郵便局ニ於テ受取ルコトヲ得 (三十九年逓信省令第三十八號ヲ以テ本項追加)

第六十八條 郵便私書函ヲ使用セムト欲スル者ハ當該郵便局所ノ許可ヲ受ケ其ノ定ムル所ニ依リ一年分金五十圓以下ノ郵便私書函料ヲ納ムヘシ

第三章 郵便物ノ差出

第六十九條 普通郵便ニ依ル通常郵便物ハ郵便函ニ差入ルヘシ但シ容積大ナルカ爲メ又ハ箇數多キカ爲メ郵便函ニ差入ルコト能ハサルモノハ郵便局所ニ差出スヘシ小包郵便物及特殊ノ取扱ヲ要スル通常郵便物ハ郵便局ニ差出スヘシ但シ書留又ハ價格表記ニアラサル留置通常郵便物ハ此

限ニ在ラス (四十年逓信省令第六號ヲ以テ但書改正)

第七十條 郵便局内ニ於テ郵便物ノ引受ヲ爲スハ郵便取扱時間中ニ限ル但シ別配達郵便物及特ニ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス (同上ヲ以テ但書中改正)

第七十一條 郵便物ノ重量ハ其ノ郵便物ニ貼用シタル郵便切手ノ重量ヲモ合算ス但シ價格表記郵便物ニ使用スル逓信省發行ノ封皮シテ其ノ表面印刷シアル封皮ノ量目ハ之ニ算入セス (三十四年逓信省令第五十六號ヲ以テ但書追加)

第七十二條ノ一 郵便料金ノ徴收ニ關シ同一ノ行政市區内ニ數箇ノ郵便區アルトキハ其數箇ノ郵便區ヲ通シテ同一郵便區ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ其郵便區ノ一部行政市區外ニ涉ルモノアルトキハ其行政市區外ニ涉ル部分ヲ通シテ同一郵便區ト看做ス (三十六年逓信省令第六號ヲ以テ追加)

二 別配達郵便料ニ關スル里程ハ郵便官署ノ定ムル所ニ依ル (同上ヲ以テ第七十二條ノ二改正)

第四章 郵便物ノ配達

第七十三條 深山孤島其ノ他僻陬ノ地ニシテ交通困難ノ場所ニ住居スル者ニ宛タル郵便物ニシテ通常ノ方法ニ依リ配達シ難キモノハ凡テ郵便局所ニ留置キ受取人ノ

出頭ヲ待テ之ヲ交付ス差出人ニ郵便物ヲ還付スル場合
亦同シ (四十年通信省令第六號ヲ以テ條中改正)

第七十四條 二名以上ニ宛タル郵便物ハ其ノ内ノ一名ニ
配達ス

第七十五條 郵便局所ニ於テ誤テ郵便物ヲ正當受取人ニ
在ラサル者ニ配達シタルトキ其ノ配達ヲ受ケタル者ハ
速ニ其ノ事由及居所氏名ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ料金
ヲ納付スルコトナク再ヒ郵便ニ差出スカ又ハ郵便局所
ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ郵便物ヲ誤テ開披シタルトキハ
之ヲ封緘シ又ハ相當ノ手當ヲ爲シ前項ノ手續ヲ爲スヘ
シ

第七十六條 郵便局所カ郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受ケタ
ル者ニ就キ其ノ郵便物ノ封皮及葉書ノ交付ヲ求め又ハ
其ノ郵便物ノ受授ニ關スル狀況ヲ探問スルトキハ之ヲ
拒ムヘカラス

第七十七條 正當ノ事由ナクシテ第七十五條ノ手續ヲ爲
サヌ又ハ第七十六條ノ要求ニ應ゼサル者ハ科料ニ處ス

第五章 郵便物ノ轉送及還付

第七十八條 轉送及還付ハ別ニ科料ヲ徵收セス但シ小包

ノ配達先ニ於テ受取人ノ所在地ヲ集配人ニ明示シ前條
ノ轉送ヲ求ムルコトヲ得

普通通常郵便物ニシテ其ノ配達ヲ受ケタル後ナルトキ
ハ該郵便物ニ轉送先ヲ記載シタル符箋ヲ爲シ其ノ配達
ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ料金ノ納付ヲ要スルコト
無ク再ヒ郵便ニ差出スコトヲ得若シ其ノ期限經過後郵便
ニ差出シタルトキハ新ニ差出シタルモノト看做ス

郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合ニ於テ差出人既ニ他
ニ移轉シタルトキ亦前二項ニ準ス (同上)

第八十二條 郵便物ノ受取人所在不明ナルトキ又ハ郵便
料不納ナルニ依リ受取人ノ力受取ヲ拒ミタルトキ又ハ
留置期間ヲ經過シタルトキハ配達シ能ハサル郵便物ト
シテ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

前項ノ外小包郵便物ノ受取人料金増加ヲ要スル區域ニ
移轉シタル場合ニ於テ第三十二條ニ依リ差出人ヨリ豫
メ其ノ轉送若ハ棄却ノ請求ヲ爲サヌ又ハ第三十三條ニ
依リ受取人ヨリ轉送ノ請求ナキトキハ直ニ之ヲ差出人
ニ還付ス轉送ノ請求ヲ爲シタル郵便物ニシテ其ノ請求
ニ依リテ配達ヲ遂クル能ハサル場合亦同シ (四十年通信
省令第六號ヲ以テ改正)

郵便物ニシテ料金増加ヲ要スル區域ニ轉送還付スル場
合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ轉送料ハ請求人ヨリ還付料ハ差
出人ヨリ各其ノ差額ヲ追徵ス (四十年通信省令第六號
ヲ以テ改正)

第七十九條 郵便物ノ差出人ハ未タ配達ヲ了セサル郵便
物ノ名宛變更又ハ取戻ヲ請求スルコトヲ得但シ之カ爲
メ事務ニ差支アルトキハ拒絕スルコトアルヘシ
前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ郵便物差立前ナルトキ
ハ金五錢差立後ニシテ郵便ニ依ルモノハ金八錢電信ニ
依ルモノハ取戻ノ請求ニ係ルトキハ金四十錢名宛變更
ノ請求ニ係ルトキハ金七十錢ヲ前納スヘシ

但シ差立準備前郵便物ノ取戻請求ニ應シタルトキハ別
ニ其ノ料金ヲ徵收セス (同上ヲ以テ但書追加)

第八十條 郵便物ノ受取人他ニ移轉シ其ノ先分明ナルト
キハ之ヲ其ノ移轉先ニ轉送ス郵便物ノ差出人ニ還付ス
ヘキ場合ニ於テ差出人他ニ移轉シタルトキ亦同シ但シ
小包郵便物ノ受取人ニシテ料金増加ヲ要スル區域ニ移
轉セルトキハ差出人又ハ受取人ヨリ其ノ轉送ヲ請求シ
タルモノニ限り之ヲ轉送ス

普通小包郵便物ハ内地相互間ヲ除クノ外轉送還付セス
第八十一條 郵便物ノ受取人既ニ他ニ移轉セルトキハ其

第六章 損害賠償及報酬

第八十三條 郵便物ニ關スル損害ノ賠償ハ其ノ差立郵便
局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘ
シ

郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償ヲ生シメタル郵便遞
送人及郵便集配人ノ屬スル郵便局所在地ヲ管轄スル
一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

郵便法第五條ニ依ル報酬ハ助力ヲ求めタル郵便遞送人
郵便集配人又ハ郵便吏員ノ屬スル郵便局所在地ヲ管
轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

第八十四條 郵便物ノ配達又ハ還付ノ際郵便物ニ損害ア
リト申立タルトキハ申立人ヲシテ其ノ事由ヲ證明セシ
ムヘシ郵便局ハ郵便法第三十四條ニ依リ損害ナシト看
做ストキハ其事由ヲ記載シタル調書ト共ニ再ヒ該郵便
物ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項郵便物ニシテ損害ナシト看做ス能ハサルトキハ七
日ノ期間内ニ申立人ヲ立會ハシメ之ヲ開披シテ損害ノ
有無ヲ検査シ損害ナシト認メタルトキハ其ノ事由ヲ記
載シタル調書ト共ニ郵便物ヲ申立人ニ交付シ損害アリ
ト認メタルトキハ申立人ニ於テ其ノ郵便物ノ任意受取

方ヲ申立ツル場合ノ外損害調査ヲ作成シ之ヲ損害賠償ノ請求權ヲ有スル者ニ交付ス

第八十五條 前條第二項ノ場合ニ於テ申立人立會ヲ爲ササルトキ其ノ申立人受取人ナルトキハ郵便物ハ直ニ差出人ニ還付ス申立人差出人ナル場合ニ於テハ郵便法第十四條ニ依ル還付シ能ハサル郵便物トシテ之ヲ取扱フ

第八十六條 郵便物ニ關スル損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ其ノ種別、品名、箇數、實價、請求金額其ノ他必要ナル事項及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ若第八十四條ノ場合ニ受ケタル損害賠償ノ請求ヲ爲サルトキハ別ニ其ノ調書ヲ添付スヘシ(同上ヲ以條中改正)

郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償又ハ第五條ニ依ル報酬ヲ請求スル者ハ其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

第八十七條 損害賠償及報酬ノ請求ヲ受ケタル一等郵便電信局ニ於テハ其ノ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求人ニ通知ス

第八十八條 損害賠償ノ請求ヲ爲シタル者其ノ請求ヲ取消シタル場合ニ於テ郵便物ノ毀損ニ係ル請求ナルトキハ郵便局所ハ直ニ該郵便物ヲ其ノ請求人ニ交付ス

第八十九條 郵便法第三十三條ニ依ル郵便物損害賠償ノ

金額ハ左ノ割合ニ依ル

- 一 書留通常郵便亡失ノトキハ一箇ニ付金十圓
- 二 書留小包郵便物ノ損害賠償額ハ
 - 亡失ノトキハ 重量二百匁迄ハ金二圓、二百匁以上ハ二百匁又ハ其ノ端數ヲ超過スル毎ニ金一圓ヲ加フ

毀損ノトキハ 總重量ニ對スル減重量ノ割合ニ依リ重量二百匁迄ハ金一圓以内二百匁以上ハ二百匁又ハ其ノ端數ヲ超過スル毎ニ金五十錢以内ヲ加フ

- 三 價格表記郵便物全部亡失ノトキハ表記金額ノ全額一部亡失又ハ毀損ノトキハ其ノ表記金額ト殘存價格トノ差額但シ表記金額市場價格ニ超過スルトキハ市場價格ニ依リ算定ス此ノ場合ニ於ケル市場價格ハ引受當時ニ於ケル引受郵便局所在地ノ價格ニ依ル

四 現金取立郵便ニ依ル證券ノ亡失又ハ失効ノトキハ其ノ實損額

五 代金引換郵便物ノ取立金ノ取立ヲ爲サスシテ之ヲ

交付シタルトキハ其ノ實損額 (同上ヲ以テ改正)

附則

第九十條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年(三月)逓信省令第八號配達證明郵便規則同二十九年(九月)逓信省令第十九號代金引換小包郵便規則及此ノ規則ニ抵觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

●年賀狀特別郵便規則 (明治三十九年十二月) (逓信省令第五十一號)

第一條 年賀郵便物ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ特別取扱ト爲スコトヲ得 (四十年逓信省令第五十號ヲ以テ改正)

第二條 特別取扱ヲ爲ス年賀郵便物ハ料金完納ノ普通通常郵便物ニ限ル

第三條 特別取扱ヲ爲ス年賀郵便物ノ引受期間ハ毎年十月二十五日ヨリ二十九日マテトス

第四條 特別取扱ヲ受ケントスル年賀郵便物ハ之ヲ一束トシ年賀郵便ト記載セル附札ヲ爲シ郵便局所ニ差出スヘシ但其ノ數目ノ少キモノハ之ヲ封筒ニ納メ年賀郵便ト表記シテ郵便面ニ投入スルコトヲ得 (四十一年逓信省令第五十號ヲ以テ改正)

第五條 本規則ニ依リ差出シタル年賀郵便物ハ翌年一月

一日引受ノモノト看做シ當日最先便ヨリ配達ヲ開始ス前項ノ郵便物ハ到着日附印ヲ押捺セズ

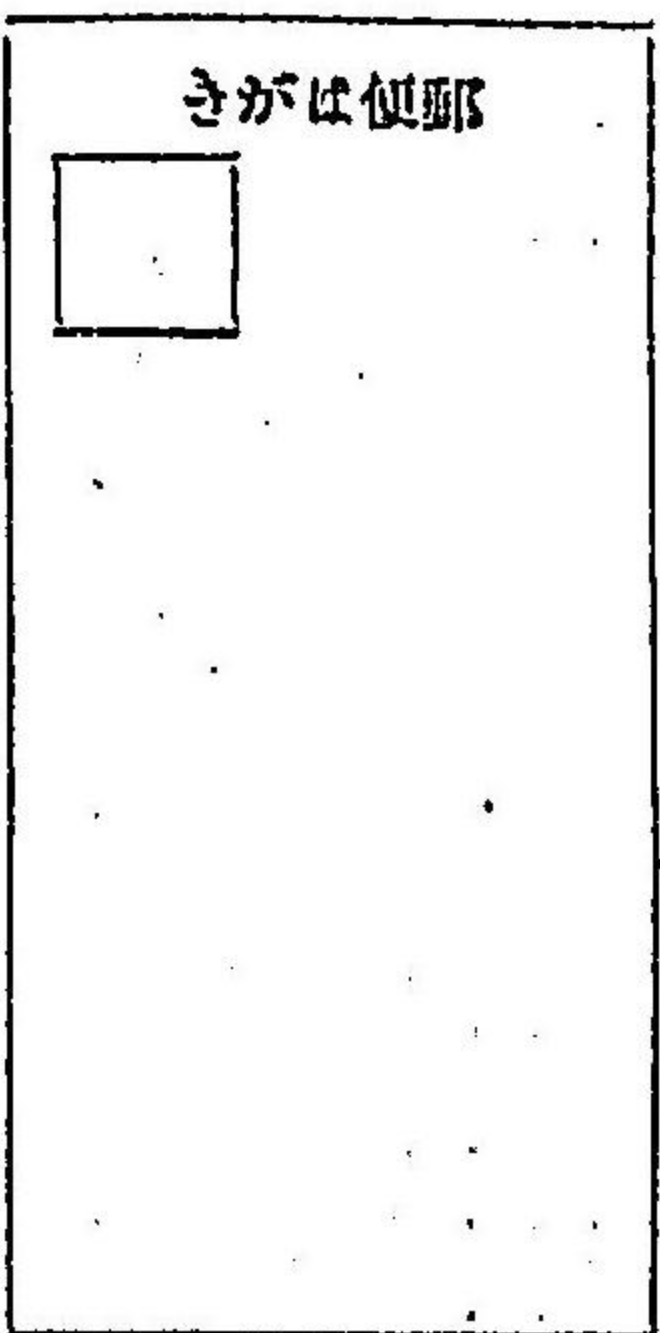
第六條 本規則ニ定ムル事項ノ外一般ノ規定ニ依ル

附則

第七條 本令ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●私製葉書製式規則 (明治三十六年十二月) (逓信省令第六十二號)

第一條 私製葉書ノ表面ニハ脫色セサル印肉ヲ以テ左式ノ如ク鮮明ニ印刷スヘシ



第二條 私製葉書ノ表面ニハ前條記載文句ノ外宛名ノ記入ヲ妨ケサル限リハ左ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得

- 一 郵便葉書ニ相當スル外國文字
- 二 萬國郵便聯合ノ文字及之ニ相當スル外國文字
- 三 政府發行ノ通常葉書ト同一ノ注意文又ハ切手貼付方ノ注意文

四、發行所、賣捌店ノ所在名稱
五、模樣付輪廓但シ廣告文等或ル意味ヲナス文字ヲ用
ウルコトヲ許サス

第三條 私製葉書用紙ノ品質ハ精良ニシテ韌力強ク且曲
折ノ虞ナク政府發行ノ通常葉書ト同質以上ノモノタル
コトヲ要ス

第四條 私製葉書用紙ノ重量及厚サハ政府發行ノ通常葉
書若クハ萬國郵便聯合葉書ヲ以テ其ノ標準トス

第五條 私製葉書用紙ノ寸法ハ縱四寸五分以上四寸七分
以内横二寸八分以上三寸以内ヲ以テ其ノ標準トス

第六條 私製葉書表面ノ紙色ハ白色又ハ白色類似ノ色合
タルヘシ

第七條 私製葉書ノ裏面ニハ他ノ郵便物ニ汚斑ヲ來スカ
如キ著色ヲナスコトヲ得ス

第八條 透シ畫、浮出ハ宛名ノ記入ニ妨ナク且第三條ノ
主旨ニ抵觸セサル限リハ之ヲ施スコトヲ得

第九條 外國郵便規則第七條ニ依リ調製シタル私製葉書
ハ之ヲ内國郵便ニモ使用スルコトヲ得

第十條 本規則ノ規定ニ違背シタル私製葉書ハ第一種郵
便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

附則

第十一條 明治三十三年(九月)遞信省告示第三百五十八
號及同年(十月)遞信省告示第三百九十七號ハ本規則施
行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●郵便貯金法 (明治三十八年二月法律第二十三號)

第一條 郵便貯金ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 郵便貯金ノ預入ハ郵便貯金通帳ニ依リ其ノ拂戻
ハ拂戻證書ニ依リ之ヲ爲ス但シ命令ヲ以テ特別ノ規定
ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 一人ノ郵便貯金制限額ハ左ノ如シ
一 一度ノ入預額 十錢以上
二 貯金總額 千圓以下

預入金ノ端數ハ厘位ヲ限トス

第四條 左ニ掲クル預入金ニ付テハ前條第一項第二號ノ
制限ヲ適用セス
一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人
若ハ團體ノ預入金
二 命令ノ規定ニ依ル共同貯金ノ預入金
三 産業組合ノ預入金
四 振替計算ノ爲ニスル預入金

第五條 郵便貯金通帳ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ

外一人一冊ヲ限トス

前項ノ規定ニ違反シ二冊以上ノ通帳ヲ以テ貯金ノ預入
ヲ爲シタル者アルトキハ最初ノ通帳、通帳ノ日附同一
ナルトキハ貯金ノ最多額ナルモノニ記入シタル貯金ノ
外利子ヲ附セス

前項ニ依リ利子ヲ付スヘカラサル貯金ニ付既ニ拂戻シ
タル利子アルトキハ現ニ存在スル貯金ヨリ之ヲ控除シ
又ハ別ニ之ヲ追徴ス

第六條 郵便貯金額第三條第一項第二號ノ制限ヲ超過シ
タル場合ニ於テ郵便貯金預ケ人之ヲ其ノ制限以内ニ減
額セサルトキハ郵便官署ハ其ノ制限以内ニ減額スルニ
必要ナル限度ニ於テ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券ヲ購入
シ之ヲ保管スヘシ

第七條 郵便切手及支拂期ノ開始セル證券ハ命令ノ定ム
ル所ニ依リ郵便貯金ニ預入スルコトヲ得

第八條 郵便貯金ノ利子ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム

第九條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ請求ニ因リ其ノ貯
金ノ一部ヲ以テ國債證券其ノ他ノ證券ヲ購入保管シ又
ハ之ヲ賣却スルコトヲ得其ノ證券ノ種類ハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム

第十條 郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間ハ命令ヲ
以テ之ヲ定ム

第十一條 郵便貯金ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ
爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ命令ヲ以テ定ム
ル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十三條 成規ノ手續ヲ經テ郵便貯金ヲ拂出シ又ハ保管
ニ係ル證券ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂出又ハ交付ヲ
爲シタルモノト看做ス

第十四條 郵便官署ハ郵便貯金ニ關スル取扱ノ遲延ニ因
リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十五條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ眞偽ヲ調査スル
爲預ケ人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 郵便官署ハ必要ナル場合ニ於テ郵便貯金通帳
ヲ檢閲スルコトヲ得

第十七條 郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第十八條 十年間郵便貯金ノ預入及拂出ナク且利子記入
又ハ檢閲ノ爲ニスル通帳ノ提出ナキ場合ニ於テハ郵便
官署ハ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入
金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シ其ノ催告ノ日ヨリ六十
日內ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルト

キハ其ノ郵便貯金保管ニ係ル證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス
郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間満了ノ日ヨリ三
年間再度證書交付又ハ拂出金戻入ノ請求ナキ場合ニ於
テハ其ノ拂出金ハ國庫ノ所有ニ歸ス
一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル郵便
貯金ニ付テハ其期間ハ第一項ノ期間ニ算入セス

附則

第十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム郵便貯
金條例ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本法施行前ニ預入シタル郵便貯金ニ關シテハ
本法ノ規定ヲ適用ス

本法施行前又ハ本法施行後一年內ニ第十八條第一項ノ
期間ヲ經過シ又ハ經過スヘキ郵便貯金ニ付テハ本法施
行ノ際郵便官署ニ於テ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳
ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ其
ノ催告ノ日ヨリ一年內ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ
處分ヲ申出サルトキハ更ニ其ノ旨ヲ公告シ尙一年內ニ
之ニ應スル者ナキトキハ其ノ貯金及保管ニ係ル國債證
券ハ國庫ノ所有ニ歸ス
本法施行前發行シタル拂戻證書ノ有効期間ハ本法施行
ノ日ヨリ六十日トス

●郵便貯金規則

(明治三十八年五月
逓信省令第三十六號)

第一章 總則

第一節 通則

第二節 貯金利息

第三節 通帳檢閱

第四節 再度通帳

第五節 讓渡及相續

第二章 貯金預入

第一節 通常預入

第二節 郵便切手預入

第三節 證券預入

第四節 局所外預入

第三章 貯金拂戻

第一節 通則

第二節 通常拂戻

第三節 特殊拂戻

第四章 證券購入保管及賣却

第一節 通則

第二節 證券購入及保管

第三節 證券交付及賣却

第五章 特別貯金

第一節 規約貯金

第二節 振替貯金

第三節 共同貯金

第四節 海外貯金

郵便貯金規則

第一章 總則

第一節 通則

第一條 郵便貯金ハ特ニ告示シタル場合ヲ除クノ外何レ
ノ郵便局所ニ於テモ之ヲ取扱フ

第二條 左ノ貯金預ケ人ハ貯金ノ目的ヲ異ニスル場合ニ
限リ二冊以上ノ通帳ヲ所持スルコトヲ得

一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人
若ハ團體

二 規約貯金ノ預ケ人

三 振替貯金ノ預ケ人

四 共同貯金ノ總代人

第三條 貯金通帳ニハ預ケ人ニ於テ其ノ表紙ノ餘白ニ貯
金ノ目的ヲ表示スヘキ簡單ナル文詞徽號ヲ印刷又ハ筆
書スルコトヲ得

第四條 郵便貯金ノ受入及拂出ハ郵便爲替貯金管理所又
ハ同支所ニ於テ之ヲ貯金預ケ人原簿ニ登記ス

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ預入金ヲ原簿ニ
登記シタルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

貯金預ケ人其ノ預入ヲ爲シタル日ヨリ起算シ三十日以
內ニ前項ノ通知書到達セサルトキ又ハ通知書到達スル

モ預入金額、預入年月日等ニ相違アルトキハ速ニ其ノ
旨ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ申告スヘシ

第五條 一人ノ郵便貯金總額制限ヲ超過シタルトキハ郵
便官署ハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

前項ノ通知ヲ發シタル後三十日以内ニ預ケ人ヨリ減額
ノ請求ナキトキハ郵便官署ハ郵便貯金法第六條ノ手續
ヲ爲ス

第六條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ニ
於テ本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ
於テハ當該書類ニ其ノ名稱ヲ記載シ其ノ印ヲ捺捺スル
カ又ハ其ノ代表者、管理者ニ於テ相當肩書ヲ附シ記名
調印スヘシ (三十九年逓信省令第十五號ヲ以テ條中改正)

第七條 代人ニ於テ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サ
ムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ
證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ肩書ヲ
附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ
記名調印シ之ヲ作製スルコトヲ得

第八條 貯金預ケ人ハ一名ヲ限リ加印者ヲ設クルコトヲ
得
加印者ヲ設ケタル貯金預ケ人本規則ノ定ムル所ニ依リ

記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ加印者モ亦當該書類ニ其ノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

第九條 貯金預ケ人加印者ヲ變更シタルトキハ其ノ肩書ニ預ケ人及新舊加印者連署シ且新加印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人其ノ加印者ヲ廢シタルトキハ前項ノ例ニ準シ其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十條 貯金預ケ人預入開始後加印者ヲ設ケタルトキハ其ノ肩書ニ預ケ人及加印者連署シ且加印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十一條 印章ヲ所持セサル者貯金預ケ人トナルトキハ代印者一名ヲ設クヘシ

代印者ヲ設ケタル貯金預ケ人本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ當該書類ニ本人ノ氏名ヲ記シ尙代印者記名調印スヘシ

第十二條 貯金預ケ人代印者ヲ變更シタルトキハ其ノ肩書ニ新舊代印者連署シ且新代印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十三條 貯金預ケ人代印者ヲ廢シタルトキハ其ノ肩書ニ預ケ人及代印者連署シ且預ケ人ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十四條 貯金預ケ人印章ヲ變更シタルトキハ其ノ肩書ニ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ且通帳ヲ呈示スヘシ但シ通帳ヲ呈示シ能ハサル場合ニ於テ正當本人タルコトヲ證明シ得サルトキハ郵便局所ノ相當ト認ムル保證人ヲ立ツヘシ

代印者又ハ加印者印章ヲ變更シタルトキハ前項ノ例ニ依リ其ノ届出ヲ爲スヘシ但シ加印者印章變更ノ場合ニ於テハ其ノ肩書ニ預ケ人ノ連署ヲ要ス

第十五條 貯金預ケ人及其ノ他ノ關係人ニ於テ其ノ氏名ヲ改メ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ其ノ肩書ニ記名調印シ之ヲ郵便局所ニ差出シ且其ノ關係人ニ於テ其ノ氏名ヲ改メ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ其ノ肩書ニ記名調印シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十六條 貯金預ケ人其ノ住所ヲ郵便爲替貯金管理所所持區域内ヨリ同支所所持區域内ニ移轉シ又ハ同支所所持區域内ヨリ郵便爲替貯金管理所若ハ他ノ支所所持區域内ニ移轉シタルトキハ預ケ人原簿ノ移替ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ預ケ人原簿ヲ當該郵便爲替貯金管理所又

ハ同支所ニ移替シ且通帳記號番號ヲ更訂シタル上通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第十七條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ノ代表者、管理者ニ異動アリタルトキハ其ノ肩書ニ新舊代表者、管理者連署シ且新代表者、新管理者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ(三十九年通帳管金第十條ヲ以テ修正)

第十八條 特別即時拂ノ取扱ヲ受クヘキ貯金預ケ人第九條以下ノ届出ヲ爲ストキハ當該特別取扱郵便局所ニ對シテモ亦其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十九條 貯金預ケ人第九條以下ノ届出ヲ爲シタルトキハ同時ニ通帳中變更ニ係ル事項ヲ訂正スヘシ

第二十條 貯金事務ニ關シ郵便官署ニ提出スル書類ニハ當該通帳ノ記號番號ヲ附記スヘシ

第二十一條 郵便官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ貯金預ケ人ノ請求ニ依リ貯金ニ關スル特別ノ取扱ヲ爲ス場合ト雖其ノ承認ヲ取消シ又ハ其ノ取扱局所ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十二條 天災其ノ他非常ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ特ニ指定シタル郵便局所ニ限り本規則ノ手續ニ依ラス貯金ノ拂戻其ノ他ノ取扱ヲ爲ス

前項非常取扱ニ關スル必要ナル事項ハ當該郵便局所ニ之ヲ揭示ス

第二節 貯金利子

第二十三條 郵便貯金ハ其ノ預入ノ翌月ヨリ其ノ拂戻證書發行ノ前月マテ又拂戻證書ヲ發行セサルモノハ拂戻金拂渡ノ前月マテ之ニ利子ヲ附ス但シ一口ノ預入金中十錢未滿ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第二十四條 貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ之ヲ元金ニ加ヘ其ノ總額ニ對シ四月ヨリ更ニ利子ヲ附ス但シ其ノ十錢未滿ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第二十五條 貯金預ケ人ハ通帳ニ元加利子ノ記入ヲ受クル爲毎年一回通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第二十六條 前條ノ通帳ニ對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ元加利子ノ記入ヲ爲シ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第三節 通帳檢閱

第二十七條 貯金預ケ人ハ何時ニテモ所持ノ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ノ檢閱ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳

ノ檢閲ヲ爲サムトスルトキハ貯金預ケ人ニ其ノ旨ヲ通告ス

貯金預ケ人前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ通告書ニ指示スル方法ニ依リ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ郵便局所所屬員ニ交付スヘシ

第二十九條 貯金預ケ人前二條ニ依リ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ郵便局所所屬員ニ交付シタルトキハ通帳受領書ヲ受取ルヘシ

第三十條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳ヲ檢閲シタルトキハ之ニ檢閱濟ノ證明ヲ爲ス

前項檢閱濟ノ通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第四節 再度通帳

第三十一條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ再度通帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

- 一 通帳ヲ亡失シタルトキ
 - 二 通帳毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ
 - 三 通帳餘白ナキニ至リタルトキ
- 前項第一號及第二號ニ依リ再度通帳ノ請求ニ對シテハ通帳一冊ニ付料金五錢ヲ徵收ス

第三十二條 貯金預ケ人通帳ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ再度通帳請求書ヲ調製シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ通帳アルモノハ之ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

貯金預ケ人通帳餘白ナキニ至リタル爲再度通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領書ヲ受取ルヘシ

第三十三條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ預ケ人原簿ニ依リ再度通帳ヲ發行シ通帳ハ郵便局所ニ於テ前條ノ受領書ト引換ニ之ヲ請求人ニ交付ス

第三十四條 再度通帳ヲ發行シタルトキハ原通帳ハ無効トス

第五節 讓渡及相續

第三十五條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ讓渡スコトヲ得

- 一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トスル法人若ハ團體ニ讓渡ス場合
- 二 親族ニ讓渡ス場合
- 三 遺言ニ依リ讓渡ス場合

第三十六條 貯金ノ讓受人ハ速ニ貯金ノ名義書換ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ請求スヘシ

前項ノ場合ニ於テ讓受人カ既ニ自己名義ノ通帳ヲ所持スルトキハ其ノ通帳ニ讓受ニ係ル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十七條 貯金讓受人貯金ノ名義書換ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ遺言ノ場合ヲ除クノ外讓受人及讓渡人連署シ且讓受人ノ印鑑及左ノ書類ヲ添ヘ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領書ヲ受取ルヘシ

- 一 法人若ハ團體ニ於テ讓受ケタルモノナルトキハ營利ヲ目的トセサルコトヲ認ムヘキ相當ノ證明書
- 二 親族ニ於テ讓受ケタルモノナルトキハ其ノ續柄ヲ認ムヘキ謄本若ハ抄本
- 三 遺言ニ依リ讓受ケタルモノナルトキハ相當ノ證明アル遺言書謄本

第三十八條 貯金讓受人貯金ノ轉記ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ遺言ノ場合ヲ除クノ外讓受人及讓渡人連署シ且自己名義ノ通帳及讓受ニ係ル通帳竝ニ前條各號ノ書類ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

第三十九條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ前二

條ノ請求ニ依リ貯金ノ名義書換又ハ轉記ヲ了シタルトキハ通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第四十條 貯金ノ讓受人反對ノ申出ヲ爲ササルトキハ當該貯金ニ屬スル證券モ亦タ讓渡ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十一條 死亡ニ因ル家督相續人又ハ遺產相續人、被相續人ノ貯金ノ名義書換若ハ轉記ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ戸籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添ヘ名義書換ノ場合ハ尙印鑑ヲ添ヘ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ但シ郵便局所ニ於テ必要ト認ムルトキハ相當保證人ヲ立テシムルコトアルヘシ死亡以外ノ原因ニ依ル家督相續人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ第三十七條第三十八條ノ例ニ依ルヘシ第三十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二章 貯金預入

第一節 通常預入

第四十二條 新ニ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金預入申込書ヲ調製シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ貯金預ケ人カ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ナルトキハ貯金預入申込書ニ相當證明書ヲ添附スヘシ

第四十三條 郵便局所ニ於テ前條ノ申込書及現金ヲ受領シタルトキハ預ケ人名義ノ通帳ヲ調製シ預入金ノ記入ヲ爲シ之ヲ預ケ人ニ交付ス

貯金預ケ人通帳ノ交付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ印鑑欄ニ預入申込書ニ使用シタル印章ヲ捺捺スヘシ

第四十四條 貯金預ケ人再度以後ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ現金ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第四十五條 貯金預ケ人通帳ヲ郵便官署ニ提出中貯金ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ郵便局所ニ通帳受領證ヲ呈示シタル上現金ヲ差出シ其ノ假預リ證ヲ受取ルヘシ貯金預ケ人通帳ノ返付ヲ受ケタルトキハ預入ヲ爲シタル郵便局所ニ前項ノ假預リ證ヲ差出シ通帳ニ預入金ノ轉記ヲ受クヘシ

第四十六條 郵便局所ニ於テ貯金ヲ受入レタルトキハ通帳ニ預入金額、預入年月日其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ主務者調印シ且日附印ヲ捺捺シテ之ヲ證明ス

第二節 郵便切手預入

第四十七條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル郵便切手ハ左ノ三種トス

- 一 五厘郵便切手
- 二 一錢郵便切手
- 三 二錢郵便切手

第四十八條 郵便切手ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便切手貯金票紙ニ印刷シタル郵便切手印面金額ト同一種類ノ郵便切手ヲ票紙相當欄全部ニ貼附シ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入ヲ受クヘシ

前項ノ票紙ニ印刷シタル切手印面金額ハ之ヲ預入金ニ加算ス

第四十九條 郵便切手貯金票紙ハ私製ノモノヲ使用スルコトヲ得

前項票紙ノ紙質、寸法及必要ナル欄割ハ郵便官署發行ノモノト同様ナルコトヲ要ス但シ郵便切手印面ヲ印刷スルコトヲ得ス

第五十條 郵便切手ニ依ル貯金ノ預入ハ一人一箇月一四ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル者アルトキハ其ノ制限超過額ヲ無効トシ其ノ消印シタル郵便切手ニ對シテハ之カ代償ヲ爲サス

第三節 證券預入

第五十一條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

前項ノ證券ニシテ割増金附ノモノナルトキハ其ノ割増金モ共ニ預入スルコトヲ得

郵便貯金ニ預入スル證券ニシテ所得税ヲ課セラルルモノハ其ノ所得稅額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ貯金預入額トス

第五十二條 證券ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ證券ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入ヲ受クヘシ但シ證券ニ支拂期ノ明記ナキモノハ預ケ人ニ於テ其ノ支拂期ノ開始セルモノナルコトヲ證明スヘシ

第四節 局所外預入

第五十三條 一定ノ場所及日時ニ於テ預金ノ預入ヲ爲ス者多數アルトキハ郵便局所ハ其ノ預ケ人ノ請求ニ依リ吏員ヲ派出シ之カ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第五十四條 郵便局ノ郵便區市外ニ在ル預金預ケ人ハ當該郵便局ノ郵便集配人ニ依リ預入ヲ爲スコトヲ得但シ證券ニ依ル預入ハ此ノ限ニ在ラス
郵便集配人ニ於テ貯金ノ取扱ヲ爲スヘキ場所及日時ハ所轄郵便局長ノ揭示スル所ニ依ル

第五十五條 郵便局所ノ派出吏員又ハ郵便集配人ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ指定ノ場所又日時ニ於テ貯金預入申込書又ハ通帳ニ預入金ヲ添ヘ之ヲ派出吏員又ハ郵便集配人ニ交付シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

同一ノ場所及日時ニ於テ預入ヲ爲サムトスル者多數アルトキハ取纏メ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ取纏人ニ於テ各預ケ人ノ氏名金額等ノ内譯書ヲ調製シ之ヲ添附スヘシ

第五十六條 前條ニ依リ取扱ヲ爲シタル貯金ニ對シテハ所轄郵便局所ニ於テ相當手續ヲ爲シタル上通帳ハ預入ノ日ヨリ起算シ三日以内ニ前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ交付ス但シ取纏メ預入ヲ爲シタルモノナルトキハ之ヲ其ノ取纏人ニ交付ス

第五十七條 貯金預ケ人前條ノ期間内ニ通帳ノ交付ヲ受ケサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ當該郵便局長又ハ所轄一等郵便局長ニ申告スヘシ

第三章 貯金拂戻

第一節 通則

第五十八條 貯金拂戻證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ起算シ六十日トス

第五十九條 貯金預ケ人貯金ノ一部拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ五十錢以上ノ貯金ヲ殘シ置クヘシ
 第六十條 貯金預ケ人ハ貯金ノ一部拂戻ノ場合ニ於テハ十錢未満ノ端數及未タ元金ニ加ヘサル利子ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第二節 通常拂戻

第六十一條 貯金預ケ人貯金ノ一部拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻請求書ヲ調製シ之ヲ郵便局所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第六十二條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求セムトスルトキハ前條ノ例ニ依リ貯金拂戻請求書ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出し通帳受領證ヲ受取ルヘシ但シ請求書ニハ拂戻金額ヲ記載セス其ノ餘白ニ全拂ノ文字ヲ附記スヘシ

第六十三條 前二條ノ貯金拂戻請求ニ對シテハ郵便局所貯金管理所又ハ同支所ニ於テ其ノ請求書ヲ預入申込書及預ケ人原簿ニ對照シ印鑑其ノ他ニ相違ナキヲ認メタル上拂戻證書ヲ調製シ之ヲ請求人ニ送達シ拂戻請求書ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第六十四條 貯金拂戻請求人拂戻證書ノ送達ヲ受ケタル

トキハ其ノ證書ニ受領證印ヲ爲シ之ニ通帳又ハ通帳受領證ヲ添ヘ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

拂渡郵便局所ハ拂戻證書ヲ拂戻請求書ニ對照シ拂戻金額、通帳記號番號、預ケ人ノ氏名及印鑑ノ符合スルヲ認メタル上拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ノ場合ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第六十五條 左ノ場合ニ於テハ拂渡郵便局所ニ於テ拂戻金ノ拂渡ヲ停延ス

- 一 拂戻證書遺失ノトキ
- 二 拂戻請求書遺失ノトキ
- 三 拂戻請求書未達ノトキ
- 四 拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セザルトキ
- 五 拂渡資金缺乏ノトキ

拂戻金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ當該郵便局所ニ於テ拂戻證書ノ裏面ニ其ノ事由及豫定日數ヲ記載證印シ之ヲ請求人ニ返付ス

第六十六條 郵便局所ハ拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セザル場合ニ於テハ其ノ少ナキ金額ヲ限度トシ又拂渡資金缺乏ノ場合ニ於テハ其ノ拂渡シ得ル金額ヲ限度トシ拂戻請求人ノ請求ニ依リ拂戻金ノ假拂ヲ爲ス

第六十七條 貯金拂戻請求人前條ニ依リ拂戻金ノ假拂ヲ

受クルトキハ其ノ受領證ヲ差出し且拂戻證書ヲ呈示シテ之ニ假拂金ノ記入ヲ受クヘシ但シ拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セザル場合ニ於テ拂戻證書ニ記載シタル金額ノ拂渡ヲ受クルモノナルトキハ拂戻證書ニ受領證印スヘシ

第六十八條 郵便局所ハ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ニ於テ其ノ事故判明シ又ハ資金充實シテ拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキ若ハ停延期間ノ延長ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第六十九條 郵便局所ニ於テ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル爲經過シタル日數ハ拂戻證書ノ有効期間ニ算入セス

第七十條 貯金預ケ人拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ通帳ノ記號番號、拂戻金額、原拂渡郵便局所名及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名等ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第七十一條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ郵便官署ニ再度拂戻證書ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得

- 一 拂戻證書ヲ亡失シタルトキ
- 二 拂戻證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三 拂戻證書有効期間ヲ經過シタルトキ

再度拂戻證書ノ請求ニ對シテハ證書一枚ニ付料金三錢ヲ徴收ス

第七十二條 貯金預ケ人再度拂戻證書ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳記號番號、拂戻金額並ニ請求ノ事由等ヲ記載シタル請求書ニ記名調印シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ原證書アルモノハ之ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

第七十三條 郵便官署ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ原證書ニ對シ拂渡ヲ爲ササルコトヲ確メタル上再度拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

第七十四條 再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス

第七十五條 貯金預ケ人拂戻證書ノ交付ヲ受ケタル後現金受領ノ必要ナキニ至リタルトキハ其ノ拂戻金ノ戻入ヲ請求スルコトヲ得但シ貯金全部拂戻ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

拂戻金戻入ノ請求アリタルトキハ其ノ請求ノ日ニ於テ貯金ノ預入ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十六條 貯金預ケ人拂戻金ノ戻入ヲ請求セムトスルトキハ拂戻證書ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上

之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ但シ證書ヲ亡失シタルモノ又ハ毀損汚斑シテ不判明トナリタルモノハ通帳記號番號、拂戻金額、拂渡郵便局所名等ヲ記載シタル戻入請求書ヲ差出スヘシ
郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ通帳ニ拂出及受入ノ記入ヲ爲シ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第三節 特殊拂戻

第七十七條 貯金預ケ人ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ檢閱濟ノ證印ヲ爲シタル貯金現在金額ニ付テハ何レノ郵便局所ニ於テモ一日三十圓以内、一箇月總額百圓迄ヲ限リ即時拂ヲ請求スルコトヲ得通帳ニ預入金ヲ記入シタル郵便局所ニ對シ其ノ記入金額ニ付拂戻ヲ請求スル場合亦同シ

第七十八條 貯金預ケ人貯金ノ即時拂ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ
郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ受領證ニ捺捺シタル印影ト通帳ニ捺捺シタル印鑑ト對照シ相違ナキヲ認メタル上請求人ニ拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ノ場合ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人

ニ返付ス
第七十九條 貯金預ケ人貯金全部ノ即時拂ヲ請求シタル場合ニ於テ元金ニ組入レタルト否トヲ問ハス通帳ニ記入セラレタル利子アルトキハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ニ對スル拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

第八十條 貯金預ケ人郵便局所ニ於テ豫メ特別即時拂取扱ノ承認ヲ受ケタルトキハ第七十七條ノ場合ニ於テ金額ニ制限ナク當該郵便局所ニ貯金ノ即時拂ヲ請求スルコトヲ得
第八十一條 貯金預ケ人最初預入ノ際特別即時拂取扱ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ貯金預入申込書ト共ニ其ノ副本ヲ郵便局所ニ差出スヘシ
既ニ通帳ヲ所持スル者特別即時拂取扱ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ郵便局所ニ通帳ヲ呈示シ且貯金預入申込書副本ヲ差出スヘシ
郵便局所ニ於テ特別即時拂取扱ヲ承認スルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

第八十二條 貯金預ケ人ハ別ニ告示スル郵便局所ニ於テ其ノ受持郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ屬スル貯金ノ全部又ハ一部ノ局待拂ヲ請求スルコトヲ得
人ノ貯金ヨリ拂出シ保管ニ係ル證券ノ利子、償還金及賣却代金ハ預ケ人ノ貯金ニ組入ル貯金ニ組入レタル證券利子ハ預ケ人ヨリ元加利子ノ記入又ハ檢閱ヲ受ケル爲通帳ヲ提出シタルトキ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ通帳ニ記入ス

第八十三條 貯金預ケ人局待拂ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ
郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於ケル預入申込書及預ケ人原簿ニ對照シ相違ナキヲ認メタル上之カ拂渡ヲ爲ス

第四章 證券購入保管及賣却

第一節 通則

第八十四條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入保管スヘキ證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス
第八十五條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入シ又ハ賣却スル證券ノ價格ハ郵便爲替貯金管理所ニ其ノ請求書ノ到着シタル日ヨリ起算シ第三日目ニ於ケル東京ノ相場ニ依ル

第八十六條 證券購入保管又ハ賣却ニ關スル料金ハ別ニ之ヲ告示ス但シ公共團體ヨリ其ノ所有ニ係ル證券ノ保管ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ保管金ヲ徴收セス(三十九年通借令第十九號ヲ以テ但書追加)
第八十七條 郵便官署ニ於テ購入スル證券ノ代金ハ預ケ

人ノ貯金ヨリ拂出シ保管ニ係ル證券ノ利子、償還金及賣却代金ハ預ケ人ノ貯金ニ組入ル貯金ニ組入レタル證券利子ハ預ケ人ヨリ元加利子ノ記入又ハ檢閱ヲ受ケル爲通帳ヲ提出シタルトキ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ通帳ニ記入ス
第八十八條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求スルトキ若ハ貯金讓渡ノ場合ニ於テ貯金ニ屬スル證券ノ讓渡ヲ爲ササルモノナルトキハ同時ニ郵便官署ニ於テ保管ニ係ル證券ノ交付ヲ請求スヘシ
第八十九條 貯金預ケ人ハ其ノ所有ニ係ル證券ノ保管ヲ郵便官署ニ請求スルコトヲ得
前項ニ依ル保管證券ハ貯金ヲ以テ購入シタルモノト看做シ之ヲ取扱フ
第九十條 本章ノ規定ハ第五條第二項ニ依ル國債證券ノ購入保管ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 證券購入及保管

第九十一條 貯金預ケ人證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券購入請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第九十二條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ證券ヲ購入シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ郵便局所ニ貯金通帳ヲ差出シ之ニ證券代金ニ對スル拂出金ノ記入ヲ受ケ且初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ受取リ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ差出シ之ニ證券ノ種類記號番號額面金高等ノ記入ヲ受ケヘシ

第九十三條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ貯金預ケ人ノ指定ニ係ル證券ヲ購入シ得サルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第九十四條 貯金預ケ人第八十九條ニ依ル證券ノ保管ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券保管請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ證券ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ且初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ貯金通帳ヲ呈示シ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ差出スヘシ
郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ請求人ニ證券假受領書ヲ交付シ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ニ證券ノ種類記號番號額面金高等ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第九十五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ證券ヲ受取リタルトキハ證券保管原簿ニ登記シ初度ノ請求ニ係ルモノハ證券保管通帳ヲ調製シ之ヲ請求人ニ送付シ再度以後ノ請求ニ係ルモノハ原簿登記簿ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第九十六條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ證券ノ償還金ヲ貯金ニ組入レタルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス
貯金預ケ人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ之ニ證券拂出及償還金受入ノ記入ヲ受ケヘシ

第三節 證券交付及賣却

第九十七條 貯金預ケ人證券ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券交付請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第九十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求人指定ノ郵便局所ニ證券及交付請求書ヲ送付シ且其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス
請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ之ニ證券拂出ノ記入ヲ受ケ且交

付請求書ニ受領證印シテ證券ヲ受取ルヘシ

第九十九條 貯金預ケ人證券ノ賣却ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券賣却請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人前項ノ場合ニ於テ其ノ賣却代金ノ一部又ハ全部ノ拂渡ヲ受ケムトスルモノナルトキハ賣却請求書ノ餘白ニ一部拂又ハ全部ノ文字ヲ附記スヘシ (四十年逓信省令第一號ヲ以テ本項改正)

第一百條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ證券ヲ賣却シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス但シ賣却代金ノ全部拂渡ヲ要スルモノナルトキハ其ノ代金ニ相當スル貯金拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達シ賣却請求書ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス (同上ヲ以テ改正)

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ通帳ニ證券拂出及賣却代金受入ノ記入ヲ受ケ又貯金拂戻證書ヲ送達ヲ受ケタルトキハ當該拂戻證書ニ受領證印シ證券保管通帳ト共ニ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出シ現金ヲ受領シ且通帳ニ證券拂出ノ記入ヲ受ケヘシ (同上)

第一百一條 證券賣却代金ノ一部拂渡ヲ要スルモノニ對シテハ第七十八條ヲ準用シ又其ノ全部拂渡ヲ要スルモノニ對シテハ貯金全部拂戻ニ關スル規定ヲ準用シテ之カ拂渡ヲ爲ス (同上)

第五章 特別貯金

第一節 規約貯金

第一百二條 組合規約ニ依リ拂戻ニ制限ヲ付シテ預入シタル貯金ハ之ヲ規約貯金トス
規約貯金ニ屬スル保管證券ノ交付及賣却ニ關シテハ規約貯金ノ拂戻ト同様ノ制限ヲ付シタルモノト看做シ本節ノ規定ヲ準用ス (同上ヲ以テ本項追加)

第一百三條 規約貯金ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ組合代表者ニ於テ組合ノ名稱、所在地並ニ拂戻及組合脱退ノ承認ニ關スル證明方法ヲ記載シタル請求書二通ヲ郵便局所ニ差出スヘシ
郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ承認スルトキハ其ノ旨ヲ代表者ニ通知ス

第一百四條 組合員新ニ規約貯金ノ預入ヲ爲ス場合ニ於テハ貯金預入申込書ニ組合ノ名稱及規約貯金ノ旨ヲ附記シ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出スヘシ

第五條 規約貯金ノ通帳ニハ郵便局所ニ於テ其ノ表紙ニ拂戻制限ノ旨ヲ附記ス

第六條 通常貯金通帳ハ之ヲ規約貯金ニ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ通帳ヲ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ之ニ拂戻制限ニ關スル微號ノ附記ヲ受クヘシ

第七條 組合員他ノ規約組合ニ轉シタルトキハ舊組合ニ於テ使用セシ通帳ヲ新組合ニ於テ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳ヲ新組合ニ對シ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第八條 規約貯金預ケ人ハ其ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ヲ除ク外他ノ郵便局所ニ於テ貯金ノ特殊拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ局待拂ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 規約貯金ノ拂戻ヲ請求セムトスル者ハ拂戻承認ニ關スル證明ヲ具シ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

第十條 組合ニ於テ拂戻及組合脱退ノ承認ニ關スル證明方法ヲ變更シタルトキハ組合代表者ニ於テ其ノ届書ニ通テ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出ス

第十一條 組合ニ於テ拂戻制限ニ關スル規約ヲ解除シ若ハ組合ヲ解散スルトキハ代表者ニ於テ直ニ其ノ旨ヲ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ届出ツヘシ

第十二條 規約貯金預ケ人組合ヲ脱シタルトキハ通帳ニ組合脱退承認ニ關スル證明書ヲ添ヘ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ拂戻制限ニ關スル微號ノ取消ヲ受クヘシ

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ其ノ預ケ人他ニ通常貯金通帳ヲ所持スルトキハ共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通常貯金通帳ニ規約貯金ノ轉記ヲ受クヘシ

第十四條 一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル貯金ハ之ヲ据置貯金トス

第十五條 新ニ据置貯金ノ預入ヲ爲サムトスルモノハ貯金預入申込書ニ其ノ据置期間ヲ明記スヘシ

第十六條 貯金預ケ人其ノ貯金ヲ据置貯金ト爲サムトスルニ於テ貯金預入申込書ニ其ノ旨ヲ附記シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十七條 据置貯金ノ通帳ニハ郵便局所ニ於テ其ノ表紙ニ据置貯金ノ旨ヲ附記ス

第十八條 据置貯金ハ据置期間満了ノ後ニ非ラサレハ其ノ拂戻ヲ爲サス其ノ貯金ヲ以テ購入シタル證券ノ交付ニ付テモ亦同シ

第十九條 据置貯金ノ預ケ人ハ据置期間満了ノ際ニ於テ其ノ期間ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第十六條ノ例ニ依リ郵便局所ノ承認ヲ受クヘシ

第二十條 据置貯金ノ預ケ人其ノ期間満了ノ際他ニ通常貯金通帳ヲ所持スルトキハ共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通常貯金通帳ニ据置貯金ノ轉記ヲ受クヘシ

第二十一條 貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者共同シ總代人ノ名義ヲ以テ預入スル貯金ハ之ヲ共同貯金トス

第二十二條 共同貯金ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ其ノ總代人ニ於テ貯金預入申込書ニ其ノ旨ヲ附記シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第二十三條 總代人ハ隨時貯金預入票用紙ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳記號番號及所要數量ヲ記載シタル請求書ヲ通帳ノ交付ヲ受ケタル郵便局所ニ差出スヘシ

第二十四條 貯金預入票用紙ハ私製ノモノヲ使用スルコトヲ得

第二十五條 總代人ハ貯金預入票用紙ノ相當欄ニ自己ノ住所氏名ヲ記入シ私製ノモノニアリテハ尙通帳記號番號ヲ記入シ之ヲ各共同者ニ配付スヘシ

第二十六條 總代人ハ貯金預入票用紙ヲ各共同者ニ配付スル爲メ送達ヲ郵便局所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ用紙ニ封封ヲ施シ其ノ表面ニ配付ヲ要スル共同者ノ住所氏名ヲ記載シ郵便局所ニ差出スヘシ

第二百二十七條 共同貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ預入
票用紙ニ相當事項ヲ記載シ預入金ト共ニ郵便局所ニ差
出シ預入金受領證ヲ受取ルヘシ

多敷ノ者同時ニ前項ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ之ヲ
取纏メ一枚ノ預入票ヲ以テ其ノ預入ヲ爲スコトヲ得此
ノ場合ニ於テハ取纏人ニ於テ預入票ニ相當事項ヲ記載
シ且其ノ裏面ニ各預入者ノ氏名及金高ヲ附記シ又ハ別
ニ内譯書ヲ添ヘ差出スヘシ

第二百二十八條 前條ノ預入金ハ郵便爲替貯金管理所又ハ
同支所ニ於テ之ヲ其ノ總代人名義ノ共同貯金ニシテ預
ケ人原簿ニ登記シ預入票ヲ總代人ニ送付ス

第二百二十九條 總代人前條預入票ノ送付ヲ受ケタルトキ
ハ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ預入金ノ記入ヲ受クヘ
シ但シ同時ニ多敷ノ記入ヲ要スルモノニシテ其ノ預入
月ノ同一ナルモノハ郵便局所ニ於テ之ヲ取纏メ通帳ニ
記入ス

第三百十條 貯金預ケ人ハ自己名義ノ貯金ヲ共同貯金ニ
組替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ預入票ニ組
替ノ旨ヲ附記シ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳
受領證ヲ受取ルヘシ
前項貯金ノ組替ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ

貯金ノ一部組替ヲ要スルモノナルトキハ其ノ組替金額
ヲ通帳ニ記入シ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付
ス

第三百十一條 共同貯金ノ組合ヲ解除シタルトキハ總代
人ニ於テ其ノ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ
第四節 海外貯金

第三百十二條 我郵便局所ノ設置ナキ外國ニ在留スル本
邦人郵便貯金ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ適宜ノ用紙
ニ本籍、現住所、職業、氏名及初度預入金額ヲ記載シ且
自己ノ印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ
宛テ送付シ預入金ハ郵便爲替ニ依リ之ヲ同所ニ送付ス
ヘシ但シ預ケ人ノ現住所及氏名ハ邦文ヲ以テ記載スル
ノ外尙在留國ノ文字ヲ以テ明瞭ニ附記スヘシ

第三百十三條 前條ニ依リ預入ヲ爲シタル者再度以後ノ
預入ヲ爲サムトスルトキハ其ノ預入金ヲ郵便爲替ニ依
リ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第三百十四條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前二條ニ依リ
送付ヲ受ケタル爲替金ハ郵便貯金ニ振替受入レ之ヲ預
ケ人原簿ニ登記ス
第三百十五條 海外貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ受ケムトス
ルトキハ適宜ノ用紙ニ本籍、現住所氏名及拂戻金高ヲ

記載シ且印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ヲ郵便爲替貯金管理所
ニ送付スヘシ但シ預ケ人ノ現住所及氏名ハ邦文ヲ以テ
記載スルノ外尙在留國ノ文字ヲ以テ明瞭ニ附記スヘシ

第三百十六條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ
受ケタルトキハ其ノ拂戻金ヲ郵便爲替ニ依リ之ヲ請求
人ニ送付ス此ノ場合ニ於テハ爲替料ヲ請求人ノ貯金ヨ
リ控除ス

第三百十七條 海外貯金預ケ人ハ第三百十五條ノ例ニ準
シ内國在住者ヲ指定シ之ニ貯金ノ拂戻ヲ請求スルコト
ヲ得

郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキ
ハ拂戻證書ヲ發行シ之ヲ指定ノ受取人ニ送達ス

第三百十八條 海外貯金預ケ人其ノ貯金ニ關シ各種ノ請
求又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ請
求書又ハ届書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付
スヘシ

第三百十九條 海外貯金預ケ人歸國シタルトキハ速ニ通
帳ノ交付ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スヘシ此ノ場合
ニ於テハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ通帳交付
請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付シ又ハ
郵便局所ニ差出スヘシ

郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキ
ハ通帳ヲ發行シ之ヲ郵便局所ニ送付シ其ノ旨ヲ請求人
ニ通知ス

第三百十四條 請求人前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ
其ノ通知書ニ受領證印シ又ハ別ニ通帳受領證ヲ調製シ
テ之ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ且正當預ケ人タルコト
ヲ證明シタル上通帳ノ交付ヲ受クヘシ

附則
第三百十一條 本規則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ
施行ス

郵便貯金條例施行細則、郵便切手貯金規則、證券郵便
貯金規則、特別郵便貯金規則、規約貯金特別取扱規則
郵便集配人取集郵便貯金規則及明治三十七年十二月十二日遞信
省令第七十二號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三百十二條 郵便貯金振替計算ニ關スル規定ハ別ニ之
ヲ定ム

●郵便貯金利子割合 (明治三十八年五月
勅令第三百六十六號)
郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ年五分四毛トス但シ
千圓以上ノ預入金ニ對シテハ省令ヲ以テ利子ノ割合ヲ
低減スルコトヲ得

振替計算ノ爲ニスル郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ前項ノ規定ニ拘ラス年三分六厘トス(三十九年勅令第十三號ヲ以テ本項追加)

三十九年勅令第十三號附則

本令ハ明治三十九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便爲替法(明治三十三年三月法律第五十五號)

- 第一條 郵便爲替ハ通常爲替電信爲替及小爲替ノ三種トス
- 第二條 通常爲替證書及小爲替證書ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外差出人ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス電信爲替證書ハ郵便官署ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス
- 第三條 郵便官署ハ差出人ノ請求ニ因リ通常爲替證書及電信爲替證書ニ對スル郵便爲替金ノ拂渡前ニ於テ其ノ拂渡ヲ停止シ又ハ其ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 郵便爲替ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス
- 第五條 郵便官署ハ受取人ノ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第六條 郵便爲替ニ關スル書類ニ付テハ印紙稅ヲ課セス
- 第七條 郵便爲替金額ノ制限及郵便爲替ニ關スル料金ハ

命令ノ定ムル所ニ依ル

- 第八條 郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ
- 第九條 郵便爲替ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス
- 第十條 郵便爲替證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ通常爲替及電信爲替ニ在リテハ九十日小爲替ニ在リテハ六十日トス
- 前項ノ期間ハ交通不便ノ地方ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得
- 第十一條 郵便官署ニ於テ郵便爲替金ノ拂渡ヲ遲延シタル爲經過シタル日數ハ前條ノ有効期間ニ算入セス
- 第十二條 郵便爲替證書ノ有効期間ヲ經過シタルトキ又ハ郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ差出人又ハ受取人ニ於テ再度證書ノ交付又ハ爲替金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
- 再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス
- 第十三條 郵便爲替證書ノ有効期間滿了ノ日ヨリ三箇年間前條ノ請求ヲ爲ササルトキハ其ノ郵便爲替金ハ國庫ノ所有ニ歸ス
- 第十四條 成規ノ手續ヲ經テ爲替金ヲ交付シタルトキハ

正當ノ拂渡ヲ爲シタルモノト看做ス

- 第十五條 郵便官署ハ郵便爲替金拂渡ノ遲延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス
- 第十六條 郵便爲替ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ其ノ規定ニ依ル

附則

- 第十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 郵便條例第十二章及第二百四十二條ハ之ヲ廢止ス
- 第十八條 本法施行前ニ發行シタル郵便爲替證書及郵便小爲替證書ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス但シ本法施行前其ノ有効期間滿了シタルモノニ在リテハ第十三條ノ期間ハ五箇年トシ其ノ有効期間滿了セサルモノニ在リテハ第十條第一項ノ期間ハ郵便爲替證書ニ付テハ百二十日郵便小爲替證書ニ付テハ六十日トス

●郵便爲替規則(明治三十三年九月號 信省令第四十五號)

- 第一章 總則
- 第二章 通常爲替
- 第一節 振出
- 第二節 拂渡
- 第三節 拂渡停止及拂戻
- 第四節 拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

- 第三章 電信爲替
- 第四章 小爲替
- 第五章 再度證書
- 第六章 郵便爲替金拂渡通知
- 第七章 郵便爲替貯金居宅拂

第一章 總則

- 第一條 郵便爲替ハ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所ハ此ノ限ニ在ラス
- 郵便爲替貯金管理所ハ特ニ指定シタル郵便爲替ニ限リ之ヲ取扱フ
- 第二條 郵便爲替證書一枚ノ金額制限ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ
 - 一 通常爲替 金五十圓
 - 一 電信爲替 金五十圓
 - 一 小爲替 金五圓
- 通常爲替及小爲替ノ金額ハ厘位未滿電信爲替ノ金額ハ圓位未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得ス
- 第三條 郵便爲替證書一枚ノ爲替料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

金額十圓以内	六錢
同 二十圓以内	十錢
同 三十圓以内	十五錢
同 四十圓以内	十八錢
同 五十圓以内	二十二錢
金額十圓以内	三十錢
同 二十圓以内	三十五錢
同 三十圓以内	四十錢
同 四十圓以内	四十五錢
同 五十圓以内	五十錢
小爲替	三錢

第三條ノ二 郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ノ事務ニ關シ當該官署相互間又ハ當該官署ト其ノ官吏トノ間ニ受授スル官金及逓信大臣ニ於テ特ニ必要ト認メタル者ノ間ニ受授スル金員ハ無料通常爲替ト爲スコトヲ得前項ノ無料通常爲替ニ對シテハ其ノ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ付セス (三十七年逓信省令第十三號ヲ以テ追加)

第四條 郵便爲替ノ差出人及受取人ハ各一名ニ限ル

第五條 郵便爲替證書ハ任意ニ讓渡スコトヲ得ス但シ小爲替證書ニシテ受取人ノ指定ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 代人ヲ以テ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ニ於テ其ノ請求書證書等ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代人ハ請求書證書等ニ代人タルノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

第七條 法人又ハ法人ニアラサル團體ヨリ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ請求書證書等ニ其ノ名稱ヲ記載調印スルカ又ハ其ノ代表者若ハ金錢ノ出納ヲ掌ル者ニ於テ其ノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

第八條 印章ヲ所有セサル爲メ本規則ニ規定スル各種ノ請求書證書等ニ調印スルコト能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ記名調印セシムヘシ

第九條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替金ノ受領證書ノ提出又ハ呈示ヲ要スル場合ニ於テ亡失等ノ爲メ之ヲ提出又ハ呈示シ能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ其ノ證明書ヲ差出スヘシ

第十條 千島國琉球國小笠原島伊豆諸島臺灣及樺太ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル郵便爲替證書ノ有效期間ハ百二十日トス但シ同一國內又ハ同一島内ニ取組ミタルモノハ此限ニ在ラス

千島國及樺太ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル通常爲替證書及電信爲替證書ニ對シテハ毎年十二月一日ヨリ翌年四月三十日マテハ其ノ有效期間ニ算入セス (四十年逓信省令第十號ヲ以テ本條改正)

第十一條 郵便爲替ニ關シ當該事務員ノ過失ニ因リ左ノ事故ヲ生シタルトキハ差出人又ハ受取人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ其ノ既納ノ料金ヲ還付ス

一 電信爲替證書ノ送達ヲ通常爲替證書ノ到達スヘキ制限ニ後レシメ因テ該爲替金ノ拂戻トナリタルトキ

二 郵便爲替ノ特殊取扱ニ關シ料金ノ納付ヲ要シタル手續ヲ脱漏シタルトキ

前項ノ請求ハ郵便爲替證書有效期間満了後三箇月以内ニ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ

第二章 通常爲替

第一節 振出

第十二條 通常爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ通常爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ通常爲替證書及通常爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

前項通常爲替振出請求書ニハ差出人及受取人ノ商標、

商號又ハ其ノ他ノ符號ヲ附記スルコトヲ得

第十三條 振出郵便局所ハ郵便ニ依リ前條通常爲替振出請求書ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第十四條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際豫メ一定ノ期間ヲ限リ其ノ爲替金拂渡猶豫ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替振出請求書ニ猶豫スヘキ日數ヲ記載スヘシ

第十五條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際通常爲替證書ノ送達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替證書一枚毎ニ金五錢ヲ納付スヘシ

前項ノ請求ヲ爲シタル差出人ハ通常爲替振出請求書餘白ニ爲替金送付ノ目的ヲ記載シ自己ノ宿所氏名ト共ニ受取人ニ之レカ通知ヲ請求スルコトヲ得

前項爲替金送付ノ目的ハ通常爲替證書送達ノ際其ノ餘白ニ記入スルモノトス

第十六條 通常爲替ノ受取人所在不明等ノ爲前條ノ通常爲替證書ヲ送達スルコト能ハサルトキハ之ヲ差出人ニ返付ス

第十七條 通常爲替ノ差出人爲替振出後通常爲替振出請求書ニ自己又ハ受取人ノ宿所氏名等ヲ誤記シタルコトヲ覺知シタルトキハ振出郵便局所ニ訂正請求書ヲ差出

シ郵便又ハ電信ニ依リ拂渡郵便局所ニ訂正事項ノ通知ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替受領證書ヲ呈示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ差出人ハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第十八條 振出郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二節 拂渡

第十九條 通常爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第二十條 拂渡郵便局所ハ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ通常爲替振出請求書ニ記載シタル事項ニ符合スルヲ認メ爲替金ノ拂渡ヲ爲スモノトス但シ第十五條第二項ノ請求アルモノニ對シテハ本條第一號ノ尋問ヲ省略スルトアルヘシ

- 一 差出人ノ宿所氏名
- 二 受取人ノ宿所氏名
- 三 前各號ノ外拂渡上必要ト認ムル事項

第二十一條 通常爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚損シタルモノトス

- 一 爲替金額
- 二 爲替證書ノ記號番號
- 三 爲替證書ヲ發行シタル郵便局所主務者ノ記名調印

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ爲替金ノ拂渡ヲ停延ス

- 一 通常爲替證書遺失ノトキ
- 二 通常爲替振出請求書遺失ノトキ
- 三 通常爲替振出請求書未達ノトキ
- 四 通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサルトキ
- 五 拂渡資金缺乏ノトキ

第二十三條 拂渡郵便局所ニ於テ爲替金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ通常爲替證書ノ裏面ニ其ノ事由及日數ヲ記載證印シ之ヲ受取人ニ返付ス

第二十四條 第二十二條ニ依リ爲替金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ト雖其ノ停延期間内ニ事故判明スルカ又ハ資金充實シ拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキハ直ニ之ヲ受取人ニ通知ス

第二十五條 通常爲替ノ受取人ハ通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサル場合ニ於テ其ノ少ナキ

金額ヲ限度トシ爲替金ノ假拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 通常爲替ノ受取人通常爲替證書ノ金額ニ符合セサル爲替金ヲ受取ルトキハ通常爲替證書裏面ニ其ノ金額ヲ記載シ記名調印スヘシ

第三節 拂渡停止及拂戻

第二十七條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂渡停止ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

前項ノ請求ヲ受ケタル郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ニ通知ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二十八條 郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二十九條 第二十七條ノ規定ハ通常爲替ノ差出人爲替金拂渡停止ノ解除ヲ請求セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ振出郵便局所ニ差出スヘシ

テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 通常爲替ノ差出人通常爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚損シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ郵便爲替金拂戻請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ振出郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

振出郵便局所ハ拂渡郵便局所ニ於テ其ノ爲替金ノ拂渡ナキコトヲ確認シタル後前項ノ郵便爲替金拂戻請求書ニ拂戻認可ノ旨ヲ記載シ之ヲ差出人ニ返付ス

差出人ハ前項ノ郵便爲替金拂戻請求書中爲替金受領證印ノ部ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條 第三十條第二項及第三十一條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第三十三條 本章第二節ノ規定ハ通常爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス